

自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会報告書(平成25年度)

[第1分冊]

事業用自動車の交通事故の傾向分析

平成26年3月

国土交通省自動車局

自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会

平成25年度「自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会」委員名簿（順不同・敬称略）

委員	酒井 一博	公益財団法人労働科学研究所 所長
〃	堀野 定雄	神奈川大学 工学研究所 客員教授
〃	小野 古志郎	一般財団法人日本自動車研究所 技監・研究主幹
〃	下光 輝一	東京医科大学 名誉教授
〃	波多野 忠	独立行政法人交通安全環境研究所 自動車安全研究領域 主席研究員
〃	西田 泰	公益財団法人交通事故総合分析センター 研究部研究第1課長
〃	小島 公平	独立行政法人自動車事故対策機構 理事（事故防止担当）
〃	丸山 一朗	損害保険料率算出機構自賠責損害調査センター 損害調査部長
〃	栗原 浩	公益財団法人日弁連交通事故相談センター 常務理事
〃	相川 春雄	公益社団法人日本バス協会 安全輸送委員会委員
〃	山本 慎二	公益社団法人全日本トラック協会 交通対策委員会委員
〃	榎元 紀二郎	一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会 交通安全委員会委員
〃	関 政治	全日本交通運輸産業労働組合協議会 事務局長
〃	増井 潤	一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 常務理事
〃	杉浦 秀明	一般社団法人日本自動車工業会 大型車部会長

オブザーバー	山下 博	公益社団法人日本バス協会 技術安全部長
〃	永嶋 功	公益社団法人全日本トラック協会 審議役
〃	小菅 孝嗣	一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会 常務理事
〃	田中 勇彦	一般社団法人日本自動車工業会安全部会・交通事故分析分科会 副分科会長

行政：警察庁交通局交通企画課
厚生労働省労働基準局
国土交通省大臣官房運輸安全監理官室、道路局環境安全課道路交通安全対策室、
運輸安全委員会、自動車局技術政策課、旅客課、貨物課、整備課、
安全政策課保障制度参事官室、安全政策課（事務局）

背景

交通事故の多くは、見かけ上運転者の運転操作ミスや交通違反等の人的要因によって発生しているので、第一義的には、運転者の教育・指導が肝要であるとされている。

しかし、事故の直接の原因が運転者であったとしても、その背景に運転操作を誤ったり、交通違反をせざるを得なかったりすることに繋がる要因・背景が潜んでいることが少なくない。特に、自動車運送事業用自動車（以下「事業用自動車」という）にあっては、運行を管理しているのは、運転者自身でなく、雇い主等であり、何らかの制約の中で運転業務を行っているのが通常であるため、事業者が運輸安全マネジメントにより事故を防止する取組みを推進するために、事故の原因を追及し改善策を検討する必要がある。

平成 11 年 6 月の運輸技術審議会の答申「安全と環境に配慮した今後の自動車交通政策のあり方について」には、「安全対策を効果的に実施するため、必要な分野について、特に詳細な分析、いわば事故の『解剖』を行うとともに、具体的なプログラムに沿って全国的な情報収集ネットワークを構築することが必要である。」と述べられており、具体的な手法として、運輸支局又は地方運輸局（以下「運輸支局等」という）が自ら事故事例を収集し、詳細な調査を実施するとともに、自動車交通及び安全解析に携わる関係専門家により、運輸支局等が収集した事故情報を詳細に分析し、再発防止を意図した交通安全対策に活かしていく必要があるとされている。

これらのことから、事業用自動車の事故について、事故の経過、運転者の状況、運行管理の状況、車両の状況等の情報を収集し、さらに、収集した事故情報を効果的に再発防止対策の立案に反映させるために、事故発生の要因及び背景を主に 4 つの要素（運転者面 (Man)、車両面 (Machine)、走行環境面 (Media)、管理面 (Management)) の 4 M 側面に整理し、科学的な究明・分析を行うことを目的として、平成 11 年度から一部の地域でモデル的に開始した「自動車事故対策パイロット事業」を足がかりに、平成 13 年度から「自動車運送事業に係る交通事故要因分析事業」として実施しているところである。

< 目 次 >

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車事故件数の推移	4
1-3. 自動車事故死者数の推移	8
1-4. 自動車死亡事故件数の推移	12
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故	16
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故	20
2. バスの事故	22
2-1. 乗合バスの事故	24
2-2. 貸切バスの事故	35
3. タクシーの事故	42
4. トラックの事故	50

附録. 事業用自動車の交通事故統計（平成 24年版）

【凡例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の事故によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。

1. 事故全体の傾向

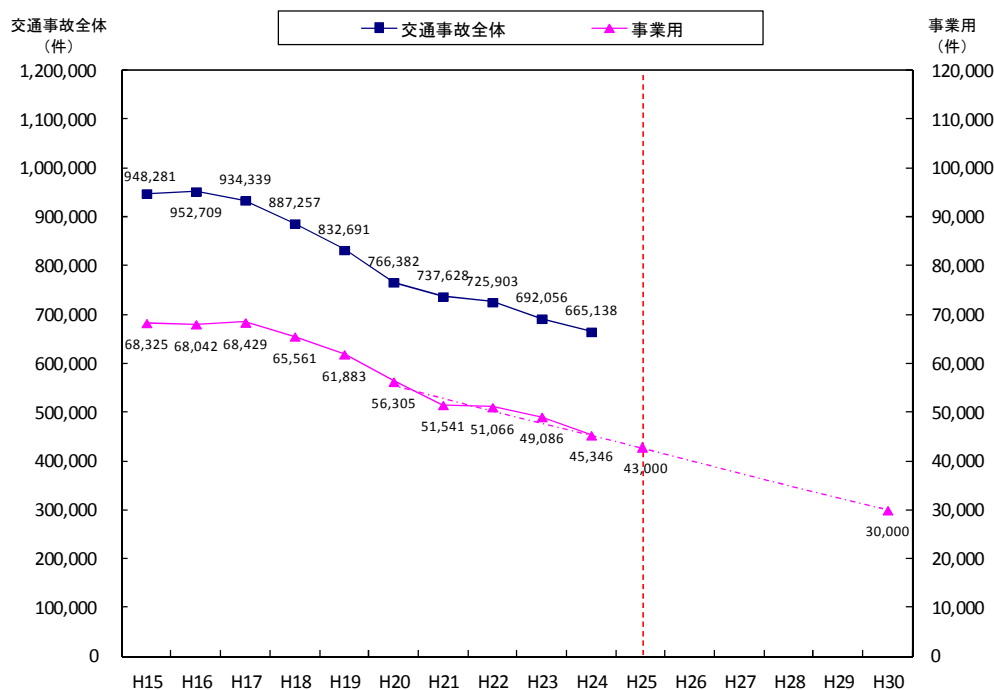
1-1. 交通事故全体の推移

自動車に加え、二輪車や自転車を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

(1) 交通事故件数の推移

平成24年中に全国で発生した交通事故全体の件数は665,138件であり、そのうち、事業用自動車は45,346件となった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2009(平成21年3月)」において、平成30年までの10年間で人身事故件数を半減(3万件以下)、中間年である平成25年には4万3千件とする目標値が示されている。



出典：警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図1 交通事故件数の推移

表1 交通事故件数の推移(件)

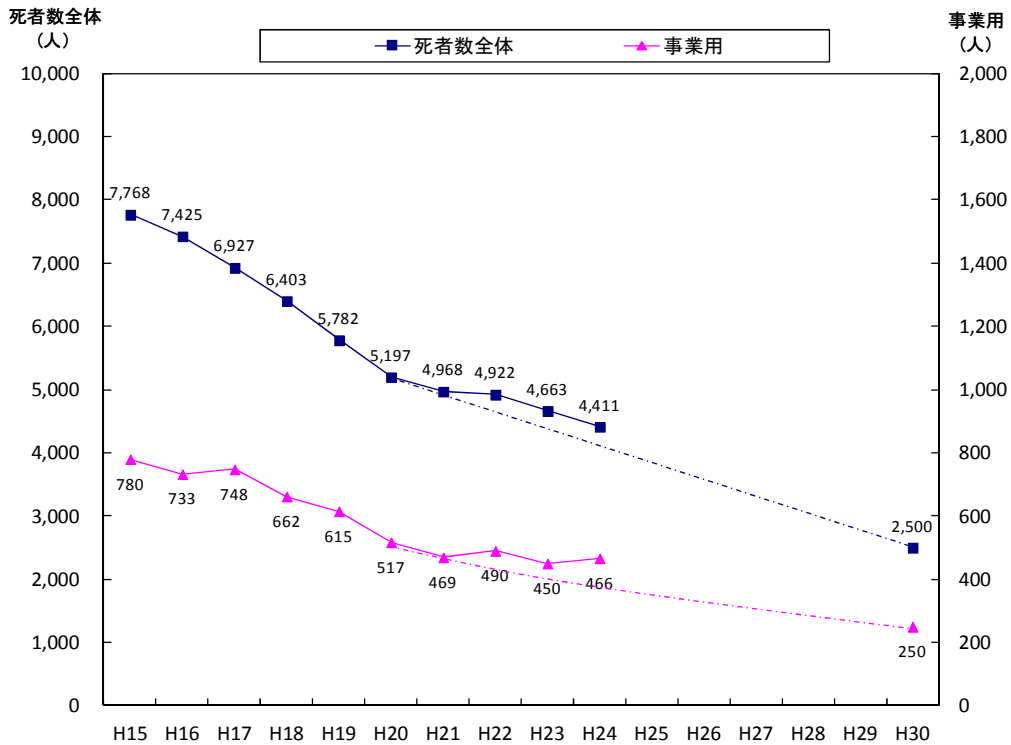
区分 年	交通事故件数	
	交通事故全体	事業用
H15	948,281	68,325
H16	952,709	68,042
H17	934,339	68,429
H18	887,257	65,561
H19	832,691	61,883
H20	766,382	56,305
H21	737,628	51,541
H22	725,903	51,066
H23	692,056	49,086
H24	665,138	45,346

出典：警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 交通事故死者数の推移

平成 24 年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は 4,411 人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は 466 人となっている。

なお、平成 21 年 1 月に政府が掲げた、平成 20 年から平成 30 年の 10 年間に交通事故死者数を半減させ、2,500 人以下とする目標値を受けて、「事業用自動車総合安全プラン2009」においても、同 10 年間で事業用自動車での交通事故死者数を半減させ、平成30年には 250 人以下とする目標値が示されている。



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 2 交通事故死者数の推移

表 2 交通事故死者数の推移 (人)

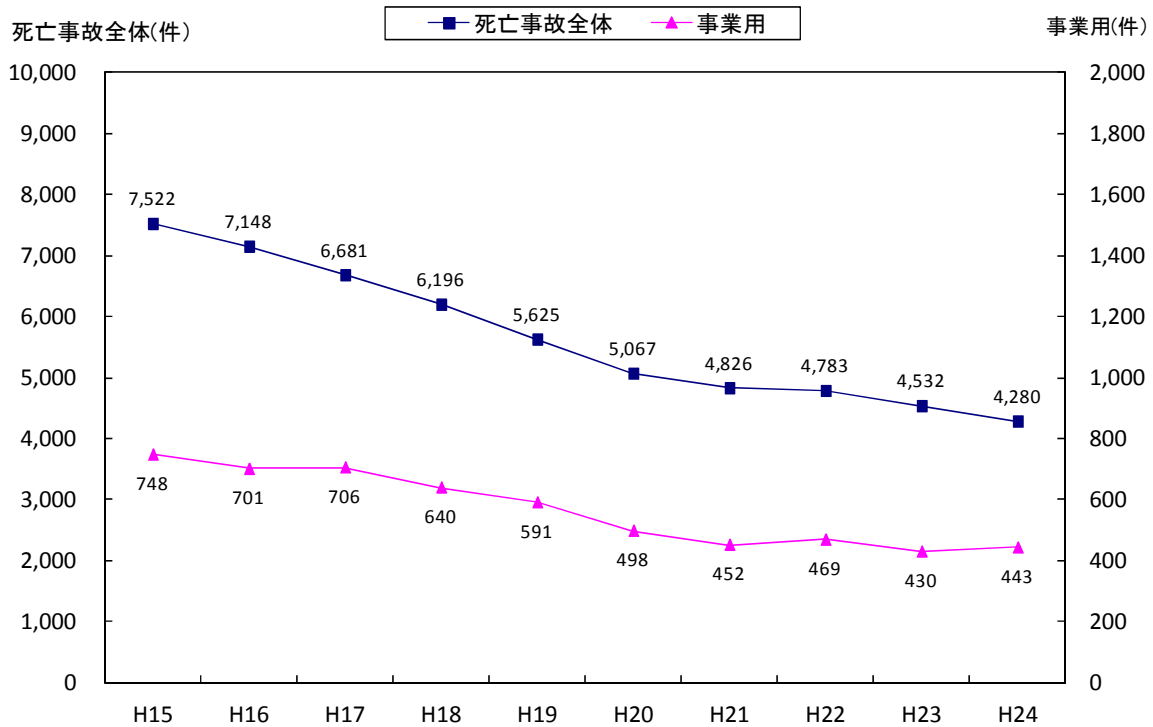
年	区分	死者数	
		死者数全体	事業用
H15		7,768	780
H16		7,425	733
H17		6,927	748
H18		6,403	662
H19		5,782	615
H20		5,197	517
H21		4,968	469
H22		4,922	490
H23		4,663	450
H24		4,411	466

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 交通死亡事故件数の推移

平成24年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は4,280件であり、前年より252件減少した。そのうち、事業用自動車は443件となっており、前年より13件増加した。



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図3 交通死亡事故件数の推移

表3 交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	死亡事故件数	
		死亡事故全体	事業用
H15		7,522	748
H16		7,148	701
H17		6,681	706
H18		6,196	640
H19		5,625	591
H20		5,067	498
H21		4,826	452
H22		4,783	469
H23		4,532	430
H24		4,280	443

出典：警察庁「交通統計」

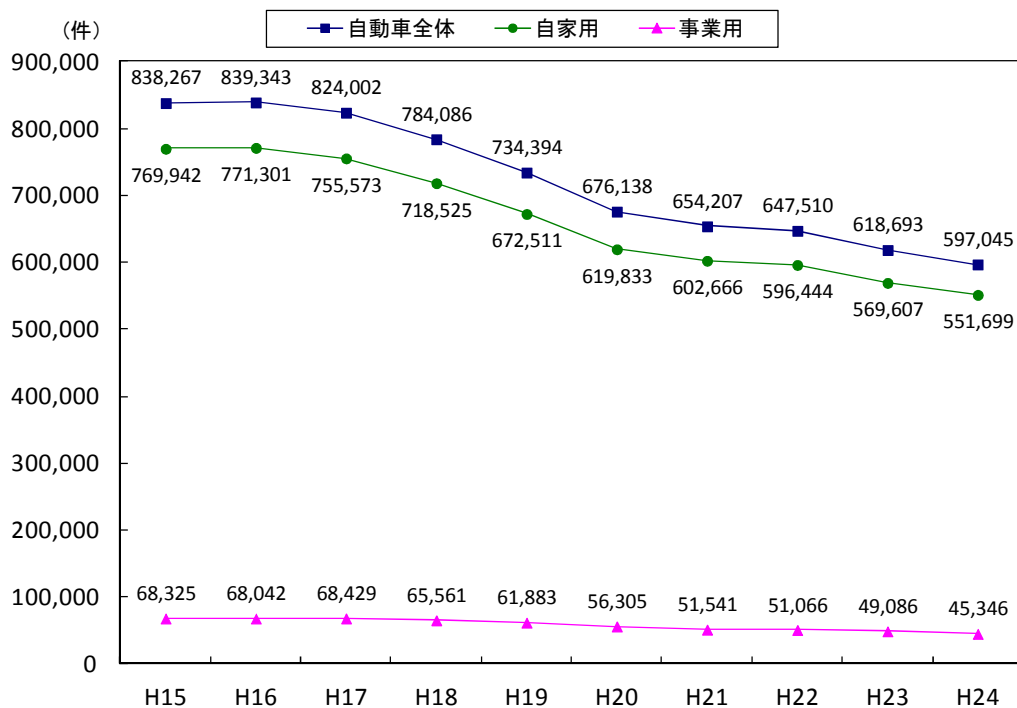
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」・「自家用自動車」（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ。）、及び「自動車全体」（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ。）について、「交通事故件数」、「交通事故死亡者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

(1) 自動車事故件数の推移

平成24年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は597,045件であり、そのうち、自家用自動車は551,699件、事業用自動車は45,346件となっている。



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図4 自動車事故件数の推移

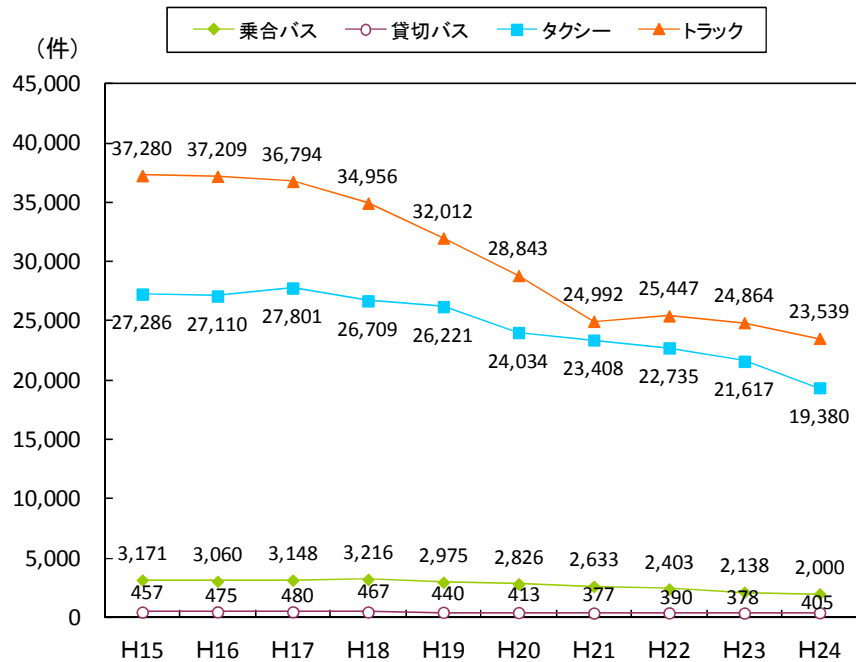
表4 自動車事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H15	838,267	769,942	68,325
H16	839,343	771,301	68,042
H17	824,002	755,573	68,429
H18	784,086	718,525	65,561
H19	734,394	672,511	61,883
H20	676,138	619,833	56,305
H21	654,207	602,666	51,541
H22	647,510	596,444	51,066
H23	618,693	569,607	49,086
H24	597,045	551,699	45,346

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別に見ると、平成 24 年は、乗合バスとタクシーとトラックで前年に引き続き減少した。一方、貸切バスは前年に比べ増加した。



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 5 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

表 5 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移 (件)

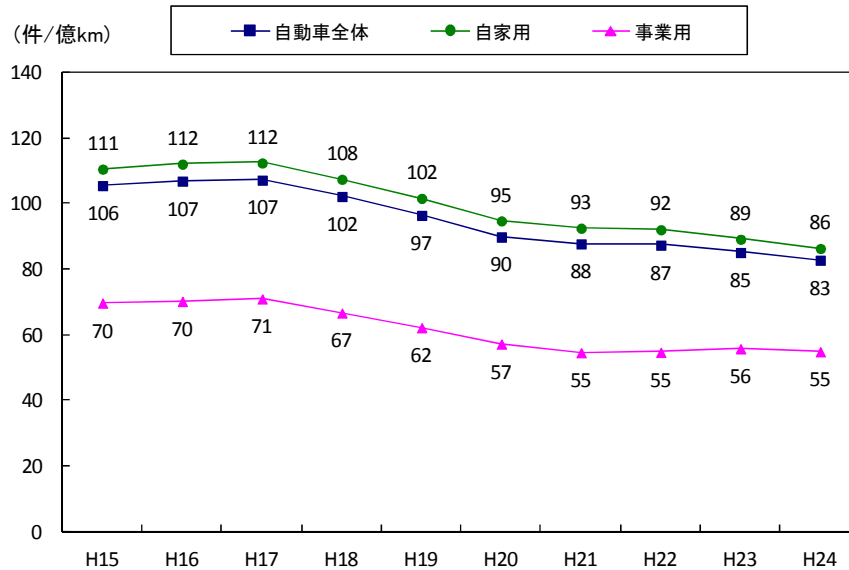
区分 年	バス	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H15	3,759	3,171	457	131	27,286	37,280
H16	3,723	3,060	475	188	27,110	37,209
H17	3,834	3,148	480	206	27,801	36,794
H18	3,896	3,216	467	213	26,709	34,956
H19	3,650	2,975	440	235	26,221	32,012
H20	3,428	2,826	413	189	24,034	28,843
H21	3,139	2,633	377	129	23,408	24,992
H22	2,882	2,403	390	89	22,735	25,447
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,864
H24	2,427	2,000	405	22	19,380	23,539

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

自動車全体と自家用自動車は、平成17年以降減少している。事業用自動車は、平成20年以降横ばいで推移している。



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

図6 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

表6 走行距離と自動車事故件数の推移

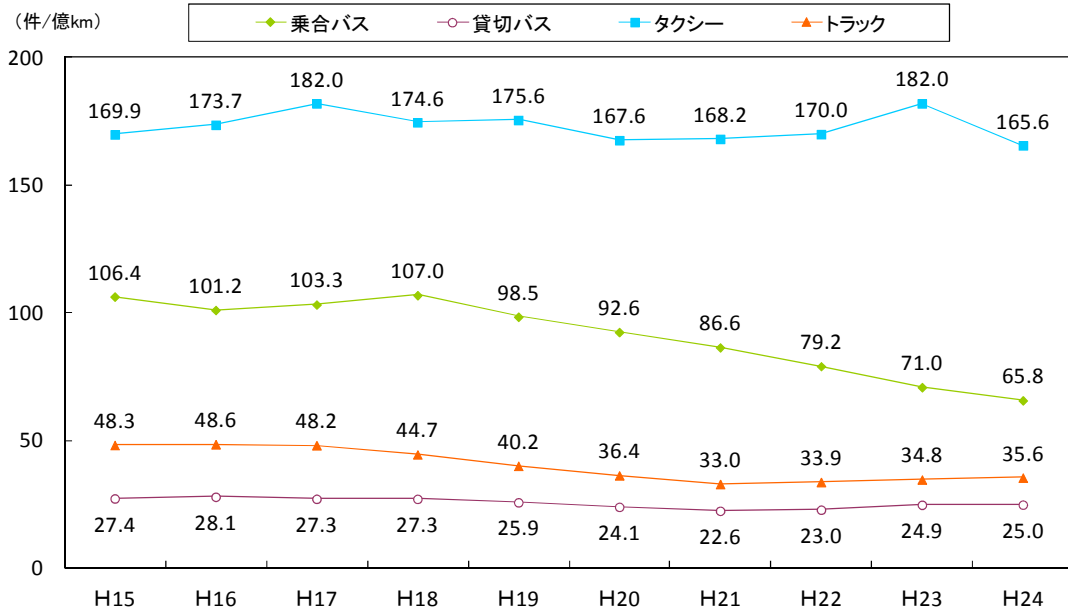
年	事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H15	838,267	769,942	68,325	7939.8	6960.9	978.8
H16	839,343	771,301	68,042	7847.0	6878.8	968.2
H17	824,002	755,573	68,429	7681.0	6717.7	963.3
H18	784,086	718,525	65,561	7666.4	6683.9	982.5
H19	734,394	672,511	61,883	7606.8	6613.2	993.6
H20	676,138	619,833	56,305	7519.2	6536.8	982.4
H21	654,207	602,668	51,539	7452.1	6508.9	943.2
H22	647,510	596,446	51,064	7405.1	6473.0	932.1
H23	618,693	569,607	49,086	7261.8	6383.5	878.3
H24	597,045	551,699	45,346	7208.5	6383.5	825.1

注：1. 走行距離（営業用バスを除く）の調査については、平成22年10月より、「自動車輸送統計調査」から「自動車燃料消費量調査」に移行している。
 2. 本表の平成22年10月以降は新統計数値となっているため、公表されている接続係数を使って、旧系列と比較可能な数値を作成した。（走行距離の作成方法については、以下同様）

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

走行距離あたりの事故はタクシーが際立って高く、次いで乗合バスとなっているが、これらの業態が市街地を走行する機会が多いことによって高い傾向を示していると考えられる。他方、トラックと貸切バスの走行距離あたりの事故が少ないのは、走行距離に占める高速道路使用の割合が比較的高いことによると考えられる。



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

図7 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

表7 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

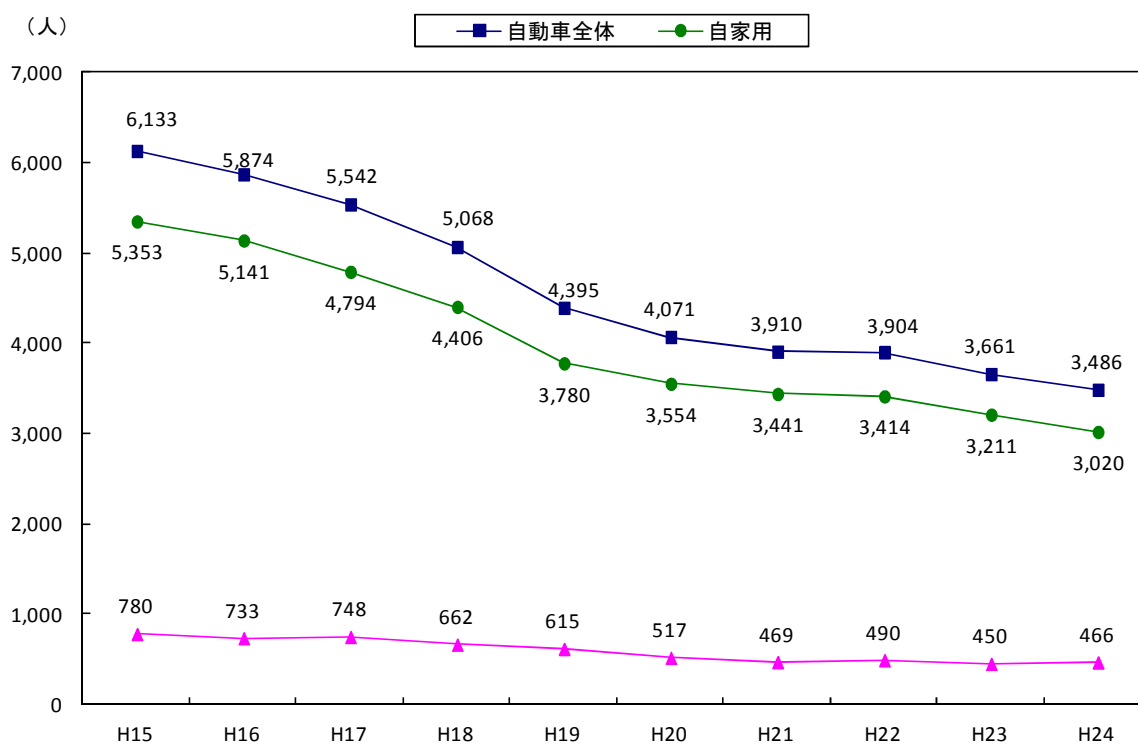
区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス	タクシー	トラック	自動車全体		
	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H15	3,759	3,171	457	131	27,285	37,278	838,267	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7939.8
H16	3,723	3,060	475	188	27,104	37,206	839,343	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7847.0
H17	3,834	3,148	480	206	27,794	36,782	824,002	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7681.0
H18	3,896	3,216	467	213	26,704	34,940	784,086	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7666.4
H19	3,650	2,975	440	235	26,219	32,005	734,394	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	3,428	2,826	413	189	24,030	28,838	676,138	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	3,139	2,633	377	129	23,408	24,992	654,207	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	2,882	2,403	390	89	22,733	25,447	647,510	47.3	30.3	16.9	133.7	751.1	7405.1
H23	2,605	2,138	378	89	21,616	24,860	618,693	45.3	30.1	15.2	118.7	714.3	7261.8
H24	2,427	2,000	405	22	19,380	23,539	597,045	46.6	30.4	16.2	117.0	661.5	7208.5

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-3. 自動車事故死者数の推移

(1) 自動車事故死者数の推移

平成24年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は3,486人であり、そのうち、事業用自動車は466人となり、前年より微増した。



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図8 自動車事故死者数の推移

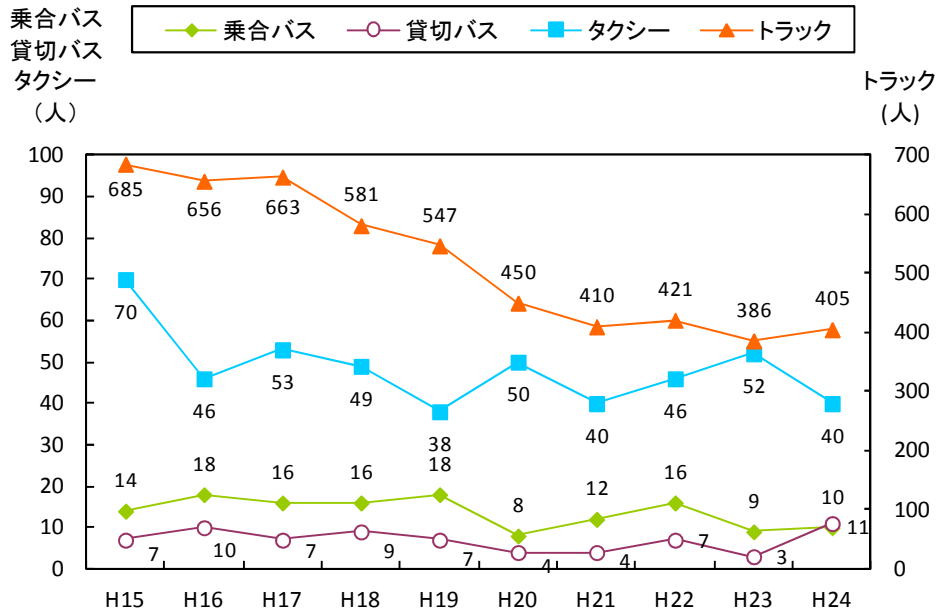
表8 自動車事故死者数の推移 (人)

年	自動車全体	自家用	事業用
H15	6,133	5,353	780
H16	5,874	5,141	733
H17	5,542	4,794	748
H18	5,068	4,406	662
H19	4,395	3,780	615
H20	4,071	3,554	517
H21	3,910	3,441	469
H22	3,904	3,414	490
H23	3,661	3,211	450
H24	3,486	3,020	466

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別に見ると、トラックによる交通事故死者数が大半を占める。平成 24 年の交通事故死者数は、乗合バス、貸切バス、トラックともに前年に比べ増加し、タクシーによる交通事故死者数は大幅に減少した。



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 9 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

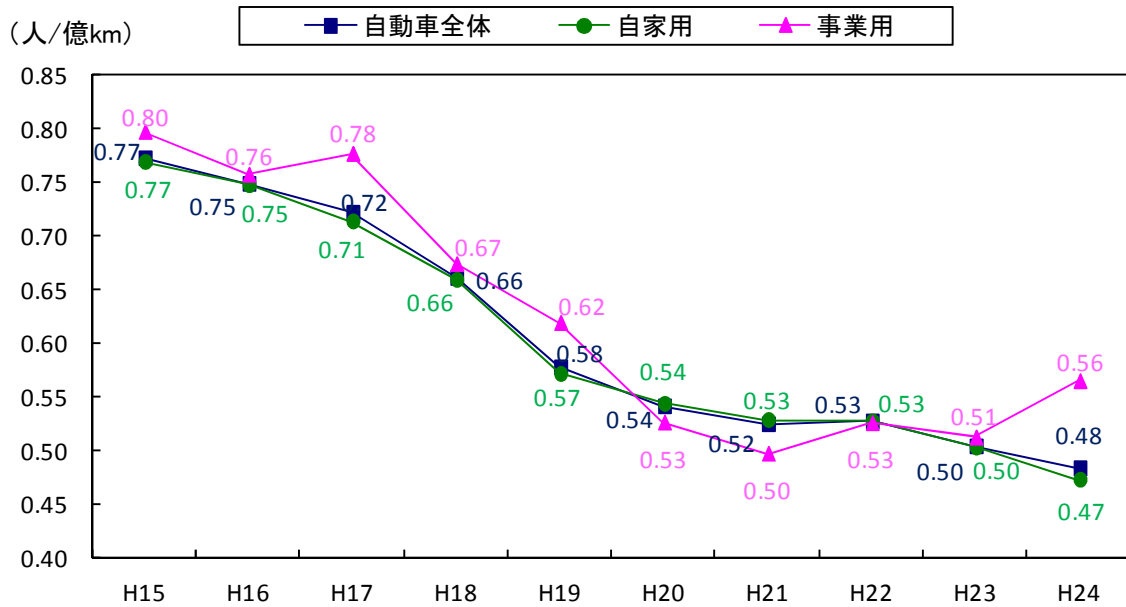
表 9 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

年	バス				タクシー	トラック
	乗合バス	貸切バス	その他			
H15	14	7	2	23	70	685
H16	18	10	1	29	46	656
H17	16	7	1	24	53	663
H18	16	9	1	26	49	581
H19	18	7	0	25	38	547
H20	8	4	1	13	50	450
H21	12	4	2	18	40	410
H22	16	7	0	23	46	421
H23	9	3	0	12	52	386
H24	10	11	0	21	40	405

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、自動車全体では緩やかな減少傾向にあるものの、事業用では近年横ばい傾向であったが、平成24年は前年に比べて増加した。



出典：警視庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

図10 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

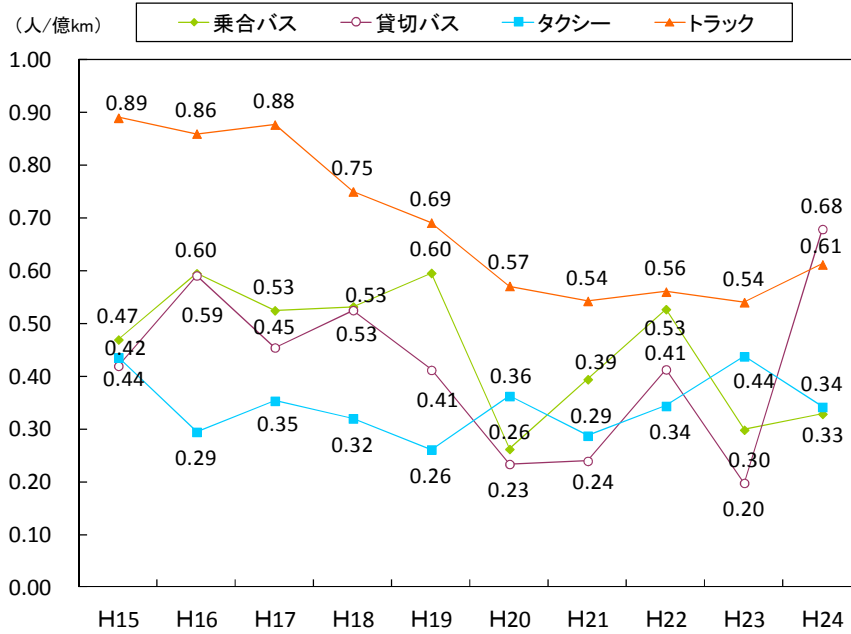
表10 走行距離と自動車事故死者数の推移

年	区分	死者数(人)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H15		6,133	5,353	780	7939.8	6960.9	978.8
H16		5,874	5,141	733	7847.0	6878.8	968.2
H17		5,542	4,794	748	7681.0	6717.7	963.3
H18		5,068	4,406	662	7666.4	6683.9	982.5
H19		4,395	3,780	615	7606.8	6613.2	993.6
H20		4,071	3,554	517	7519.2	6536.8	982.4
H21		3,910	3,441	469	7452.1	6508.9	943.2
H22		3,904	3,414	490	7405.1	6473.0	932.1
H23		3,661	3,211	450	7261.8	6383.5	878.3
H24		3,486	3,020	466	7208.5	6383.5	825.1

出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

これまで、トラックは他の業態よりも走行距離あたりの交通事故死者数は高い傾向を示していたが、平成24年では貸切バスが前年に比べ大幅に高くなりトラックより高い値を示しているほか、トラックと乗合バスが増加、タクシーは減少した。



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

図 11 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

表 11 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故死者数の推移

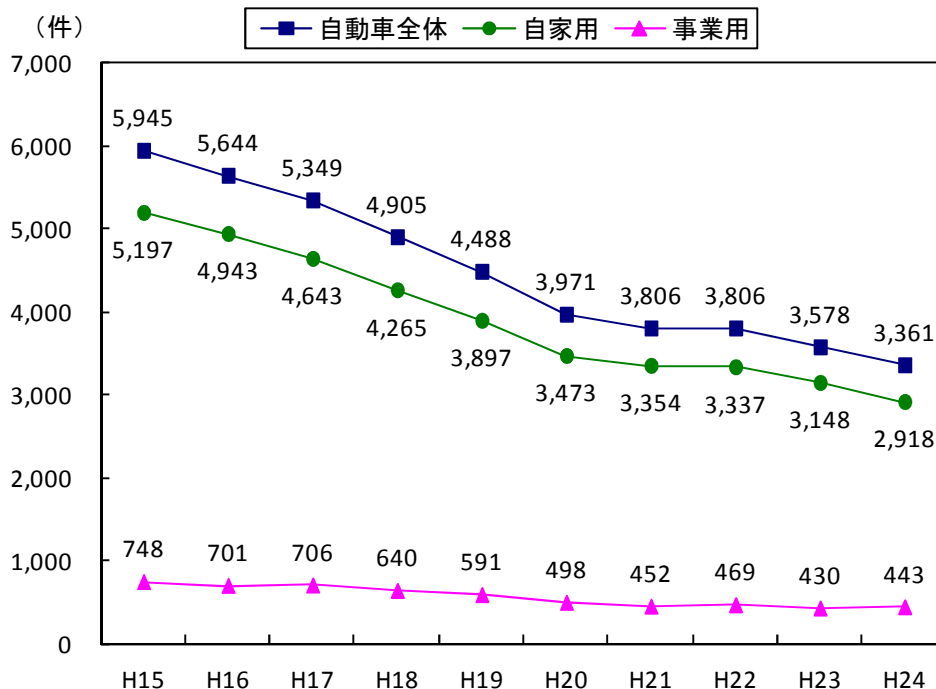
区分 年	死者数(人)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H15	23	14	7	2	70	687	6,133	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7939.8
H16	29	18	10	1	46	658	5,874	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7847.0
H17	25	16	8	1	54	669	5,542	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7681.0
H18	26	16	9	1	49	587	5,068	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7666.4
H19	25	18	7	0	39	551	4,395	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	13	8	4	1	52	452	4,071	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	18	12	4	2	40	411	3,910	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	421	3,904	47.3	30.3	16.9	133.7	751.1	7405.1
H23	12	9	3	0	52	386	3,661	45.3	30.1	15.2	118.7	714.3	7261.8
H24	21	10	11	0	40	405	3,486	46.6	30.4	16.2	117.0	661.5	7208.5

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-4. 自動車死亡事故件数の推移

(1) 自動車死亡事故件数の推移

平成24年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は3,361件であり、そのうち、自家用自動車は2,918件、事業用自動車は443件となっている。



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図12 自動車死亡事故件数の推移

表12 自動車死亡事故件数の推移 (件)

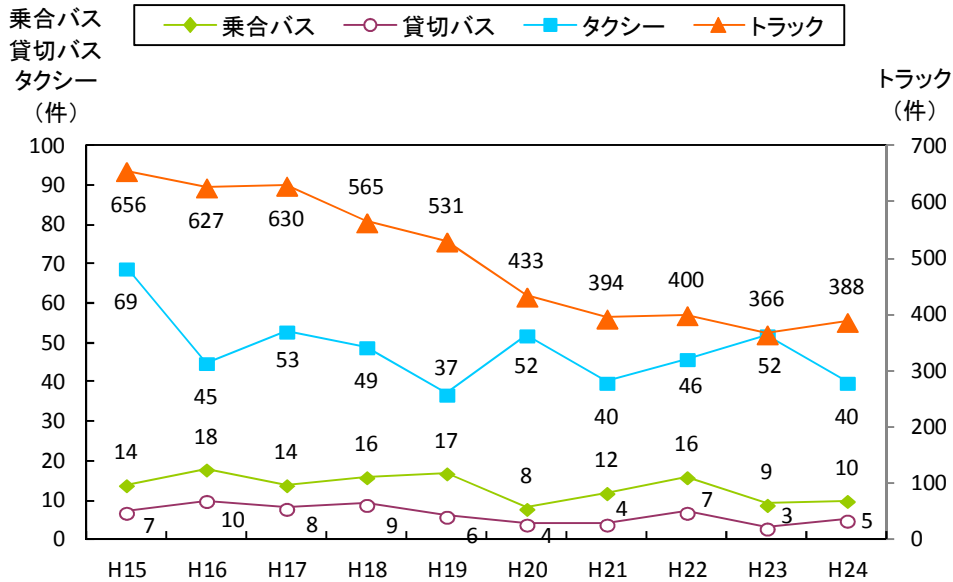
年	自動車全体	自家用	事業用
H15	5,945	5,197	748
H16	5,644	4,943	701
H17	5,349	4,643	706
H18	4,905	4,265	640
H19	4,488	3,897	591
H20	3,971	3,473	498
H21	3,806	3,354	452
H22	3,806	3,337	469
H23	3,578	3,148	430
H24	3,361	2,918	443

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別に見ると、トラックによる死亡事故件数が大半を占める。トラックによる死亡事故件数は、平成 17 年以降減少傾向にあったが、平成 24 年は増加した。他の業態では、タクシーが前年に比べ減少し、バスは増加した。



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 13 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

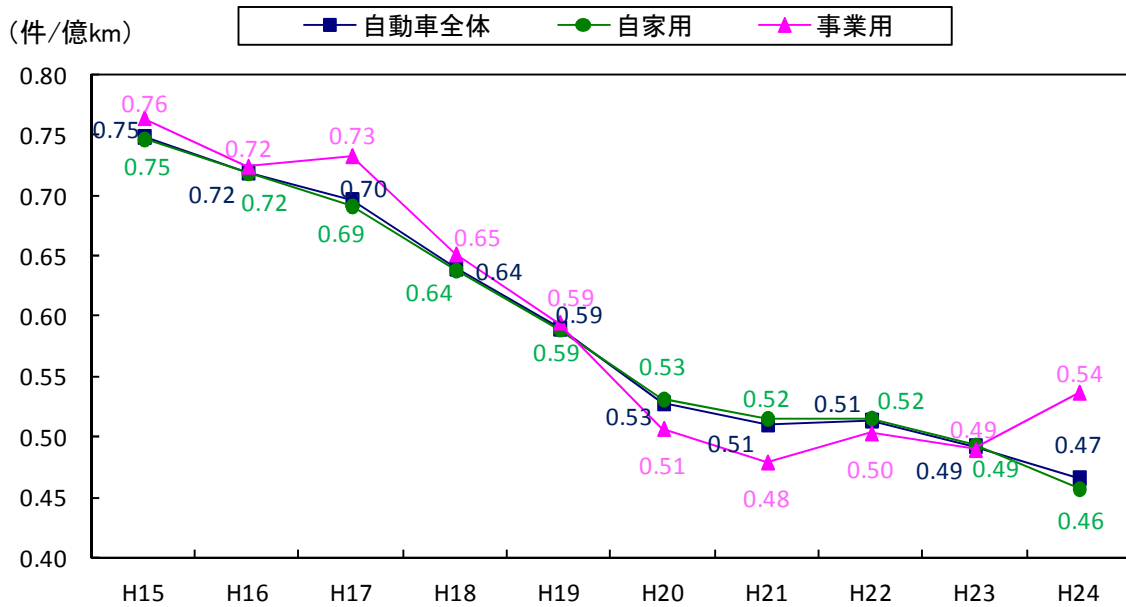
表 13 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	バス			タクシー	トラック	
		乗合バス	貸切バス	その他			
H15		23	14	7	2	69	656
H16		29	18	10	1	45	627
H17		23	14	8	1	53	630
H18		26	16	9	1	49	565
H19		23	17	6	0	37	531
H20		13	8	4	1	52	433
H21		18	12	4	2	40	394
H22		23	16	7	0	46	400
H23		12	9	3	0	52	366
H24		15	10	5	0	40	388

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数を見ると、自家用は年々減少しているものの事業用は、前年に比べ増加した。



出典：警視庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

図14 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

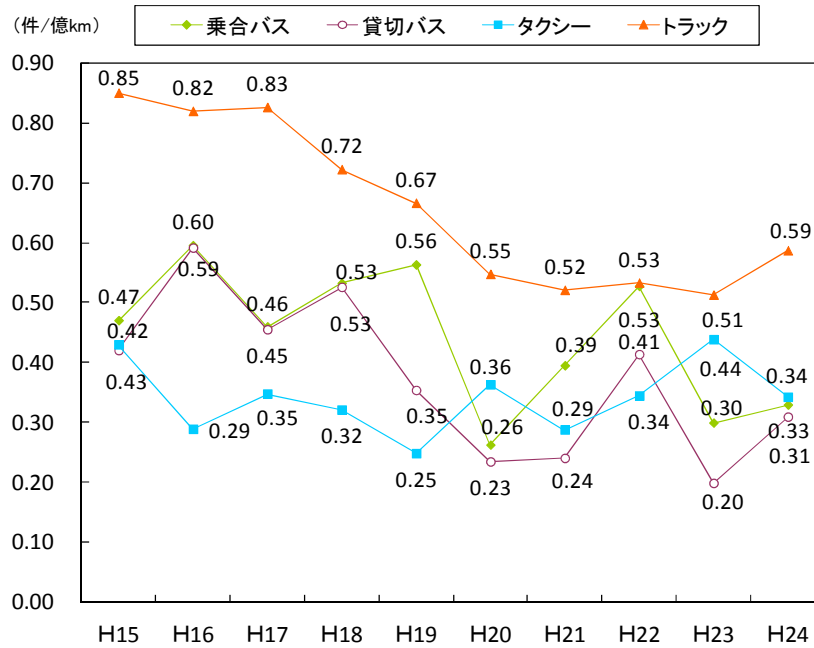
表14 走行距離と自動車死亡事故件数の推移

年	死亡事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H15	5,945	5,197	748	7939.8	6960.9	978.8
H16	5,644	4,943	701	7847.0	6878.8	968.2
H17	5,349	4,643	706	7681.0	6717.7	963.3
H18	4,905	4,265	640	7666.4	6683.9	982.5
H19	4,488	3,897	591	7606.8	6613.2	993.6
H20	3,971	3,473	498	7519.2	6536.8	982.4
H21	3,806	3,354	452	7452.1	6508.9	943.2
H22	3,806	3,337	469	7405.1	6473.0	932.1
H23	3,578	3,148	430	7261.8	6383.5	878.3
H24	3,361	2,918	443	7208.5	6383.5	825.1

出典：警視庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

トラックは他の業態に比べ走行距離あたりの死亡事故件数が多いものの、年々減少傾向になっていたが平成24年は再び増加した。また、貸切バスも前年に比べ大きく増加した。



出典：警視庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

図15 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

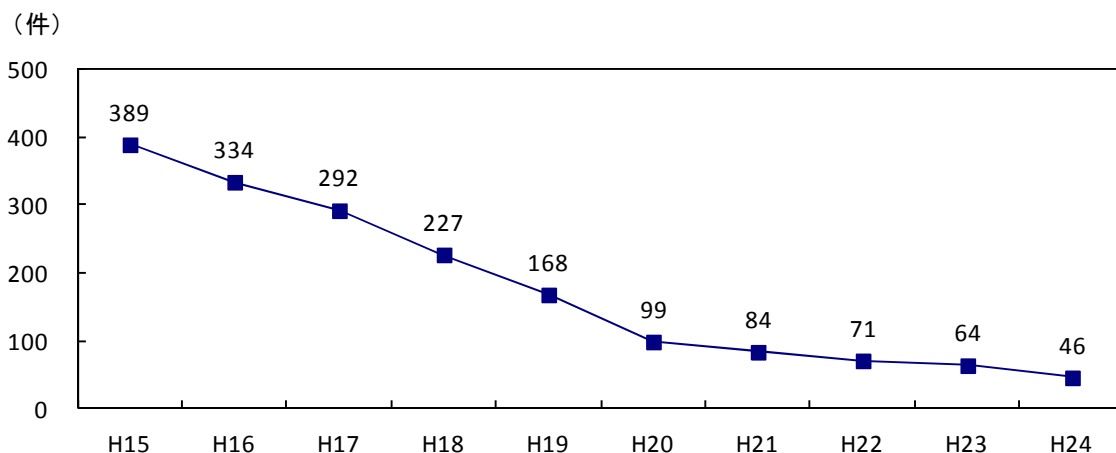
表15 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

区分 年	死亡事故件数(件)							走行キロ(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H15	23	14	7	2	69	656	5,945	29.8	16.7	160.6	771.8	7939.8	
H16	29	18	10	1	45	627	5,644	30.2	16.9	156.0	765.0	7847.0	
H17	23	14	8	1	53	630	5,349	30.5	17.6	152.7	762.6	7681.0	
H18	26	16	9	1	49	565	4,905	30.1	17.1	152.9	782.4	7666.4	
H19	23	17	6	0	37	531	4,488	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8	
H20	13	8	4	1	52	433	3,971	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2	
H21	18	12	4	2	40	394	3,806	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1	
H22	23	16	7	0	46	400	3,806	30.3	16.9	133.7	751.1	7405.1	
H23	12	9	3	0	52	366	3,578	30.1	15.2	118.7	714.3	7261.8	
H24	15	10	5	0	40	388	3,361	30.4	16.2	117.0	661.5	7208.5	

出典：警視庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

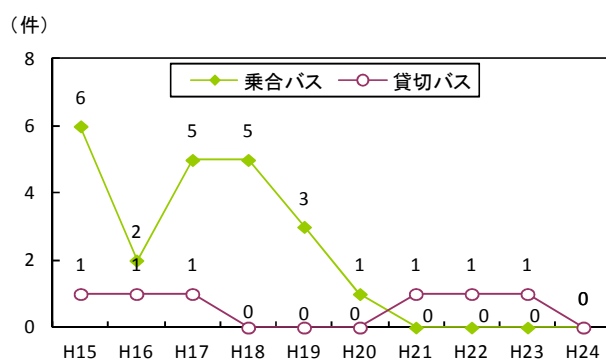
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故

飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、トラック、タクシーともに減少傾向にある。

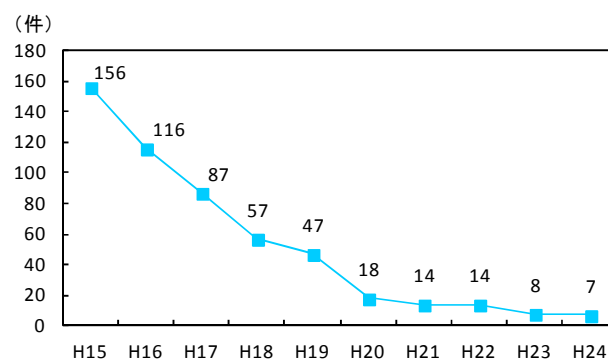


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

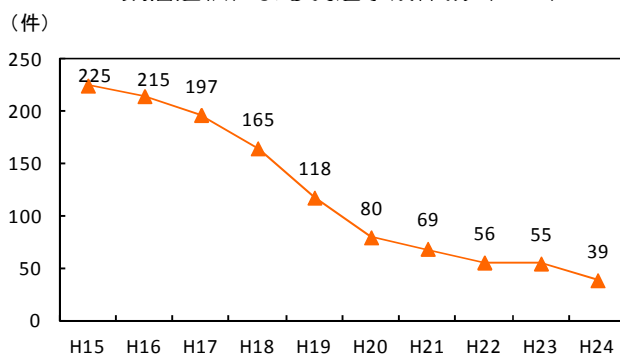
図 16 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移



飲酒運転による交通事故件数（バス）



飲酒運転による交通事故件数（タクシー）



飲酒運転による交通事故件数（トラック）

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 17 業態別飲酒運転による交通事故件数

表 16 業態別飲酒運転による交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数						
	バス				タクシー	トラック	合計
		乗合	貸切	その他			
H15	8	6	1	1	156	225	389
H16	3	2	1	0	116	215	334
H17	8	5	1	2	87	197	292
H18	5	5	0	0	57	165	227
H19	3	3	0	0	47	118	168
H20	1	1	0	0	18	80	99
H21	1	0	1	0	14	69	84
H22	1	0	1	0	14	56	71
H23	1	0	1	0	8	55	64
H24	0	0	0	0	7	39	46

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 17 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移（件）

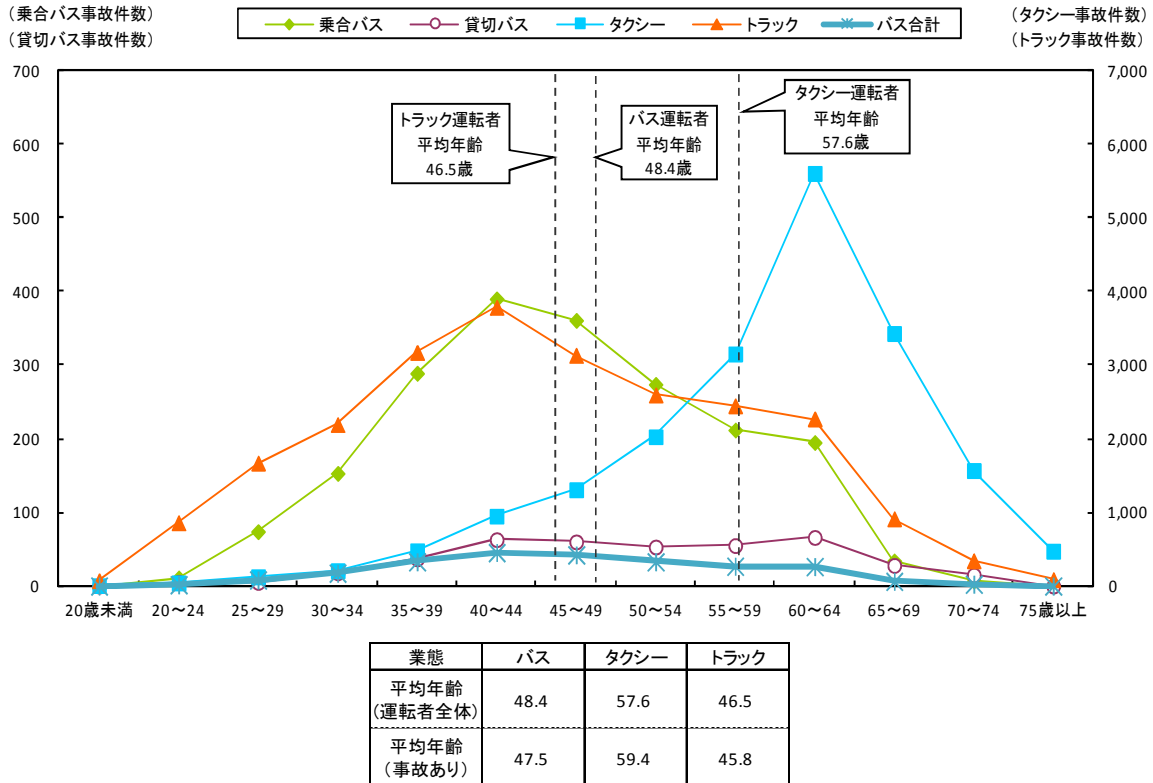
区分 年	交通死亡事故件数						
	バス				タクシー	トラック	合計
		乗合	貸切	その他			
H15	0	0	0	0	0	9	9
H16	0	0	0	0	0	16	16
H17	0	0	0	0	0	13	13
H18	0	0	0	0	0	9	9
H19	0	0	0	0	0	12	12
H20	0	0	0	0	0	1	1
H21	0	0	0	0	0	2	2
H22	0	0	0	0	0	3	3
H23	0	0	0	0	0	4	4
H24	0	0	0	0	0	6	6

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

(1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

業態別の事故惹起運転者の平均年齢と運転者の平均年齢を見ると、タクシーは若干高く、バスとトラックは若干低い状況となっている。



※ 事故惹起運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「平成24年賃金構造基本統計調査(全国)」

図 18 業態別運転者年齢層別交通事故件数 (平成24年)

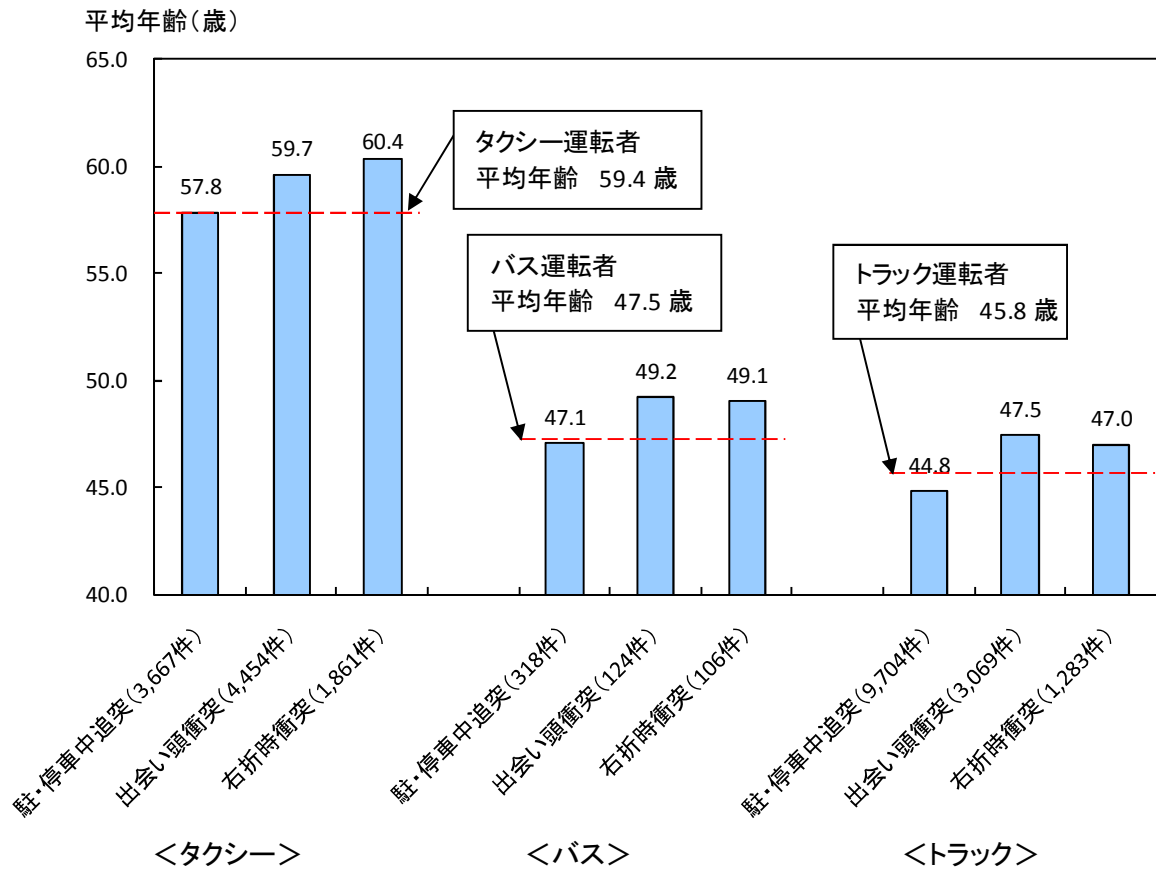
表 18 業態別運転者年齢層別交通事故件数 (件) (平成24年)

		20歳未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	11	74	153	289	390	361	274	212	195	34	7	0	2,000
	貸切	0	5	5	18	37	63	60	53	55	66	28	15	0	405
	その他	0	2	2	3	2	1	2	1	2	4	1	2	0	22
	小計	0	18	81	174	328	454	423	328	269	265	63	24	0	2,427
ハイタク	法人	1	28	108	191	454	893	1,247	1,917	2,967	5,155	3,098	1,360	330	17,749
	個人	0	1	2	5	7	35	43	95	159	420	313	196	139	1,415
その他乗用		4	14	16	12	18	21	17	17	28	32	20	12	5	216
小計		5	43	126	208	479	949	1,307	2,029	3,154	5,607	3,431	1,568	474	19,380
貨物自動車	大型	0	97	389	672	1,191	1,500	1,245	885	766	597	195	42	7	7,586
	中型	1	328	777	966	1,243	1,395	1,131	965	883	713	240	62	11	8,715
	普通	39	265	293	325	421	461	333	312	273	287	116	39	9	3,173
	軽	31	169	211	230	318	430	425	433	526	672	361	201	58	4,065
小計		71	859	1,670	2,193	3,173	3,786	3,134	2,595	2,448	2,269	912	344	85	23,539
合計		76	920	1,877	2,575	3,980	5,189	4,864	4,952	5,871	8,141	4,406	1,936	559	45,346
トレーラ (トラックの内数)		0	19	75	121	245	304	240	164	129	110	42	4	1	1,454

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別事故類型別事故惹起運転者平均年齢

事故惹起運転者の平均年齢を、運転者全体の平均年齢と比べると、出会い頭衝突、右折時衝突は業態問わず、平均より高い年齢となっていることがわかる。



注: () 内は事故件数

- ※ 事故惹起運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出
- ※ 上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出

出典: (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「平成24年賃金構造基本統計調査(全国)」

図19 業態別事故類型別事故惹起運転者平均年齢(車両との事故)(平成24年)

1-7. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故

(1) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

表 19 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（平成 24 年）

都道府県	事業の種類				ハイタク	トラック	計
	バス	乗合	貸切	その他			
北海道	90 (8)	68 (9)	22 (3)	0 (13)	807 (6)	590 (11)	1,487 (9)
青森県	25 (22)	20 (18)	5 (26)	0 (13)	125 (22)	169 (33)	319 (31)
岩手県	15 (28)	12 (28)	3 (30)	0 (13)	50 (39)	130 (39)	195 (40)
宮城県	25 (22)	17 (24)	8 (17)	0 (13)	261 (14)	313 (18)	599 (15)
秋田県	3 (47)	3 (47)	0 (46)	0 (13)	29 (43)	79 (44)	111 (45)
山形県	7 (43)	6 (37)	1 (41)	0 (13)	46 (42)	144 (36)	197 (39)
福島県	31 (18)	14 (27)	16 (8)	1 (4)	106 (24)	269 (22)	406 (25)
茨城県	32 (17)	20 (18)	11 (11)	1 (4)	89 (29)	647 (10)	768 (13)
栃木県	12 (33)	5 (41)	2 (37)	5 (1)	49 (40)	300 (19)	361 (27)
群馬県	14 (29)	8 (34)	6 (20)	0 (13)	73 (32)	497 (14)	584 (16)
埼玉県	58 (13)	39 (14)	19 (6)	0 (13)	512 (9)	1,824 (3)	2,394 (6)
千葉県	76 (10)	55 (10)	20 (4)	1 (4)	457 (10)	1,009 (7)	1,542 (8)
東京都	284 (2)	238 (2)	42 (2)	4 (2)	5,300 (1)	2,263 (2)	7,847 (1)
神奈川県	240 (3)	222 (3)	17 (7)	1 (4)	1,437 (4)	1,680 (4)	3,357 (3)
新潟県	20 (26)	16 (25)	4 (29)	0 (13)	95 (27)	246 (24)	361 (27)
富山県	10 (37)	7 (35)	3 (30)	0 (13)	26 (45)	191 (30)	227 (37)
石川県	25 (22)	20 (18)	5 (26)	0 (13)	101 (26)	203 (29)	329 (29)
福井県	8 (40)	6 (37)	1 (41)	1 (4)	28 (44)	90 (42)	126 (44)
山梨県	13 (30)	6 (37)	6 (20)	1 (4)	47 (41)	132 (38)	192 (41)
長野県	26 (21)	20 (18)	6 (20)	0 (13)	87 (30)	282 (20)	395 (26)
岐阜県	28 (19)	20 (18)	8 (17)	0 (13)	74 (31)	326 (17)	428 (20)
静岡県	61 (11)	48 (12)	9 (14)	4 (2)	422 (12)	877 (9)	1,360 (10)
愛知県	126 (6)	110 (6)	16 (8)	0 (13)	851 (5)	1,505 (5)	2,482 (5)
三重県	13 (30)	10 (31)	3 (30)	0 (13)	63 (35)	336 (16)	412 (24)
滋賀県	11 (35)	10 (31)	1 (41)	0 (13)	64 (34)	228 (26)	303 (34)
京都府	96 (7)	85 (7)	11 (11)	0 (13)	696 (8)	538 (12)	1,330 (11)
大阪府	298 (1)	253 (1)	45 (1)	0 (13)	2,333 (2)	2,579 (1)	5,210 (2)
兵庫県	150 (5)	137 (5)	12 (10)	1 (4)	745 (7)	996 (8)	1,891 (7)
奈良県	5 (46)	4 (44)	1 (41)	0 (13)	52 (37)	247 (23)	304 (33)
和歌山県	8 (40)	6 (37)	2 (37)	0 (13)	52 (37)	140 (37)	200 (38)
鳥取県	6 (45)	4 (44)	2 (37)	0 (13)	10 (47)	69 (45)	85 (46)
島根県	10 (37)	4 (44)	6 (20)	0 (13)	17 (46)	46 (46)	73 (47)
岡山県	24 (25)	19 (23)	5 (26)	0 (13)	178 (19)	466 (15)	668 (14)
広島県	79 (9)	69 (8)	10 (13)	0 (13)	440 (11)	510 (13)	1,029 (12)
山口県	39 (16)	32 (16)	7 (19)	0 (13)	126 (21)	163 (35)	328 (30)
徳島県	7 (43)	5 (41)	2 (37)	0 (13)	57 (36)	107 (41)	171 (43)
香川県	12 (33)	11 (29)	1 (41)	0 (13)	136 (20)	271 (21)	419 (23)
愛媛県	8 (40)	5 (41)	3 (30)	0 (13)	111 (23)	187 (31)	306 (32)
高知県	10 (37)	7 (35)	3 (30)	0 (13)	93 (28)	85 (43)	188 (42)
福岡県	180 (4)	159 (4)	20 (4)	1 (4)	1,665 (3)	1,239 (6)	3,084 (4)
佐賀県	11 (35)	11 (29)	0 (46)	0 (13)	70 (33)	187 (31)	268 (35)
長崎県	52 (14)	46 (13)	6 (20)	0 (13)	230 (15)	168 (34)	450 (18)
熊本県	60 (12)	51 (11)	9 (14)	0 (13)	202 (16)	244 (25)	506 (17)
大分県	13 (30)	10 (31)	3 (30)	0 (13)	105 (25)	125 (40)	243 (36)
宮崎県	28 (19)	22 (17)	6 (20)	0 (13)	180 (18)	212 (27)	420 (22)
鹿児島県	44 (15)	34 (15)	9 (14)	1 (4)	183 (17)	208 (28)	435 (19)
沖縄県	19 (27)	16 (25)	3 (30)	0 (13)	362 (13)	45 (47)	426 (21)
計	2,427	2,000	405	22	19,242	23,162	44,831

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

表 20 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（平成 24 年）

都道府県	事業の種類				ハイタク	トラック	計
	バス	乗合	貸切	その他			
北海道	3 (1)	1 (2)	2 (1)	0 (1)	2 (4)	18 (5)	23 (5)
青森県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	9 (15)	10 (14)
岩手県	1 (4)	1 (2)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	2 (39)	4 (32)
宮城県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	2 (4)	7 (17)	9 (17)
秋田県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	1 (43)	2 (42)
山形県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	1 (43)	1 (45)
福島県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	9 (15)	10 (14)
茨城県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	13 (11)	13 (12)
栃木県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	6 (20)	6 (22)
群馬県	1 (4)	1 (2)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	10 (13)	11 (13)
埼玉県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	2 (4)	28 (2)	30 (2)
千葉県	1 (4)	0 (10)	1 (2)	0 (1)	3 (3)	12 (12)	16 (8)
東京都	2 (2)	2 (1)	0 (5)	0 (1)	7 (1)	19 (4)	28 (3)
神奈川県	1 (4)	1 (2)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	15 (7)	17 (7)
新潟県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	7 (17)	7 (18)
富山県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	5 (24)	5 (28)
石川県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	4 (30)	4 (32)
福井県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	3 (35)	3 (38)
山梨県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	5 (24)	5 (28)
長野県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	3 (35)	3 (38)
岐阜県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	4 (30)	5 (28)
静岡県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	18 (5)	18 (6)
愛知県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	10 (13)	10 (14)
三重県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	6 (20)	6 (22)
滋賀県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	4 (30)	5 (28)
京都府	1 (4)	1 (2)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	5 (24)	7 (18)
大阪府	2 (2)	1 (2)	1 (2)	0 (1)	4 (2)	32 (1)	38 (1)
兵庫県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	15 (7)	16 (8)
奈良県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	6 (20)	7 (18)
和歌山県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	3 (35)	3 (38)
鳥取県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	2 (39)	2 (42)
島根県	1 (4)	1 (2)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	1 (43)	2 (42)
岡山県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	2 (4)	14 (9)	16 (8)
広島県	1 (4)	1 (2)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	14 (9)	15 (11)
山口県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	6 (20)	6 (22)
徳島県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	1 (43)	1 (45)
香川県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	5 (24)	6 (22)
愛媛県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	2 (39)	3 (38)
高知県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	4 (30)	4 (32)
福岡県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	24 (3)	24 (4)
佐賀県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	4 (30)	4 (32)
長崎県	1 (4)	0 (10)	1 (2)	0 (1)	0 (23)	3 (35)	4 (32)
熊本県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	5 (24)	6 (22)
大分県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	1 (43)	1 (45)
宮崎県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	1 (9)	5 (24)	6 (22)
鹿児島県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	0 (23)	7 (17)	7 (18)
沖縄県	0 (12)	0 (10)	0 (5)	0 (1)	2 (4)	2 (39)	4 (32)
計	15	10	5	0	40	388	443

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

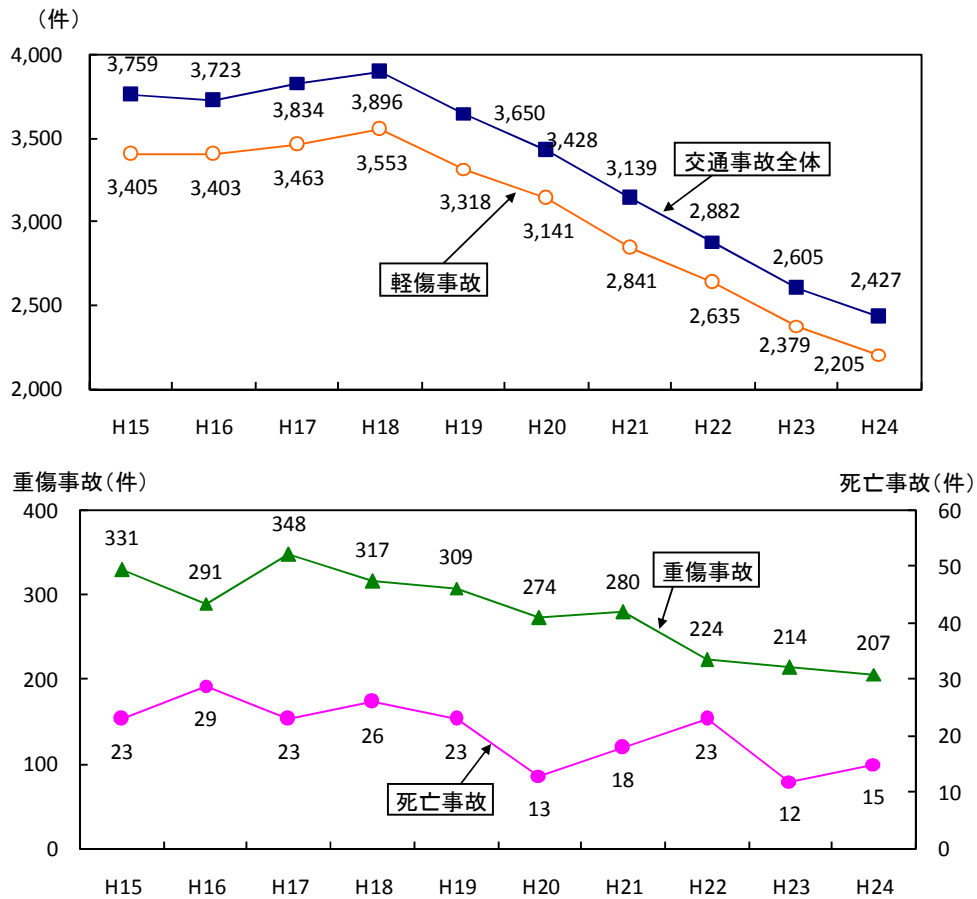
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2. バスの事故

(1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成 24 年のバスによる事故は、平成 18 年まで増加傾向にあったが、それ以降は減少している。

平成 24 年は重傷事故件数、軽傷事故件数は減少したが、死亡事故件数は増加した。



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 20 バスの全事故及び死傷事故件数の推移

表 21 バスの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H15	23	331	3,405	3,759
H16	29	291	3,403	3,723
H17	23	348	3,463	3,834
H18	26	317	3,553	3,896
H19	23	309	3,318	3,650
H20	13	274	3,141	3,428
H21	18	280	2,841	3,139
H22	23	224	2,635	2,882
H23	12	214	2,379	2,605
H24	15	207	2,205	2,427

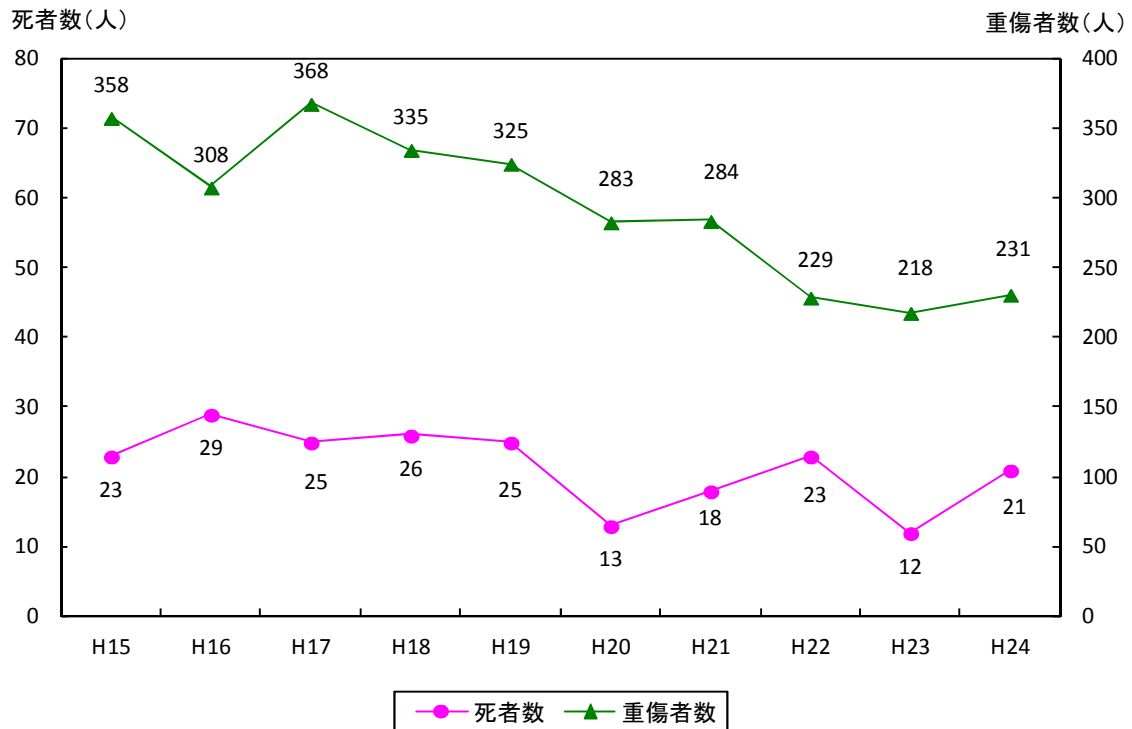
(バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値を示す。)

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) バス事故の死傷者数の推移

バスの事故による死者数は、平成 24 年は前年より増加した。

重傷者数は、平成 17 年以降、減少傾向にあったが、平成 24 年は増加に転じた。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 21 バス事故の死傷者数の推移

表 22 バスの死傷者数の推移(人)

年 \ 区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H15	23	358	4,354	4,735
H16	29	308	4,305	4,642
H17	25	368	4,412	4,805
H18	26	335	4,689	5,050
H19	25	325	4,256	4,606
H20	13	283	3,951	4,247
H21	18	284	3,517	3,819
H22	23	229	3,300	3,552
H23	12	218	3,090	3,320
H24	21	231	2,831	3,083

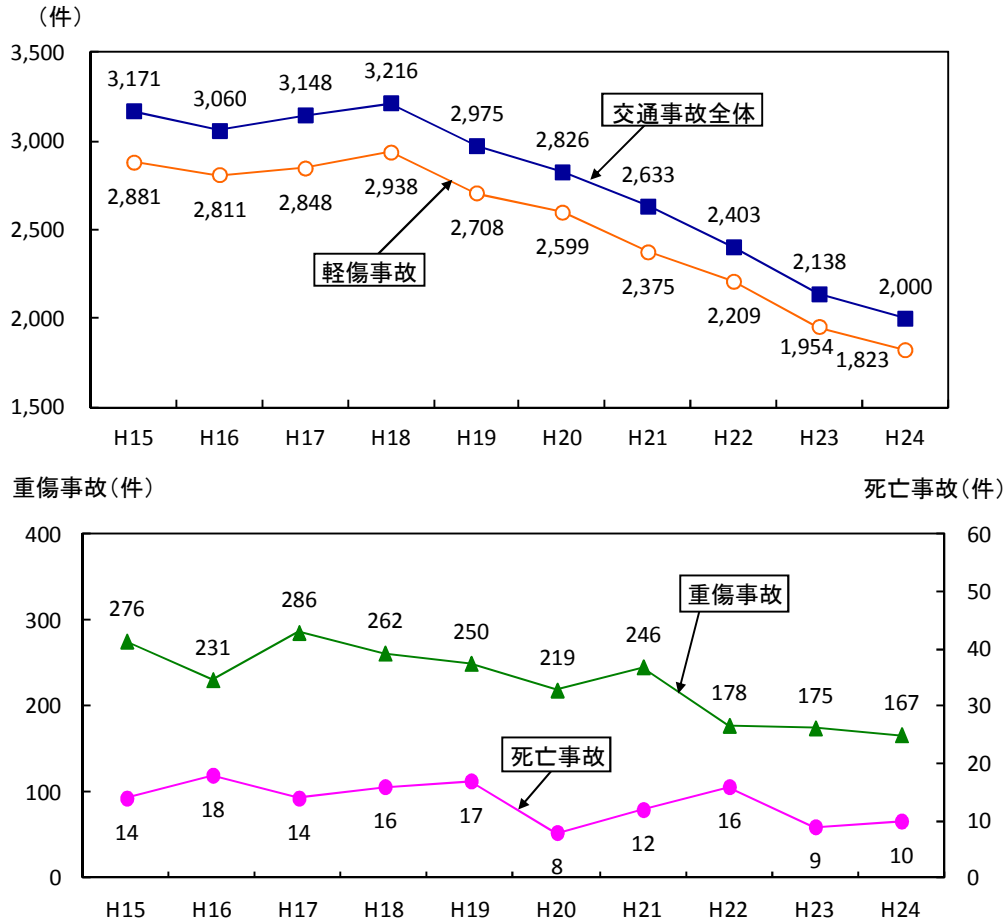
(バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値を示す。)

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-1. 乗合バスの事故

(1) 乗合バスの事故件数、死傷事故件数の推移

乗合バスによる事故は、平成18年以降は減少傾向にあり、重傷事故件数は平成22年以降横ばい、死亡事故件数は前年と同程度である。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 22 乗合バスの全事故及び死傷事故件数の推移

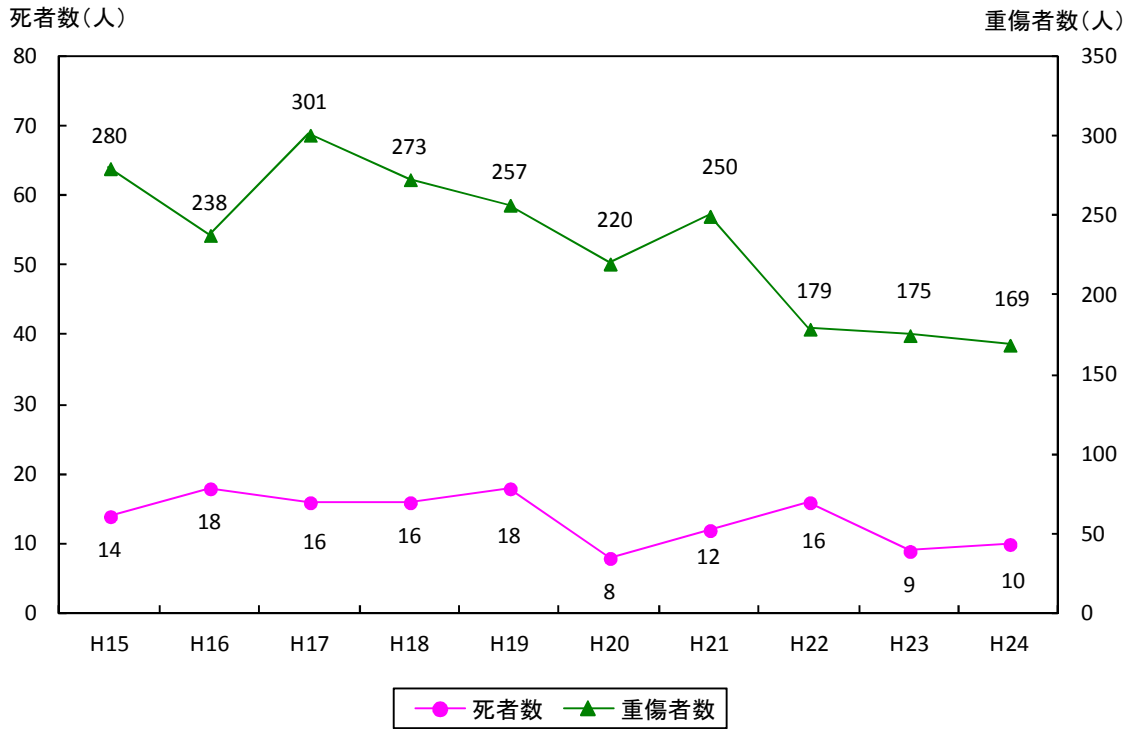
表 23 乗合バスの事故件数の推移 (件)

年 \ 区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H15	14	276	2,881	3,171
H16	18	231	2,811	3,060
H17	14	286	2,848	3,148
H18	16	262	2,938	3,216
H19	17	250	2,708	2,975
H20	8	219	2,599	2,826
H21	12	246	2,375	2,633
H22	16	178	2,209	2,403
H23	9	175	1,954	2,138
H24	10	167	1,823	2,000

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

平成 24 年の乗合バスの事故のうち重傷者数は減少したが、死者数は増加した。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 23 乗合バス事故の死傷者数の推移

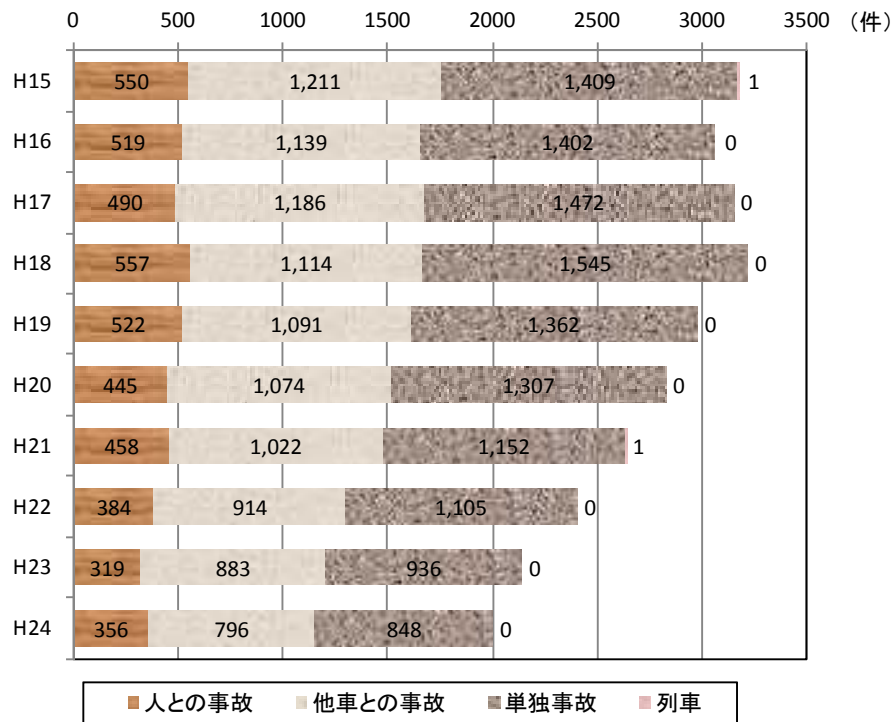
表 24 乗合バス事故の死傷者数の推移 (人)

年 \ 区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H15	14	280	3,392	3,686
H16	18	238	3,285	3,541
H17	16	301	3,419	3,736
H18	16	273	3,562	3,851
H19	18	257	3,188	3,463
H20	8	220	3,043	3,271
H21	12	250	2,821	3,083
H22	16	179	2,653	2,848
H23	9	175	2,326	2,510
H24	10	169	2,139	2,318

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

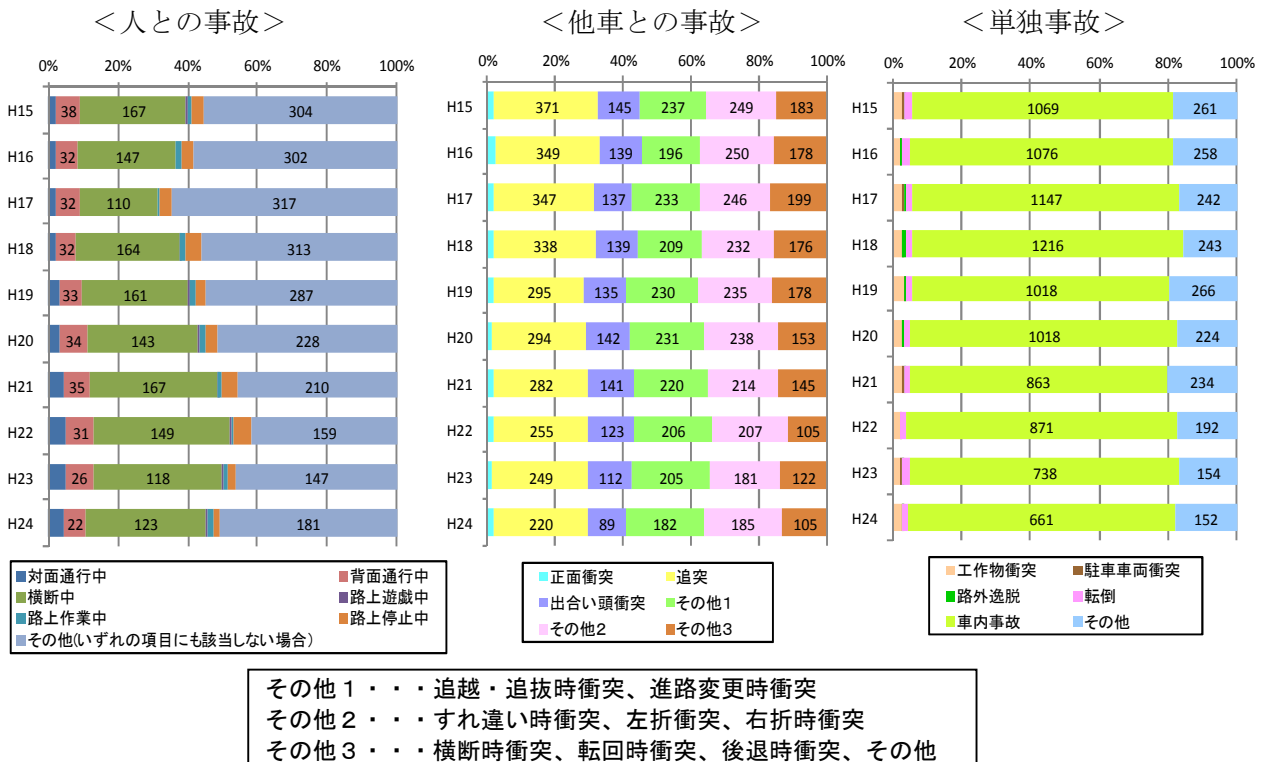
(3) 乗合バスの事故類型別事故件数

乗合バスは単独事故が最も多くそのうち車内事故が大半を占めている。次いで他車との事故が多い。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 24 乗合バスの事故類型別事故件数

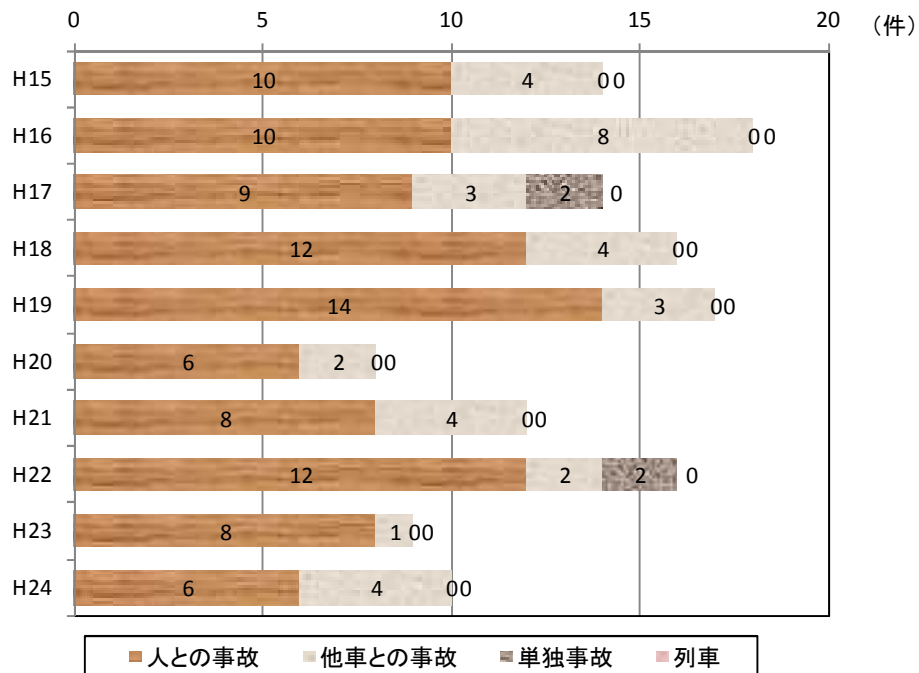


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

図 25 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳

(4) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、人との事故が最も多く、次いで他車との事故が多い。

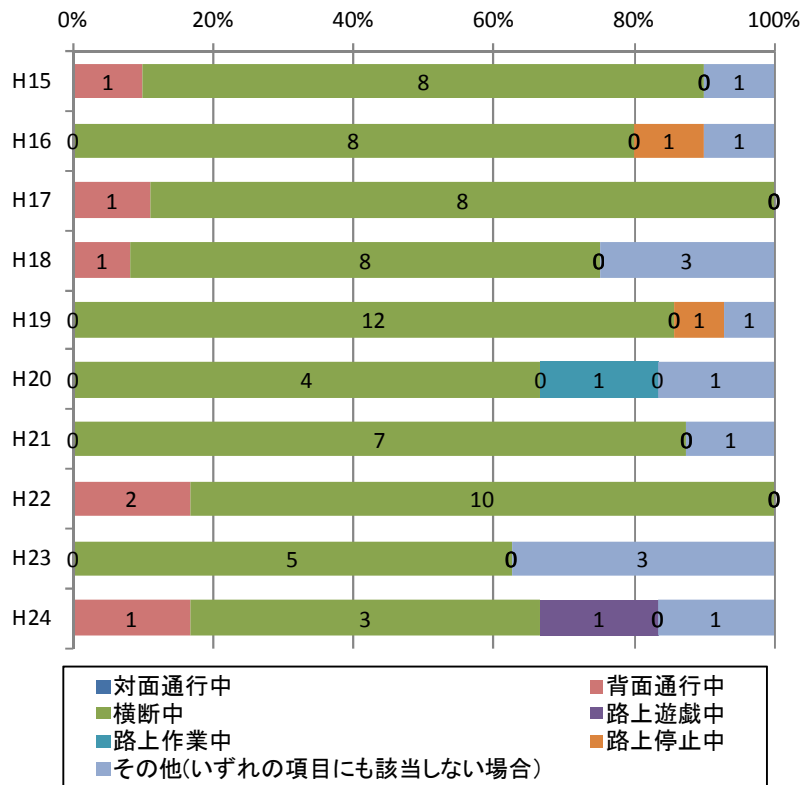


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 26 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

(5) バスの事故類型別死亡事故件数の内訳 (人との事故)

人との死亡事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 27 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳 (人との事故)

(6) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との死亡事故は、平成 17 年以降は死亡事故件数は 2～4 件にとどまっている。

表 25 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

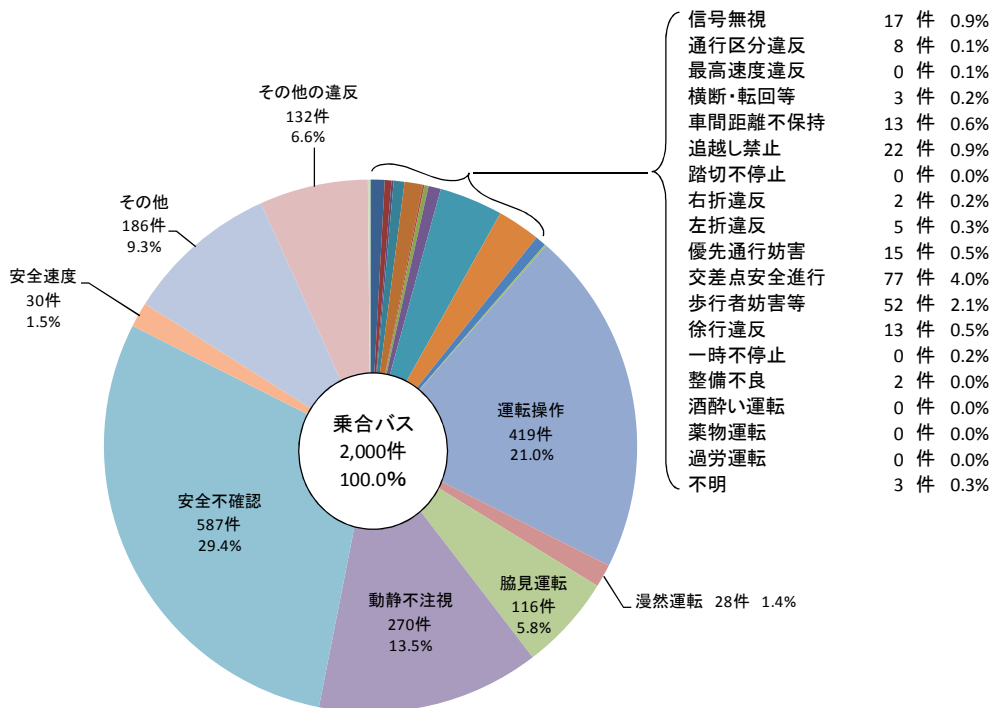
年	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H15	0	1	0	0	2	1
H16	0	1	2	1	3	1
H17	0	0	0	0	2	1
H18	0	0	0	1	1	2
H19	0	0	0	1	0	2
H20	0	0	0	1	1	0
H21	0	0	1	2	0	1
H22	0	0	0	1	1	0
H23	0	0	1	0	0	0
H24	1	0	2	0	1	0

その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(7) 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

乗合バスでは、「安全不確認」(29%)、「運転操作」(21%)、「動静不注視」(14%)といった法令違反の事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の一因の一つと考えられる。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 28 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（平成24年）

(8) 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

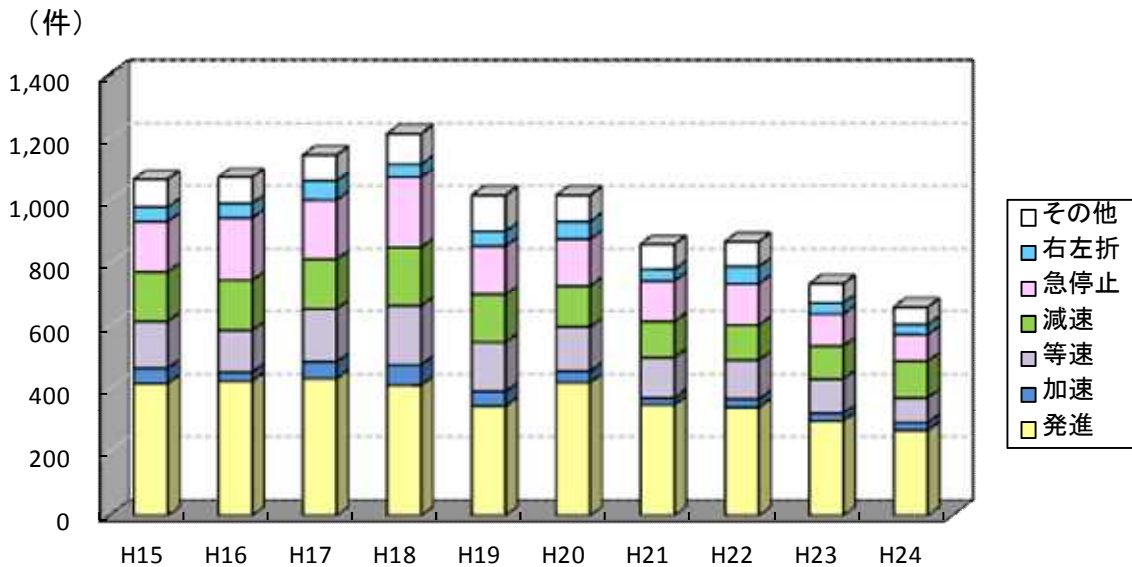
乗合バスの車内事故は、平成 18 年度まで増加傾向にあったが、それ以降は減少しており、平成 24 年は前年と比べて 77 件減少した。

また、平成 24 年に発生した車内事故 661 件のうち、行動類型別にみると、発進時が最も多く 268 件 (40.5%) となっており、次いで減速時 116 件 (17.5%)、急停止時 84 件 (12.7%)、等速時 81 件 (12.3%) となっている。

表 26 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移 (件)

区分	年	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
発進		419	427	435	414	348	422	352	343	298	268
直進	加速	49	28	53	64	46	36	22	27	25	25
	等速	148	132	167	187	156	140	127	123	110	81
	減速	160	162	160	188	152	133	115	111	105	116
急停止		159	197	188	223	155	148	131	134	101	84
右左折		46	46	61	43	47	56	37	55	35	32
その他		88	84	84	97	114	83	79	78	64	55
合計		1,069	1,076	1,148	1,216	1,018	1,018	863	871	738	661

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

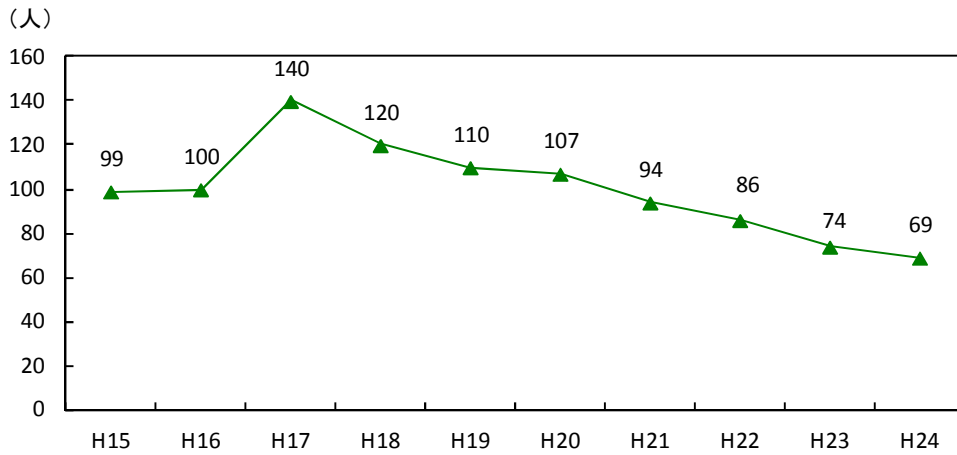


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 29 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

(9) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、平成 17年以降は減少傾向にあるが、依然として多くの重傷者が発生している。

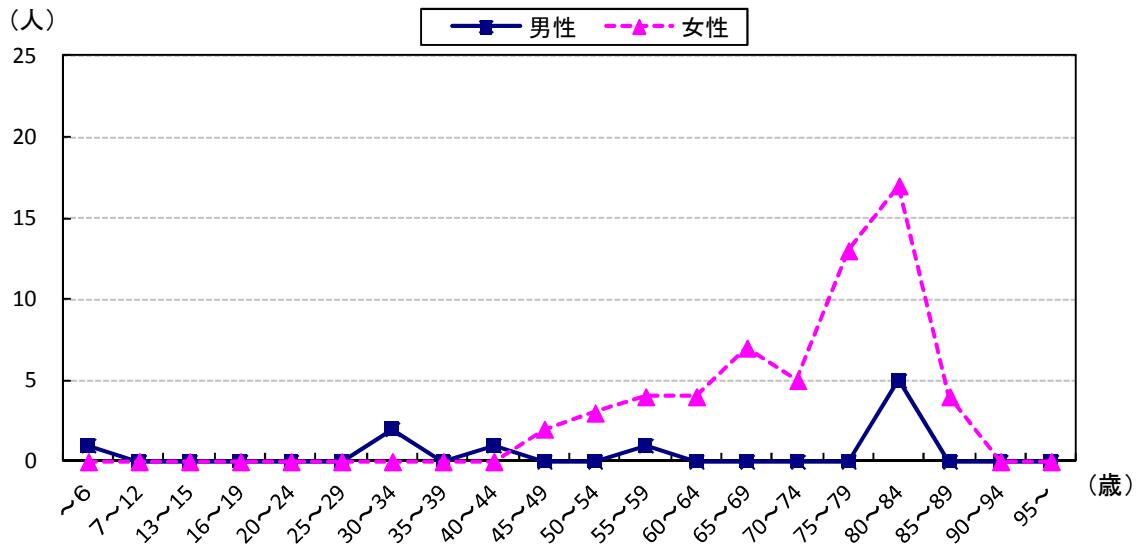


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 30 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

(10) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者を性・年齢別にみると、女性の 75～84 歳が30人と特に多く、50%を超えている。

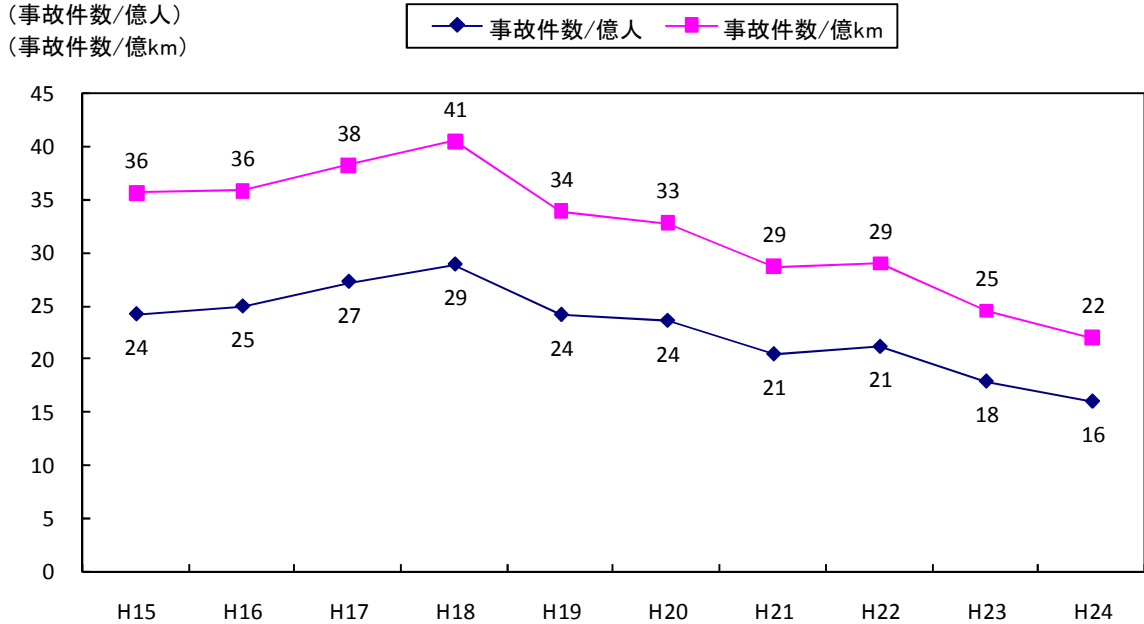


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 31 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布 (平成 24 年)

(11) 輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数

輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数を見ると、乗合バスの輸送人員は平成18年までは増加傾向にあったが、それ以降は減少傾向である。走行距離は変化がないことから、車内事故件数と同等の傾向を示している。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

図 32 輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数

表 27 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H15	1,069	44	30
H16	1,076	43	30
H17	1,148	42	30
H18	1,216	42	30
H19	1,018	42	30
H20	1,018	43	31
H21	863	42	30
H22	871	41	30
H23	738	41	30
H24	661	41	30

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(12) 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布

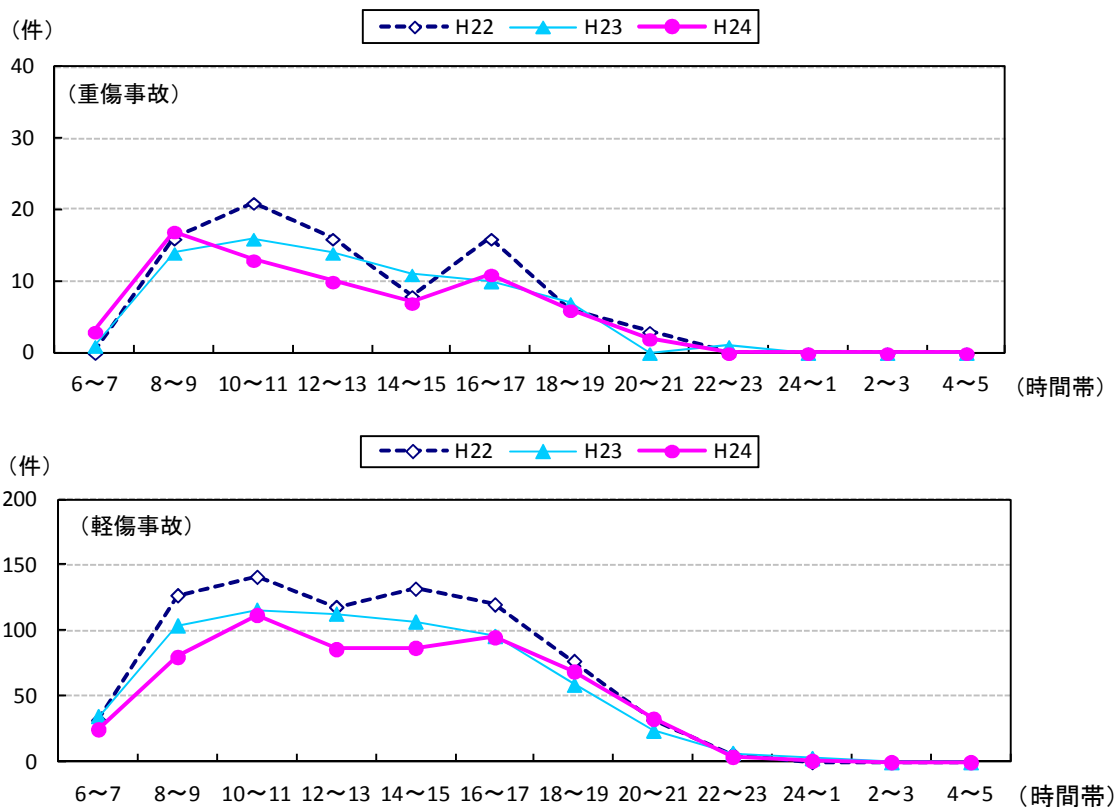
乗合バスの車内事故を時間帯別にみると、8時～17 時台の日中の時間帯に多く発生している。

表 28 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（平成 24年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
6～7	3	25	28
8～9	17	80	97
10～11	13	112	125
12～13	10	86	96
14～15	7	87	94
16～17	11	95	106
18～19	6	69	75
20～21	2	33	35
22～23	0	4	4
24～1	0	1	1
2～3	0	0	0
4～5	0	0	0
合計	69	592	661

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 33 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布

(13) 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布

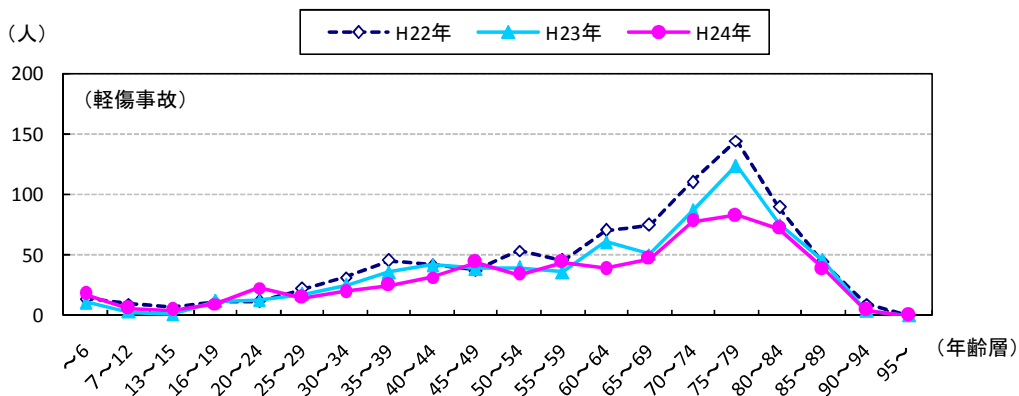
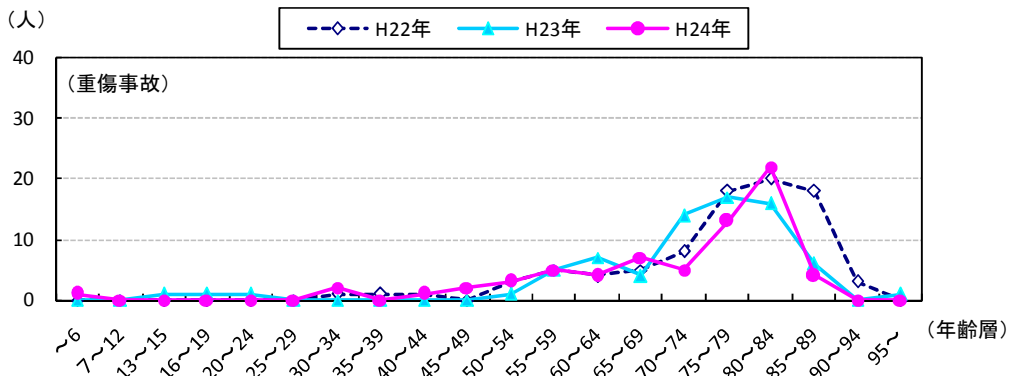
乗合バスの車内事故による負傷者を年齢層別にみると、75～79歳が最も多く、かつ、65歳以上が375人（53.0%）と高齢者が過半数を占めている。

さらに、重傷者では、60歳以上が69人中55人（79.7%）と高齢者の占める割合が顕著となっている。

表 29 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布（人）（平成 24 年）

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～ 6	1	18	19
7～12	0	6	6
13～15	0	5	5
16～19	0	10	10
20～24	0	23	23
25～29	0	15	15
30～34	2	20	22
35～39	0	25	25
40～44	1	32	33
45～49	2	44	46
50～54	3	34	37
55～59	5	44	49
60～64	4	39	43
65～69	7	47	54
70～74	5	78	83
75～79	13	83	96
80～84	22	72	94
85～89	4	39	43
90～94	0	5	5
95～	0	0	0
合計	69	639	708

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



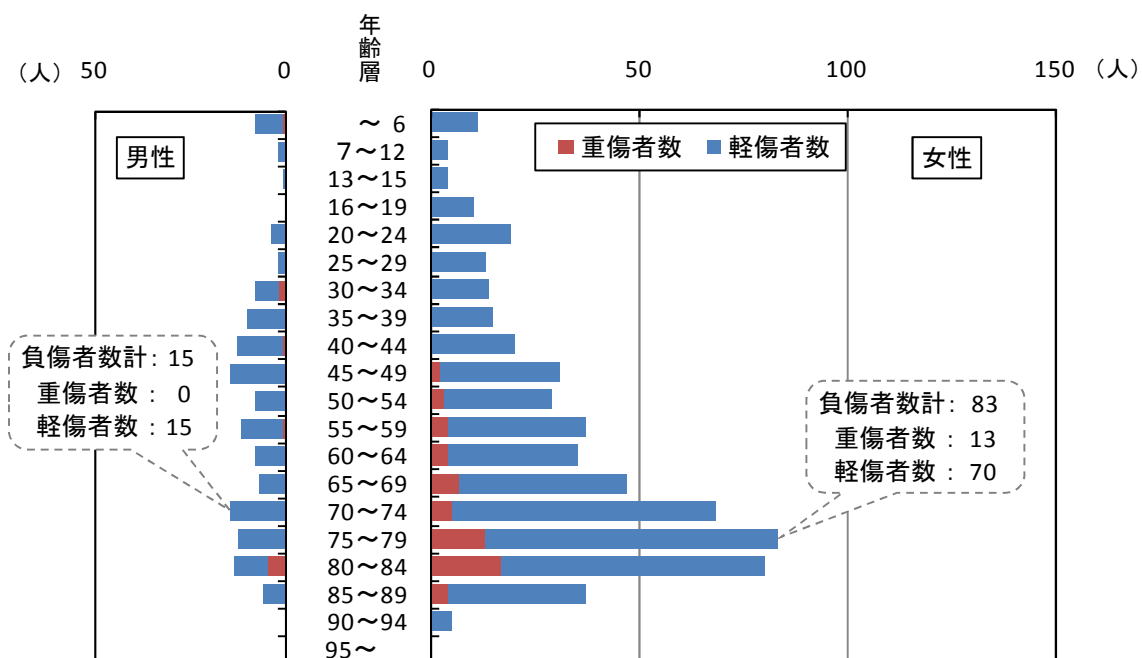
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 34 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者を男女年齢層別に見ると男性は70～74歳が多く、65歳以上が55人（37.7%）と高齢者が多い傾向にある。

また、女性では75～79歳が最も多く（うち重傷者は13人）、65歳以上が320人（56.9%）と高齢者が過半数を占めている。

さらに、男性と女性を比べてみると、女性が男性の約4倍となっている。



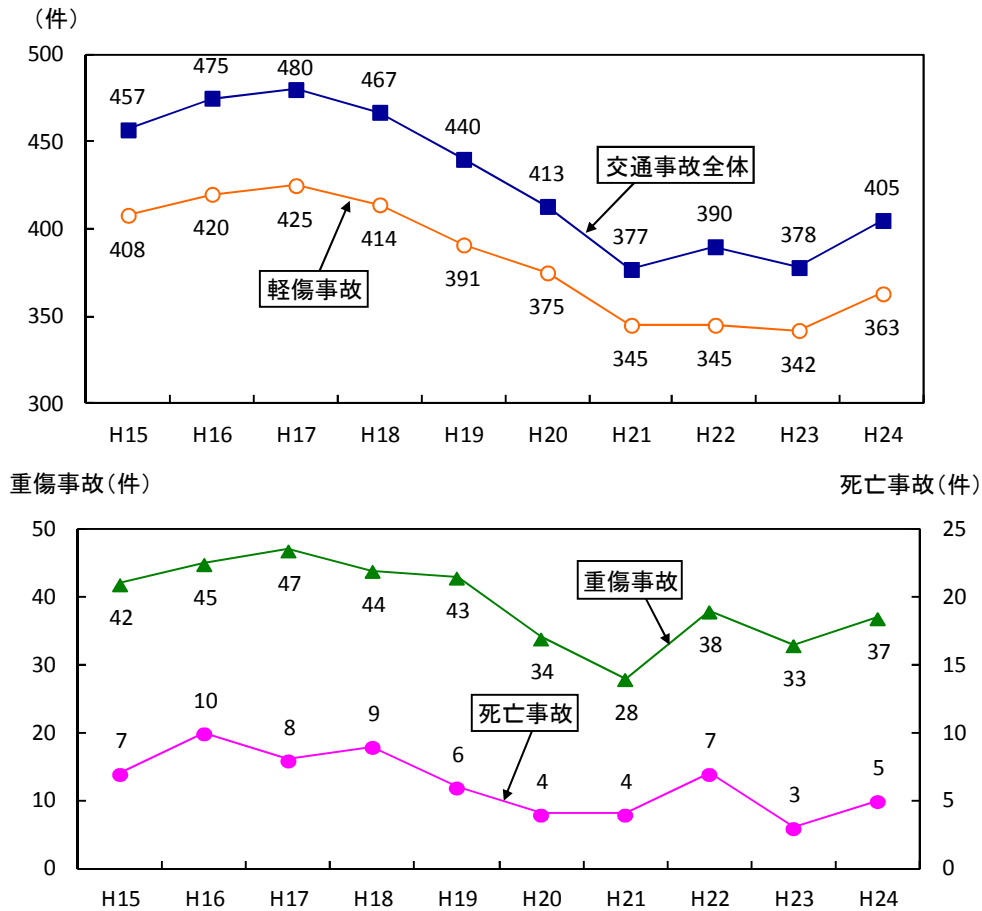
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 35 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数（平成24年）

2-2. 貸切バスの事故

(1) 貸切バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成24年の貸切バスによる事故は、重傷事故、死亡事故ともに前年に比べて増加した。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 36 貸切バスの全事故及び死傷事故件数の推移

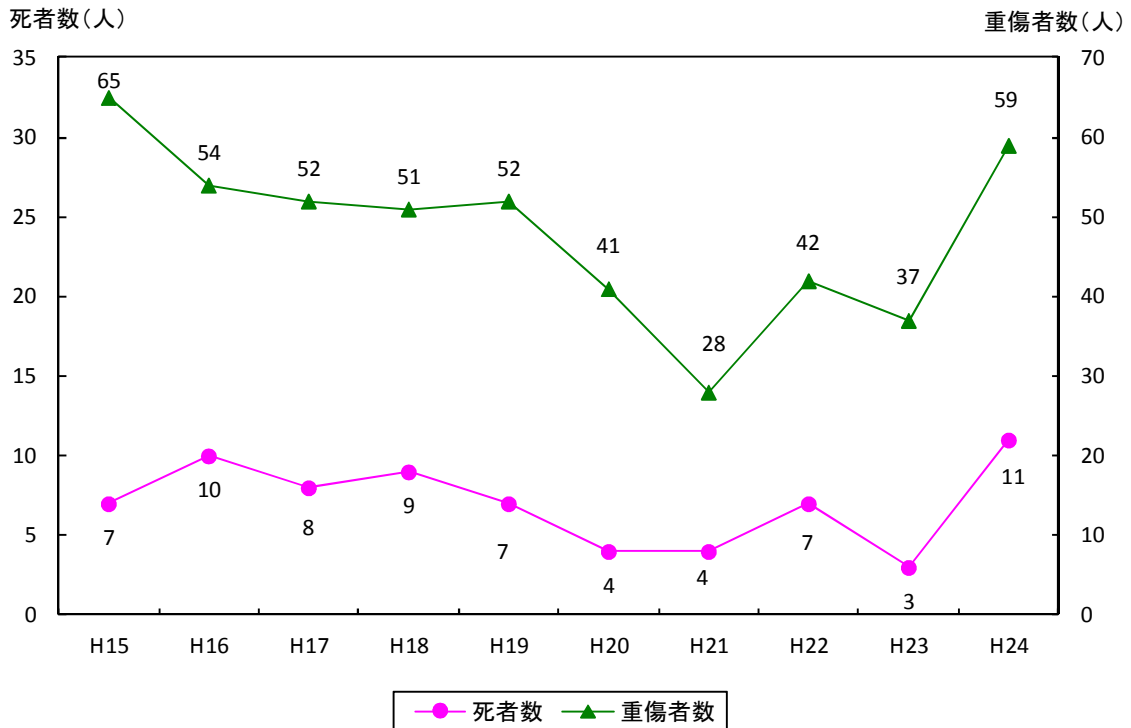
表 30 貸切バスの事故件数の推移（件）

年 \ 区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H15	7	42	408	457
H16	10	45	420	475
H17	8	47	425	480
H18	9	44	414	467
H19	6	43	391	440
H20	4	34	375	413
H21	4	28	345	377
H22	7	38	345	390
H23	3	33	342	378
H24	5	37	363	405

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 貸切バス事故の死傷者数の推移

貸切バスの死傷者数は、平成 24 年は前年に比べて大きく増加した。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 37 貸切バス事故の死傷者数の推移

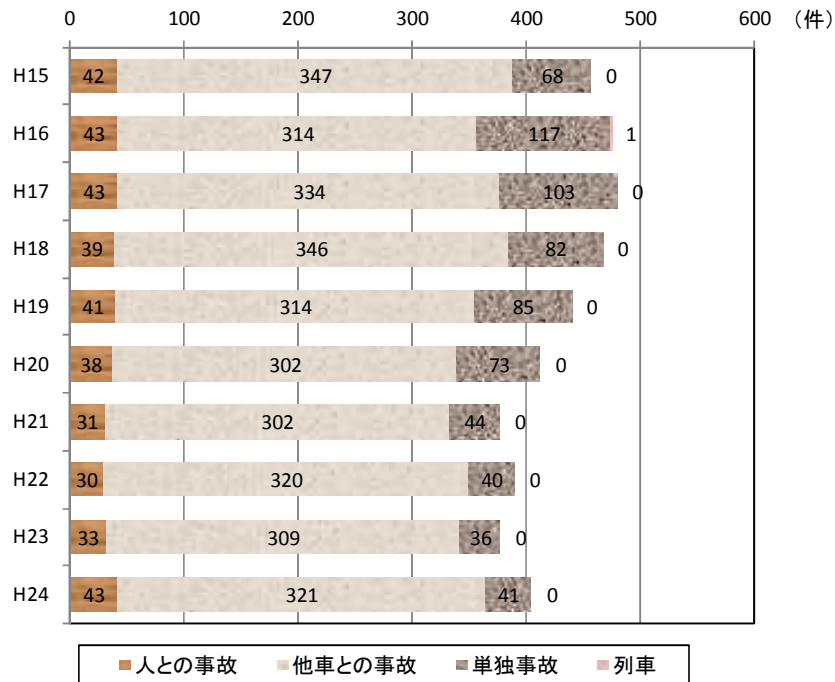
表 31 貸切バス事故の死傷者数の推移（人）

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H15	7	65	821	893
H16	10	54	802	866
H17	8	52	771	831
H18	9	51	852	912
H19	7	52	798	857
H20	4	41	698	743
H21	4	28	545	577
H22	7	42	555	604
H23	3	37	633	673
H24	11	59	655	725

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

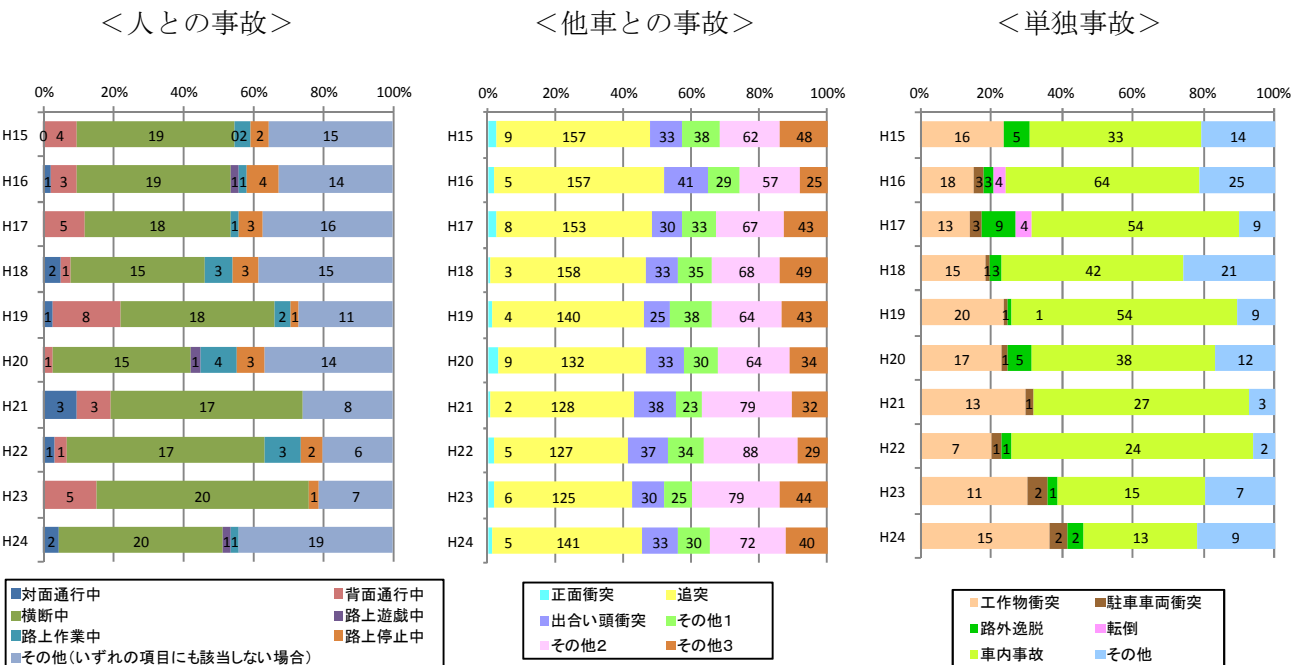
(3) 貸切バスの事故類型別事故件数

貸切バスは他車との事故が他の事故と比べ圧倒的に多く、そのうち追突事故が4割を超えている。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 38 貸切バスの事故類型別事故件数



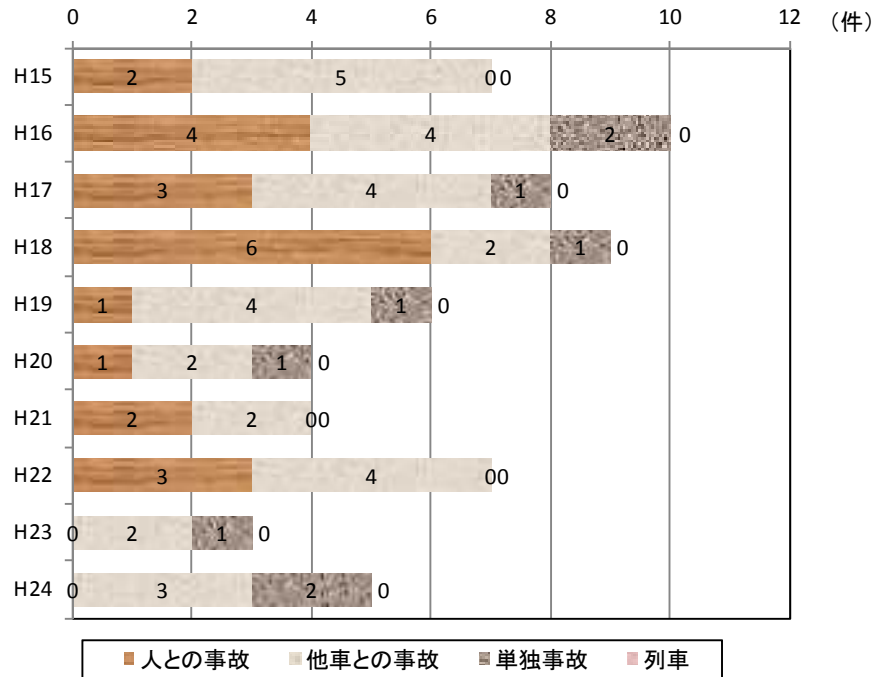
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 39 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳

(4) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、他車との事故が多い。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 40 貸切バスの事故類型別死亡事故件数

(5) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との事故を事故類型別に内訳を見ると顕著な傾向はみられない。

表 32 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

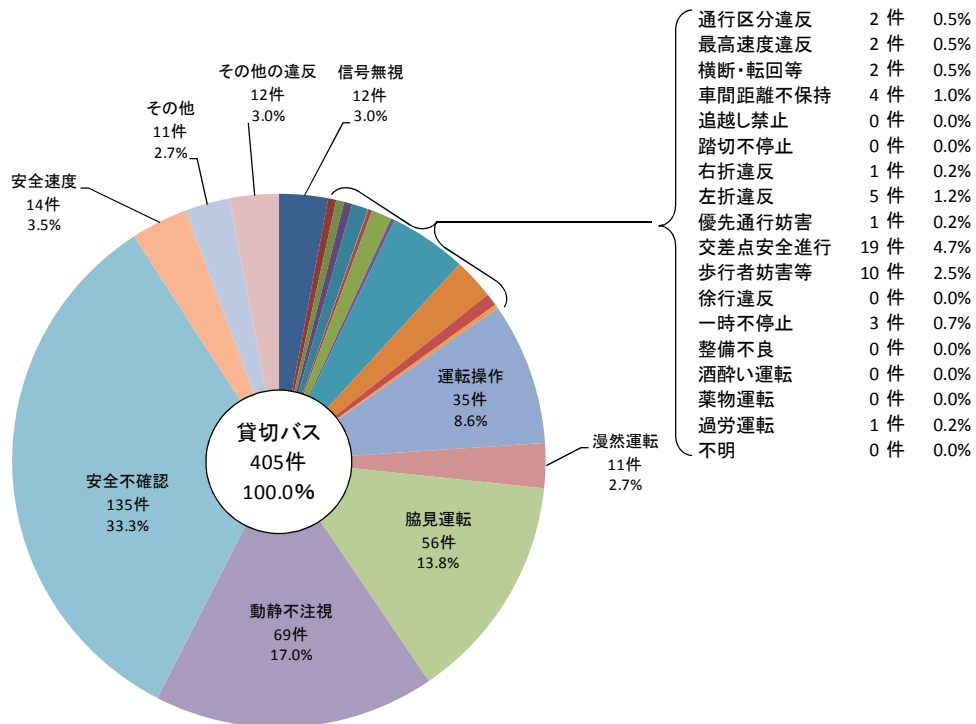
区分 年	正面衝突	追突	出会い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H15	0	1	1	0	2	1
H16	0	0	1	0	2	1
H17	1	1	1	1	0	0
H18	1	0	0	0	0	1
H19	0	1	1	2	0	0
H20	1	0	0	0	1	0
H21	0	0	1	0	1	0
H22	1	0	2	1	0	0
H23	0	1	1	0	0	0
H24	0	1	0	0	1	1

その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

貸切バスでは、「安全不確認」(33.3%)、「動静不注視」(17.0%)、「脇見運転」(13.8%)
といった法令違反の事故が多い。

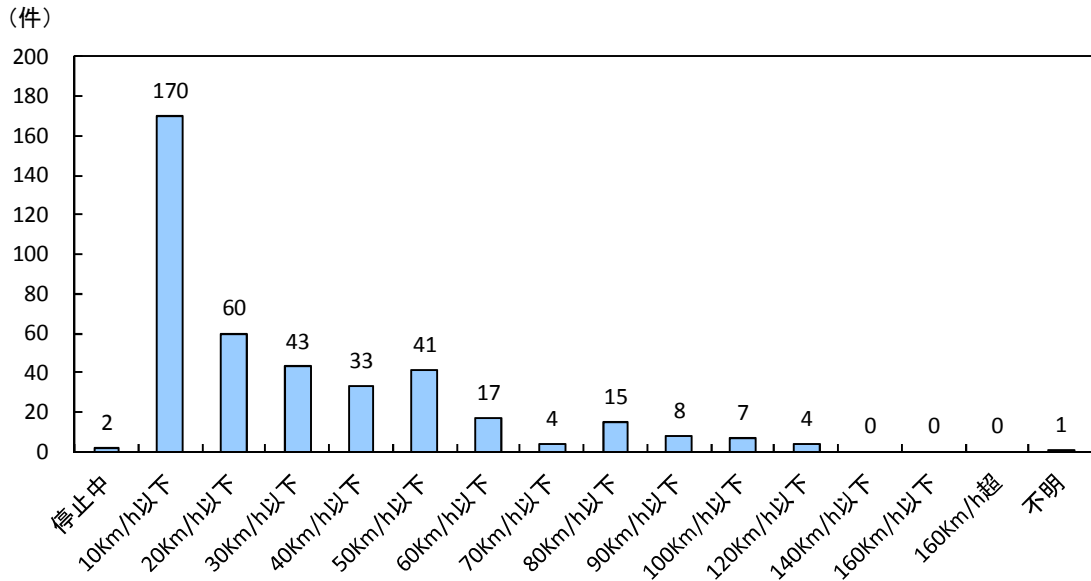


出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 41 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合 (平成24年)

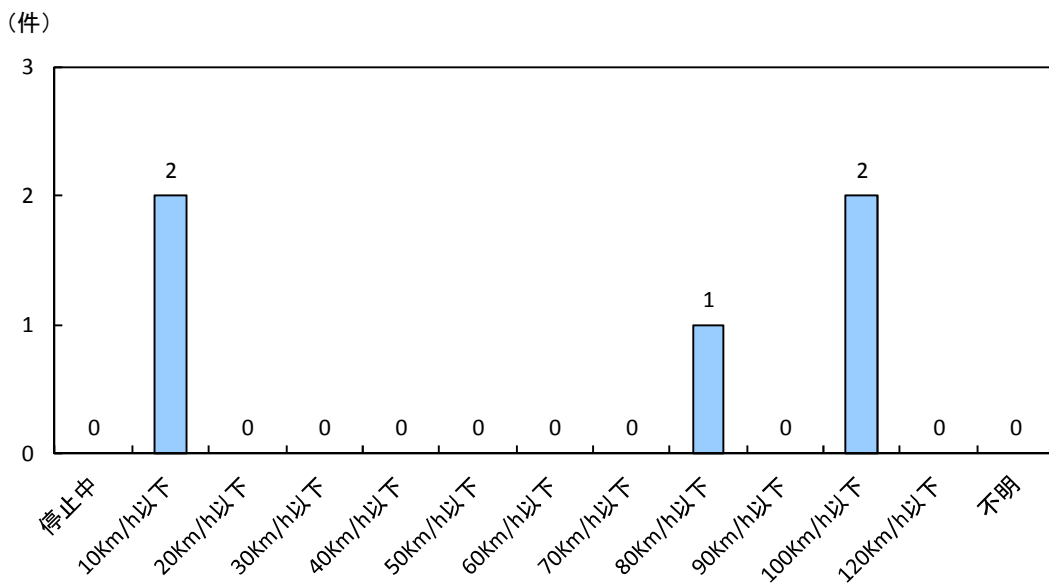
(7) 貸切バスの危険認知速度別の事故件数

平成24年の貸切バスの危険認知速度別の事故件数は10km/h以下で170件と最も多く発生している。次いで20km/h以下で60件、30km/h以下で43件発生している。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 42 貸切バスの危険認知速度別の事故件数（平成 24年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 43 貸切バスの危険認知速度別の死亡事故件数（平成 24年）

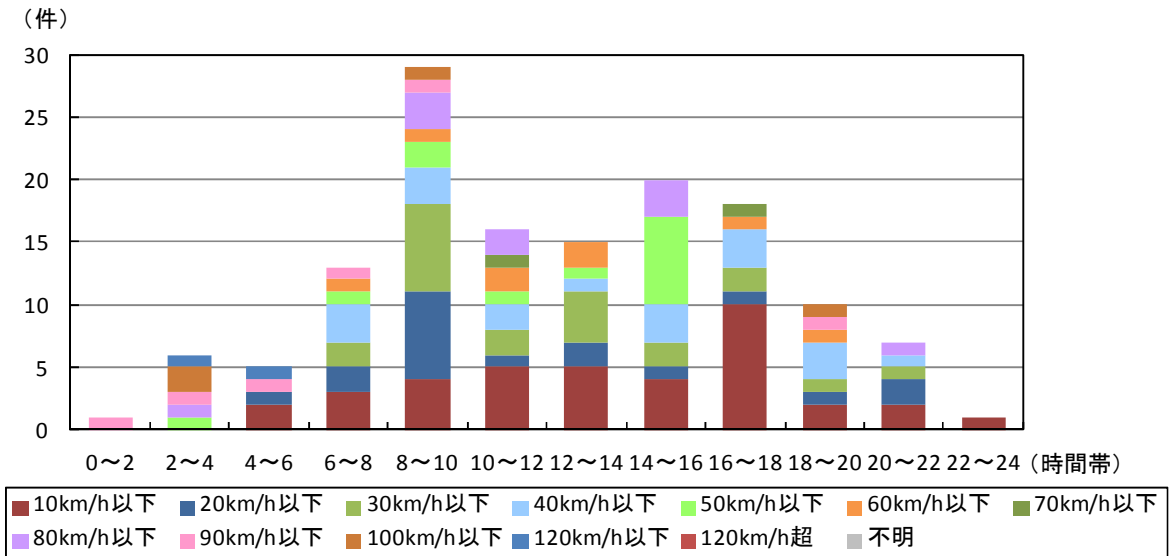
(8) 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布をみると、8～10時の午前と14～18時の夕方の時間帯に多く発生している。また、深夜や早朝の時間帯にも発生している。

表33 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成24年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	2	3	4	5	5	4	10	2	2	1	38
20km/h以下	0	0	1	2	7	1	2	1	1	1	2	0	18
30km/h以下	0	0	0	2	7	2	4	2	2	1	1	0	21
40km/h以下	0	0	0	3	3	2	1	3	3	3	1	0	19
50km/h以下	0	1	0	1	2	1	1	7	0	0	0	0	13
60km/h以下	0	0	0	1	1	2	2	0	1	1	0	0	8
70km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
80km/h以下	0	1	0	0	3	2	0	3	0	0	1	0	10
90km/h以下	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	6
100km/h以下	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4
120km/h以下	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	6	5	13	29	16	15	20	18	10	7	1	141

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



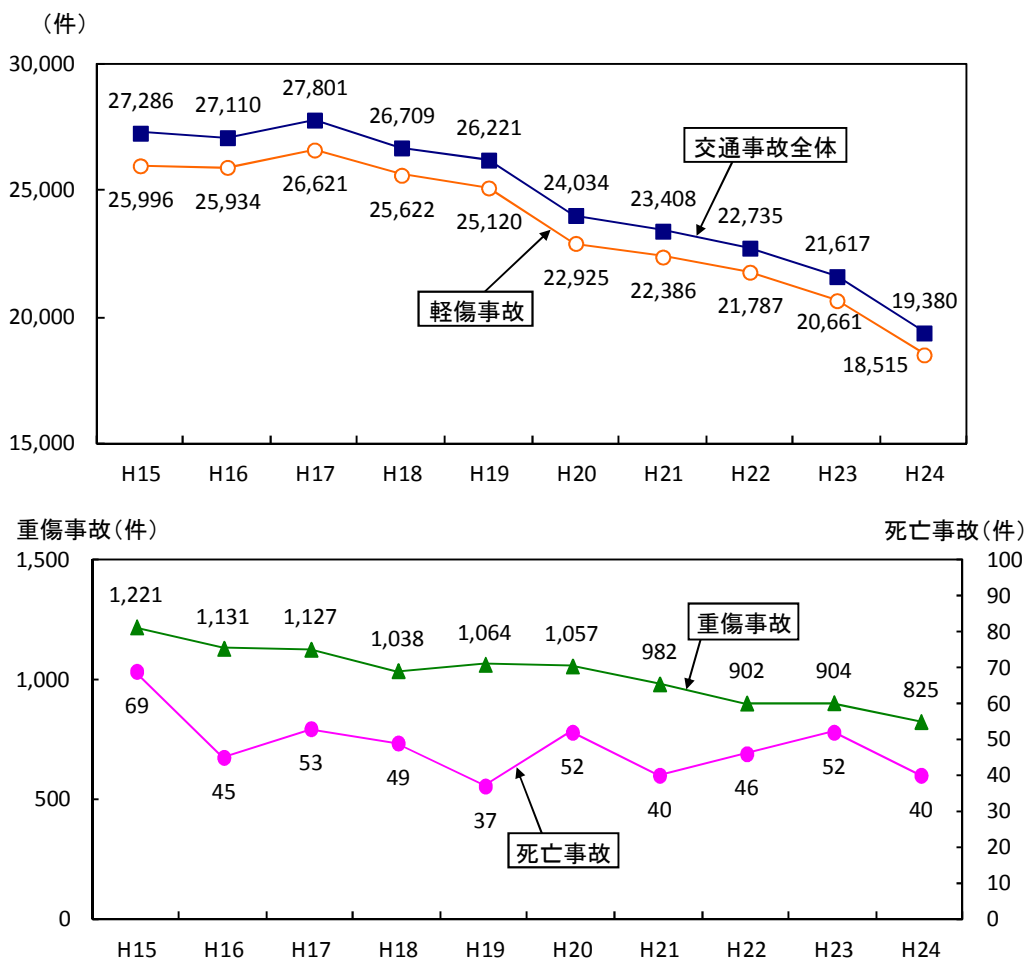
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図44 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成24年）

3. タクシーの事故

(1) タクシーの事故件数、死傷事故件数の推移

タクシー事故件数は、平成 17 年まで増加傾向にあったが、それ以降は減少している。また、死亡事故件数については、増減はあるものの、平成 16 年以降はほぼ横ばい傾向で推移しているが、平成 24 年は前年に比べ減少した。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 45 タクシーの全事故及び死傷事故件数の推移

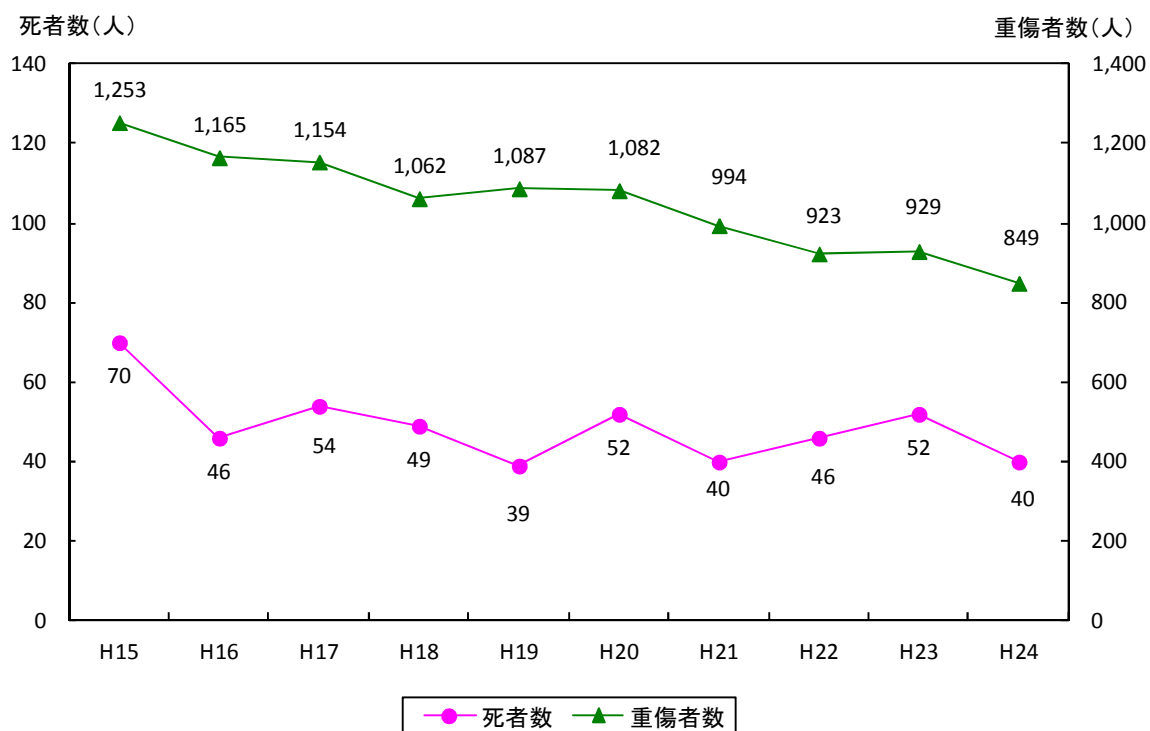
表 34 タクシーの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H15	69	1,221	25,996	27,286
H16	45	1,131	25,934	27,110
H17	53	1,127	26,621	27,801
H18	49	1,038	25,622	26,709
H19	37	1,064	25,120	26,221
H20	52	1,057	22,925	24,034
H21	40	982	22,386	23,408
H22	46	902	21,787	22,735
H23	52	904	20,661	21,617
H24	40	825	18,515	19,380

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) タクシー事故の死傷者数の推移

タクシー事故の重傷者数、死者数は前年に比べ減少した。



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 46 タクシー事故の死傷者数の推移

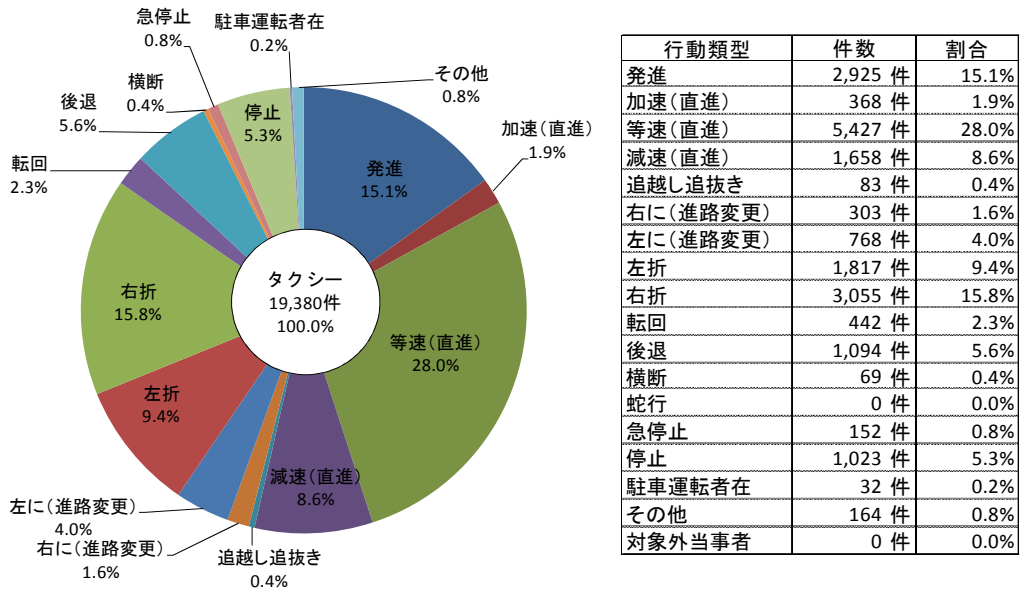
表 35 タクシー事故の死傷者数の推移 (人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H15	70	1,253	30,628	31,951
H16	46	1,165	30,488	31,699
H17	54	1,154	31,167	32,375
H18	49	1,062	29,994	31,105
H19	39	1,087	29,815	30,941
H20	52	1,082	26,899	28,033
H21	40	994	25,963	26,997
H22	46	923	25,317	26,286
H23	52	929	24,167	25,148
H24	40	849	21,651	22,540

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) タクシーの行動類型別事故件数の割合

タクシーの行動類型別事故件数は、等速（直進）5,427 件（28.0%）が最も多く、次いで右折 3,055 件（15.8%）である。

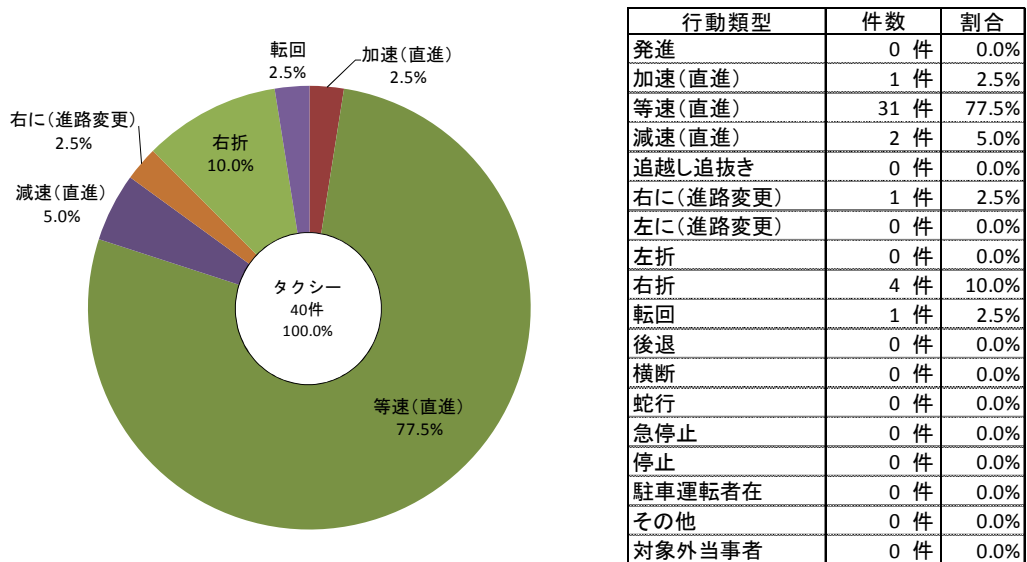


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 47 タクシーの行動類型別事故件数の割合（平成 24 年）

(4) タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合

タクシーの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）31 件（77.5%）が最も多い。

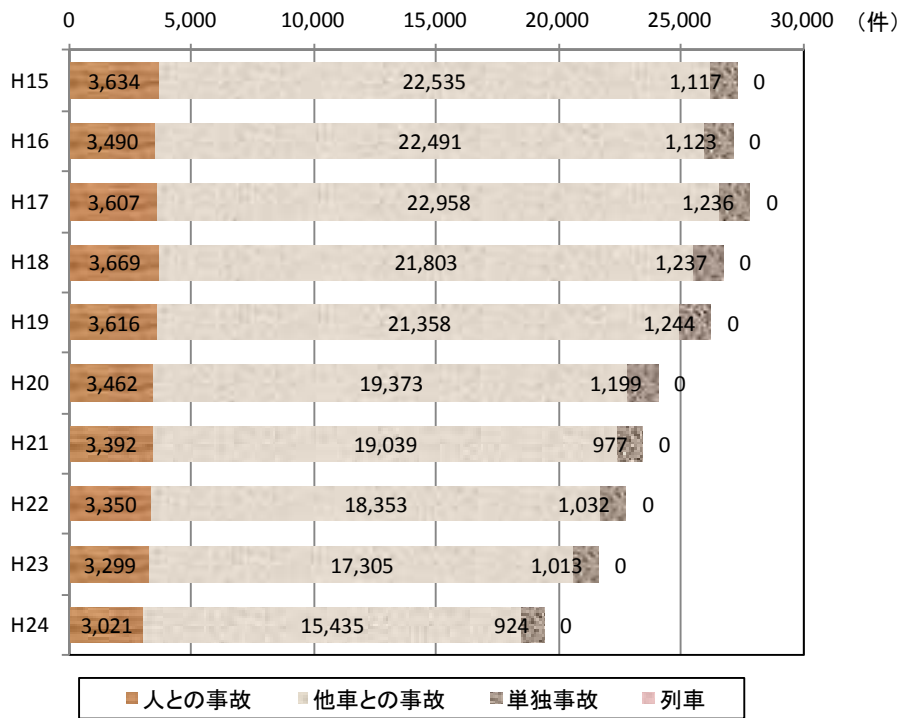


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 48 タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合(平成 24 年)

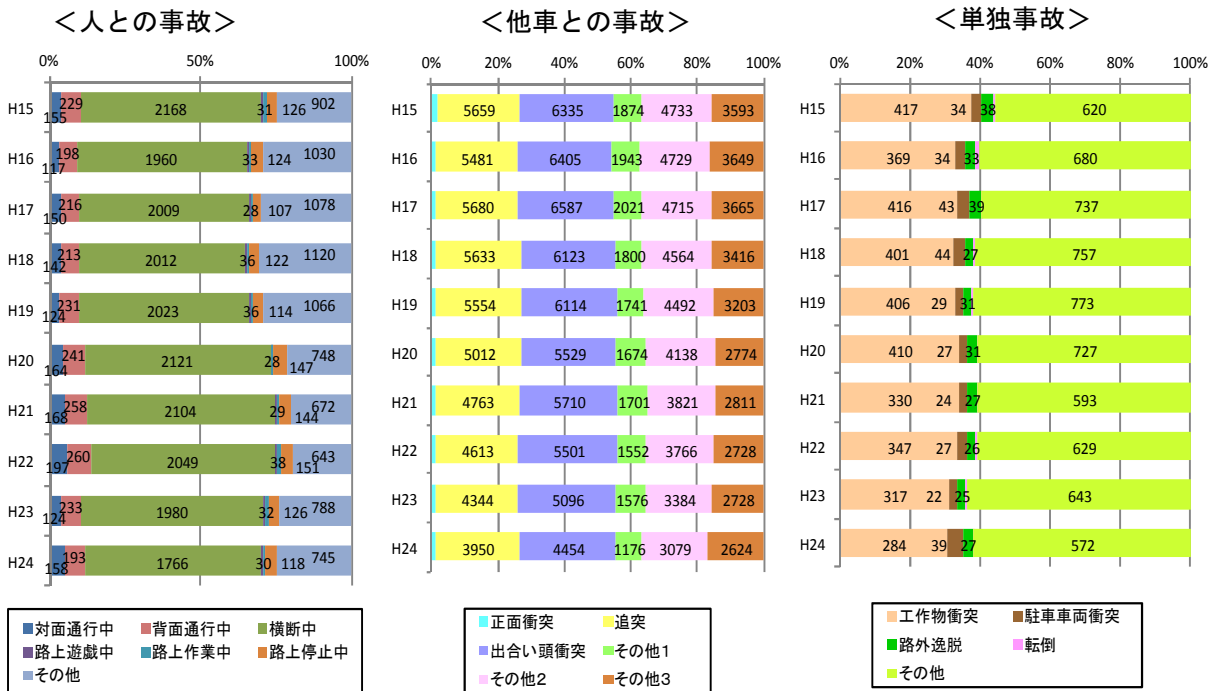
(5) タクシーの事故類型別事故件数の割合

平成 24年のタクシーの事故は、他車との事故が 15,435件で約 8 割を占めており、そのうち出会い頭衝突が 4,454 件と最も多く発生している



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 49 タクシーの事故類型別事故件数の割合



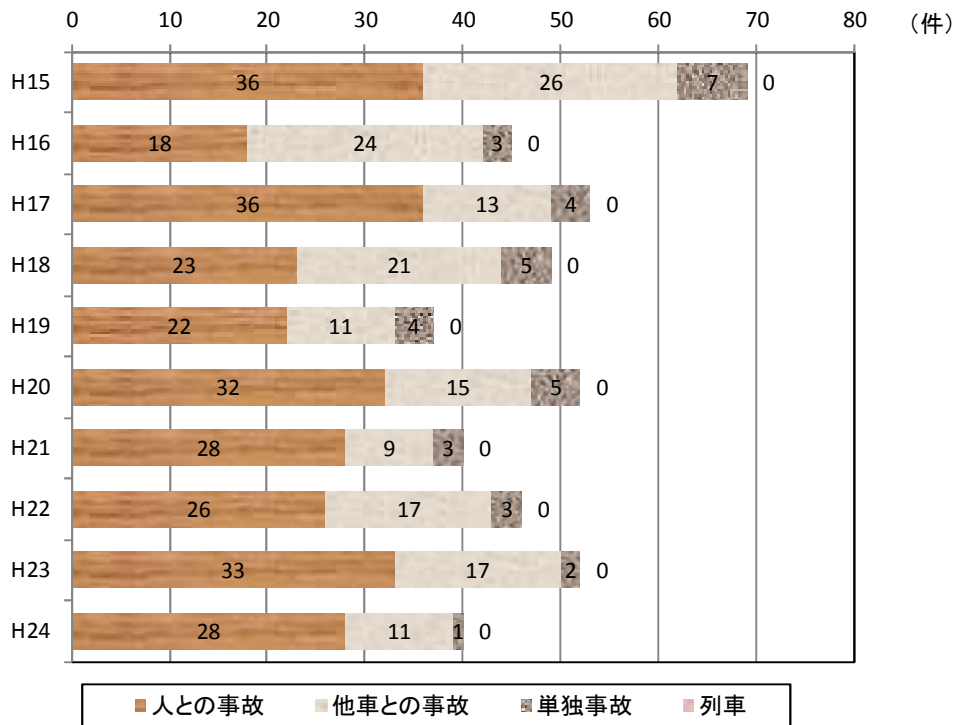
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 50 タクシーの事故類型別事故件数の内訳

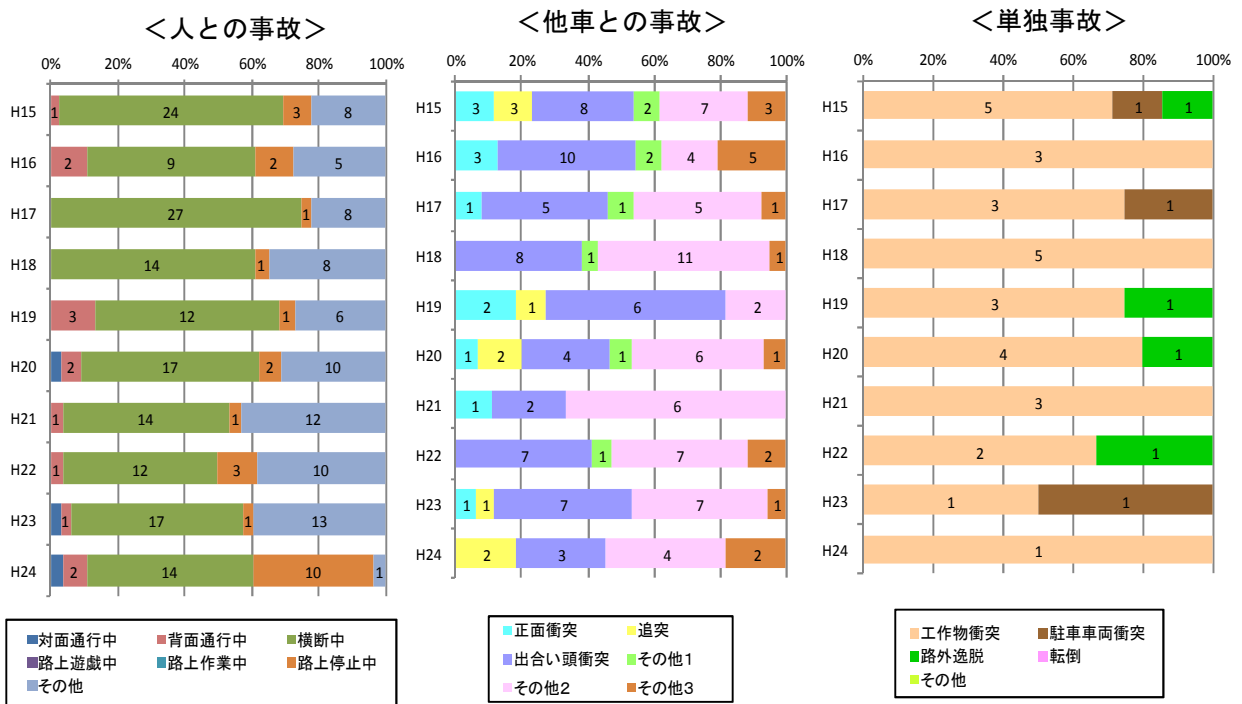
(6) タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合

平成 24 年のタクシーの死亡事故は、人との事故が 28 件で約 7 割を占めており、そのうち横断中の事故が 14 件と最も多く発生している。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 51 タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合



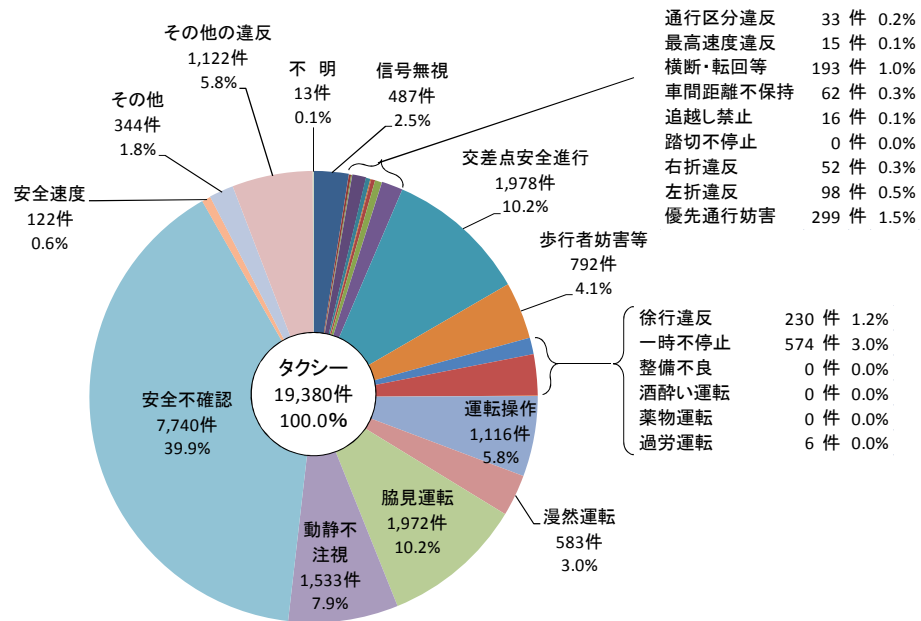
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 52 タクシーの事故類型別死亡事故件数の内訳

(7) タクシーの法令違反別の事故件数の割合

タクシーでは、「安全不確認」7,740件 (39.9%)、「交差点安全進行」1,978件 (10.2%)、「脇見運転」1,972件 (10.2%) といった法令違反の事故が多い。

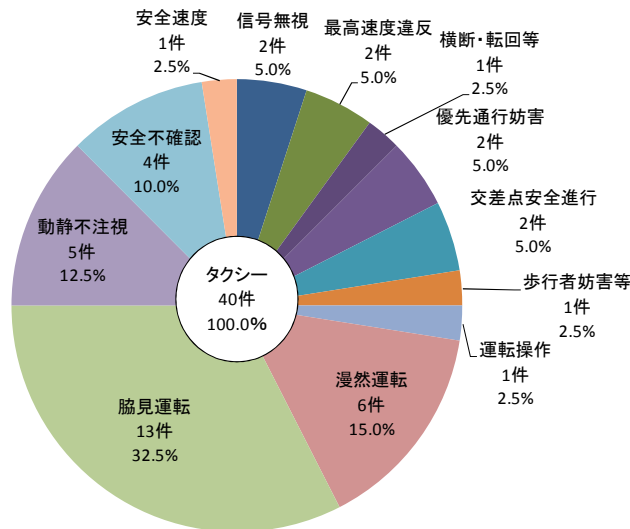


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 53 タクシーの法令違反別事故件数の割合

(8) タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合

タクシーでは、「脇見運転」13件 (32.5%)、「漫然運転」6件 (15.0%)、「動静不注視」5件 (12.5%) といった法令違反の死亡事故が多い。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

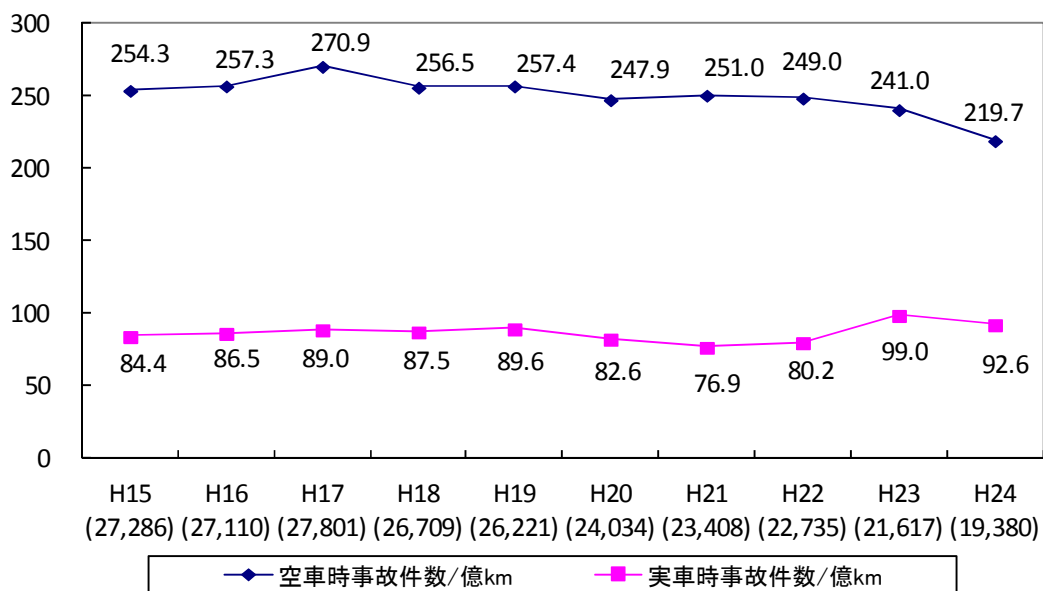
図 54 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合

(9) タクシーの走行距離1億キロあたりの事故件数(空車キロ、実車キロ)

タクシーの走行距離1億キロあたりの事故件数(空車キロ、実車キロ)は、空車時が実車時と比べて多く発生しており、平成24年は空車時が大幅に減少したが、実車時も微減だったため約2.4倍となった。

(空車時事故件数/億km)

(実車時事故件数/億km)



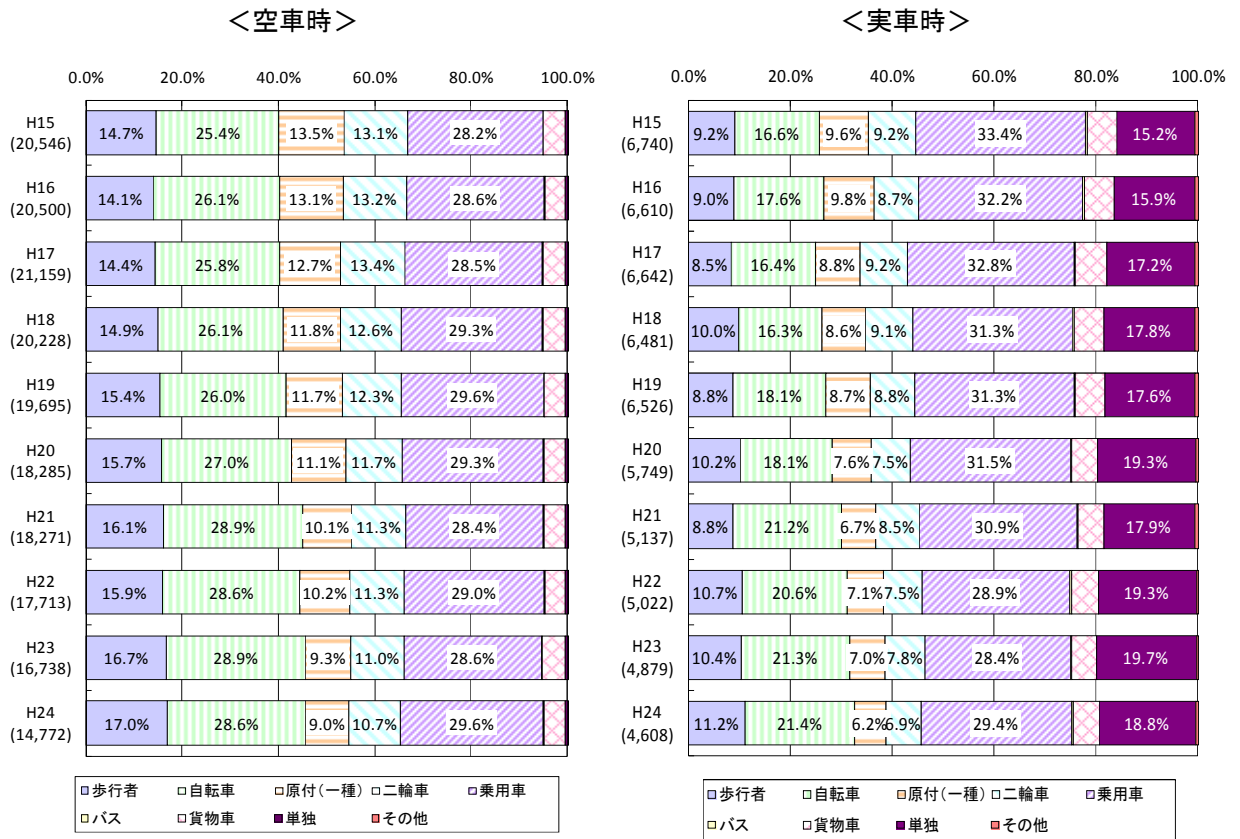
注：()内の数字は空車時と実車時を合わせた事故件数、単位は件

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

図55 タクシーの走行距離1億キロあたりの事故件数

(10) タクシーの事故の相手方の割合

実車時は、空車時に比べて単独の事故が圧倒的に多い。



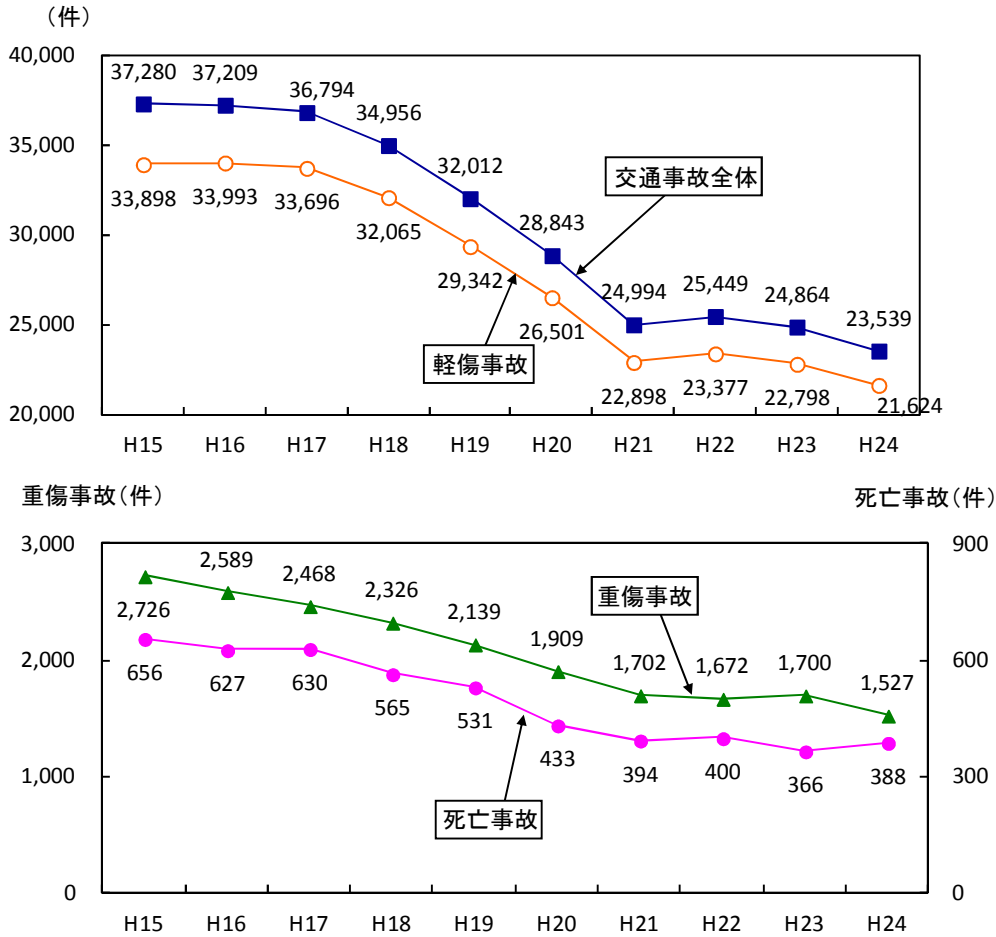
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 56 タクシーの事故の相手方の割合

4. トラックの事故

(1) トラックの事故件数、死傷事故件数の推移

平成 24 年のトラックによる事故件数は 23,539 件（対前年比 5.3%減）であり、前年に比べて重傷事故件数は減少し、死亡事故件数は増加した。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 57 トラックの全事故及び死傷事故件数の推移

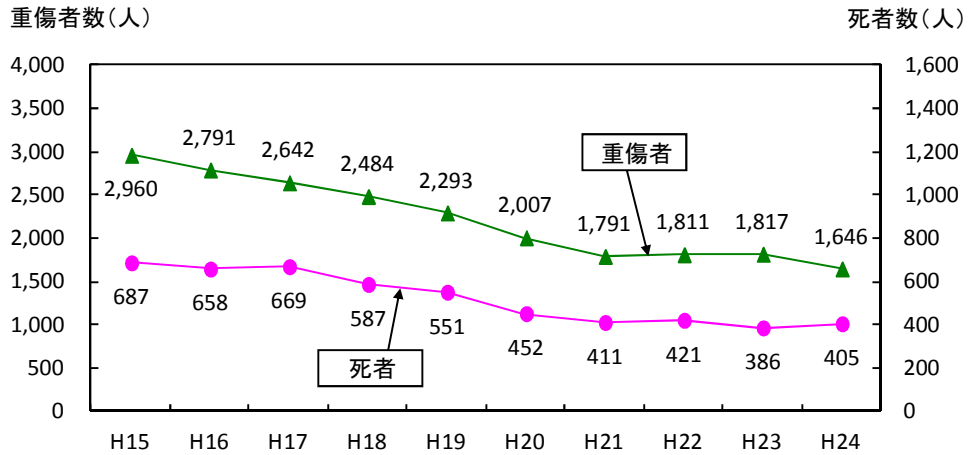
表 36 トラックの事故件数の推移（件）

年 \ 区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H15	656	2,726	33,898	37,280
H16	627	2,589	33,993	37,209
H17	630	2,468	33,696	36,794
H18	565	2,326	32,065	34,956
H19	531	2,139	29,342	32,012
H20	433	1,909	26,501	28,843
H21	394	1,702	22,898	24,994
H22	400	1,672	23,377	25,449
H23	366	1,700	22,798	24,864
H24	388	1,527	21,624	23,539

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) トラック事故の死傷者数の推移

トラックの事故による死者、重傷者数は平成 21 年以降ほぼ横ばい傾向にあったが、平成 24 年の死者数は 405人で前年に比べて増加し、重傷者数は 1,646 人となり、前年に比べて減少した。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 58 トラック事故の死傷者数の推移

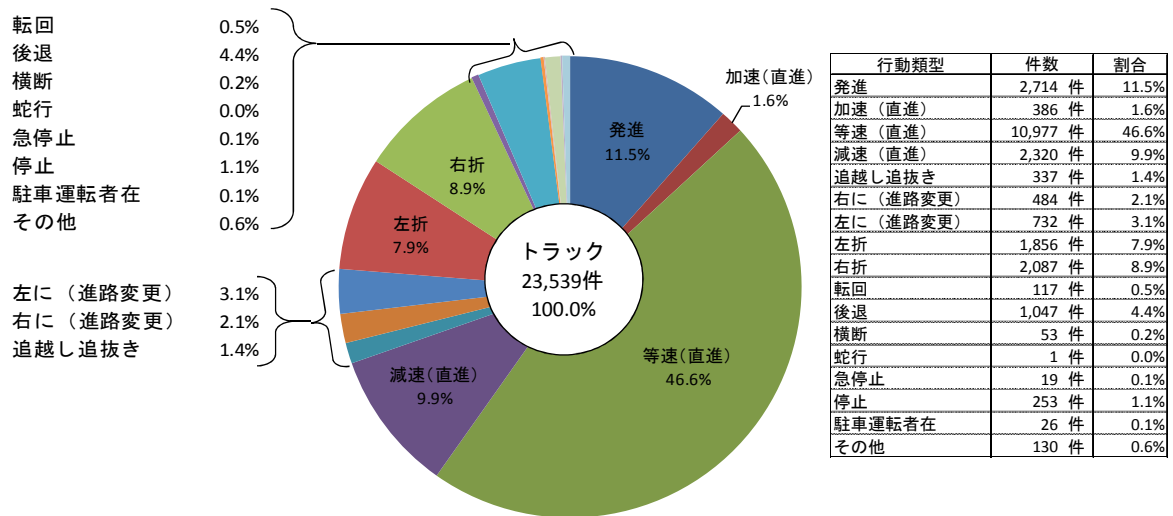
表 37 トラック事故の死傷者数の推移（人）

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H15	687	2,960	46,288	49,935
H16	658	2,791	46,246	49,695
H17	669	2,642	45,519	48,830
H18	587	2,484	43,185	46,256
H19	551	2,293	39,420	42,264
H20	452	2,007	35,052	37,511
H21	411	1,791	30,227	32,429
H22	421	1,811	31,171	33,403
H23	386	1,817	30,436	32,639
H24	405	1,646	28,824	30,875

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) トラックの行動類型別事故件数の割合

トラックの行動類型別事故件数は、等速（直進）10,977件（46.6%）が、最も多く、次いで発進 2,714件（11.5%）と続いている。

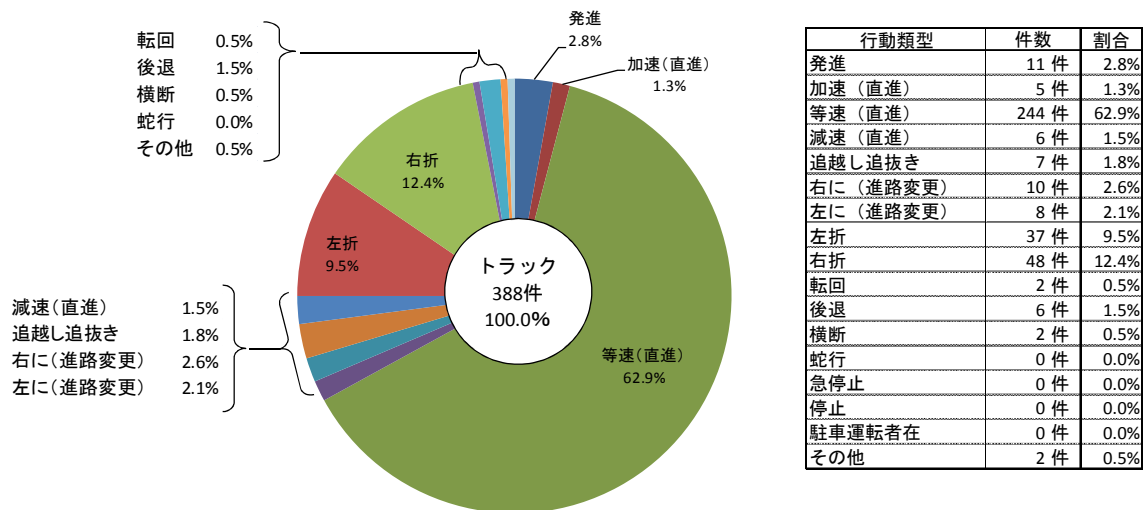


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 59 トラックの行動類型別事故件数の割合（平成 24年）

(4) トラックの行動類型別死亡事故件数の割合

トラックの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）244 件（62.9%）、右折 48 件（12.4%）、左折 37 件（9.5%）と続いている。

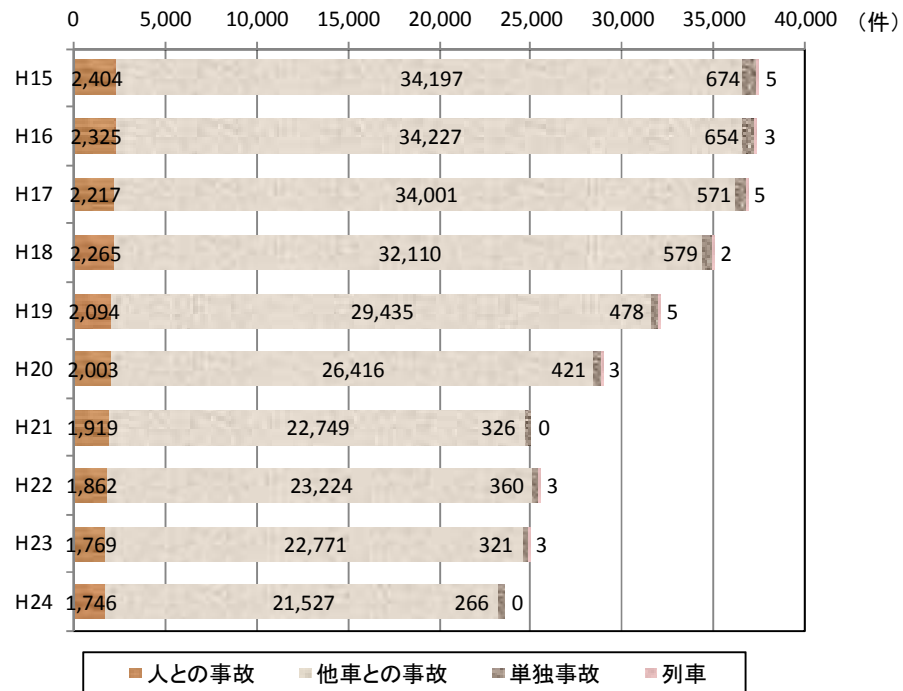


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 60 トラックの行動類型別死亡事故件数の割合（平成 24年）

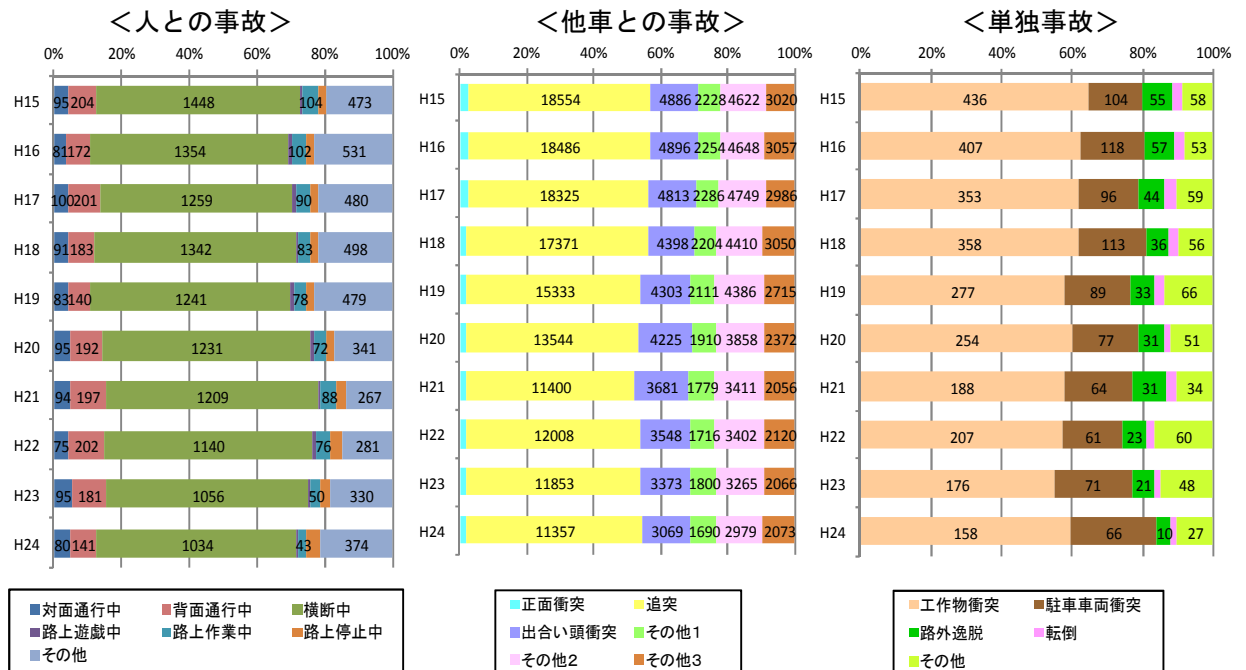
(5) トラックの事故類型別事故件数の割合

トラックの事故は、他車との事故が約9割を占めており、そのうち約53%は追突事故となっている。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 61 トラックの事故類型別事故件数の割合



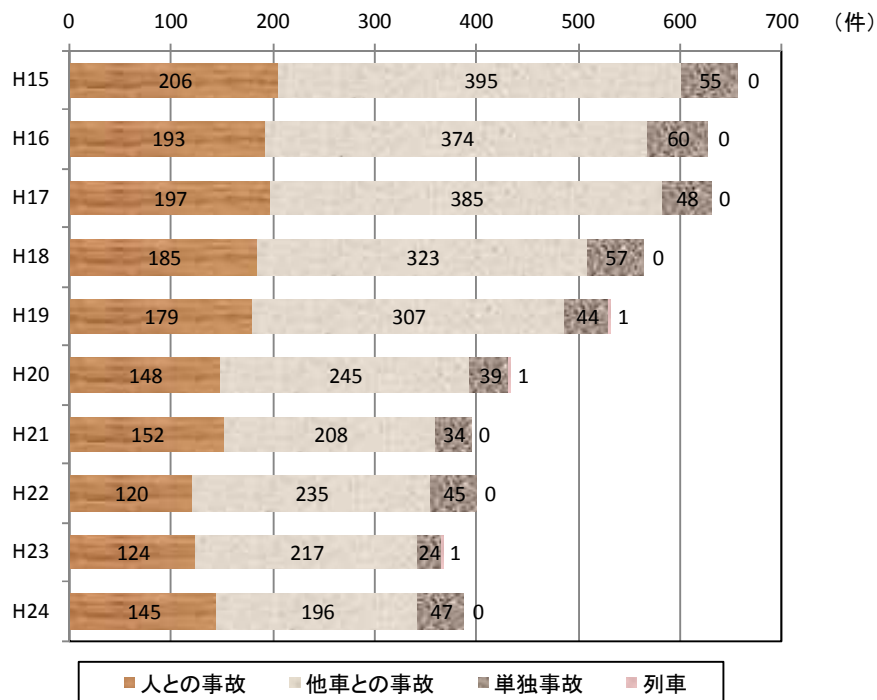
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 62 トラックの事故類型別事故件数の内訳

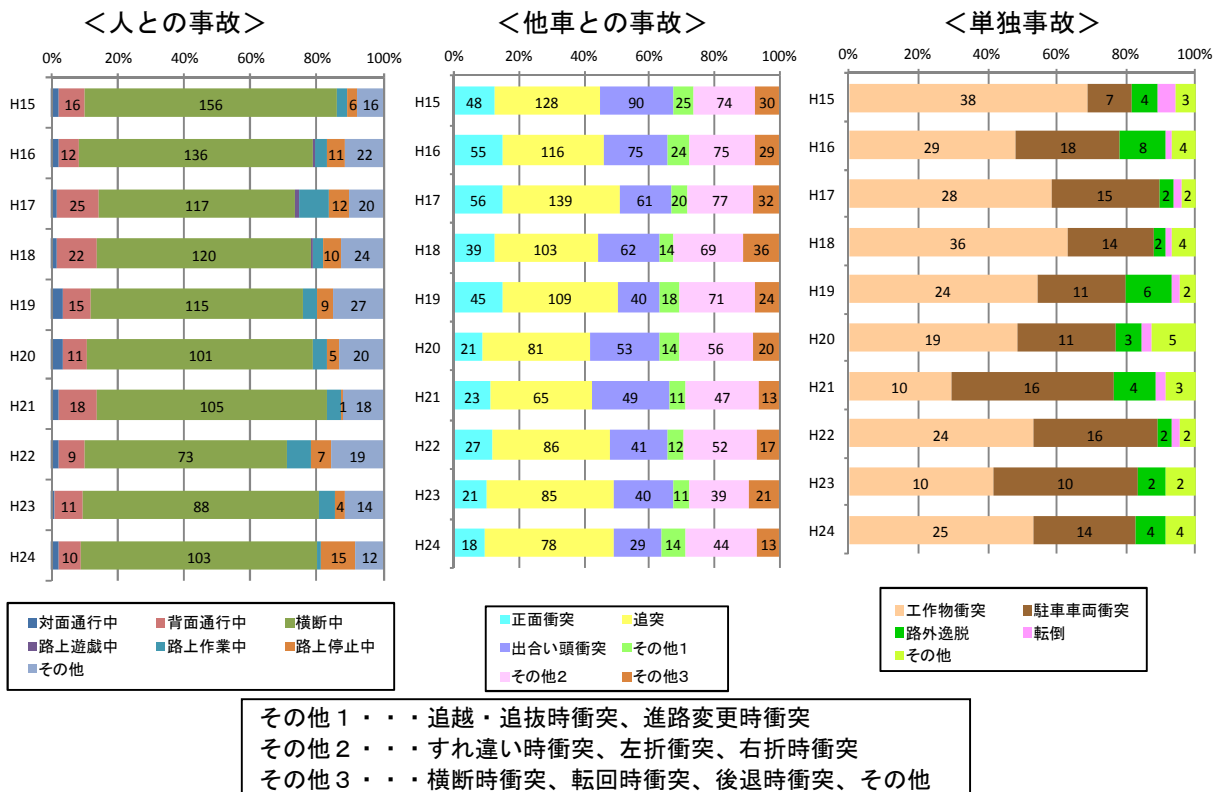
(6) トラックの事故類型別死亡事故件数の割合

トラックの死亡事故は、他車との事故が半数以上を占めており、そのうち追突が最も多く約4割を占めている。



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 63 トラックの事故類型別死亡事故件数の割合

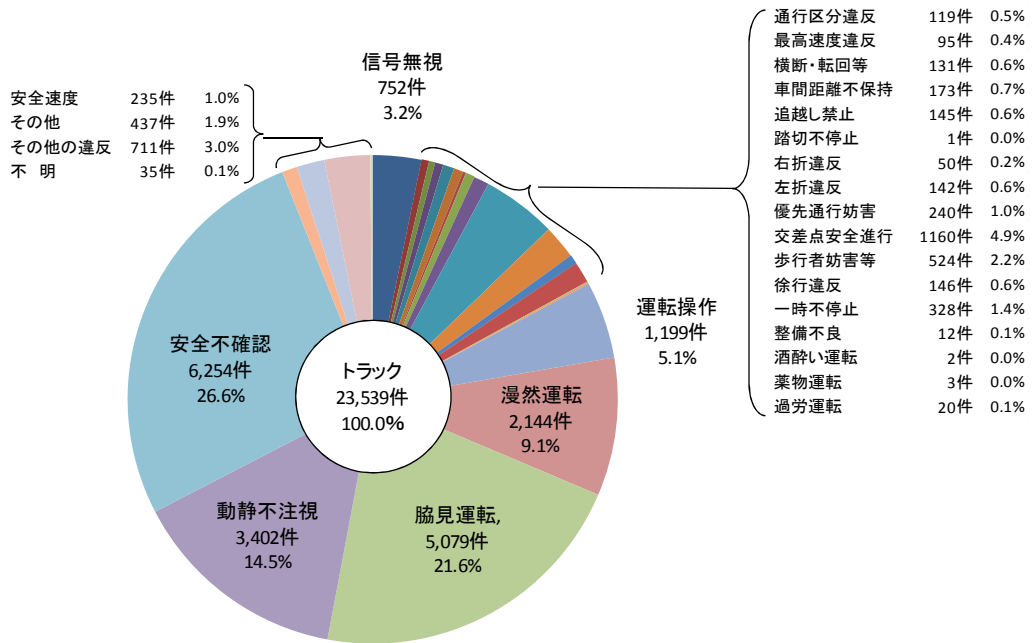


出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 64 トラックの事故類型別死亡事故件数の内訳

(7) トラックの法令違反別の事故件数の割合

トラックでは、「安全不確認」6,254件 (26.6%)、「脇見運転」5,079件 (21.6%)、「動静不注視」3,402件 (14.5%)といった法令違反の事故が多い。

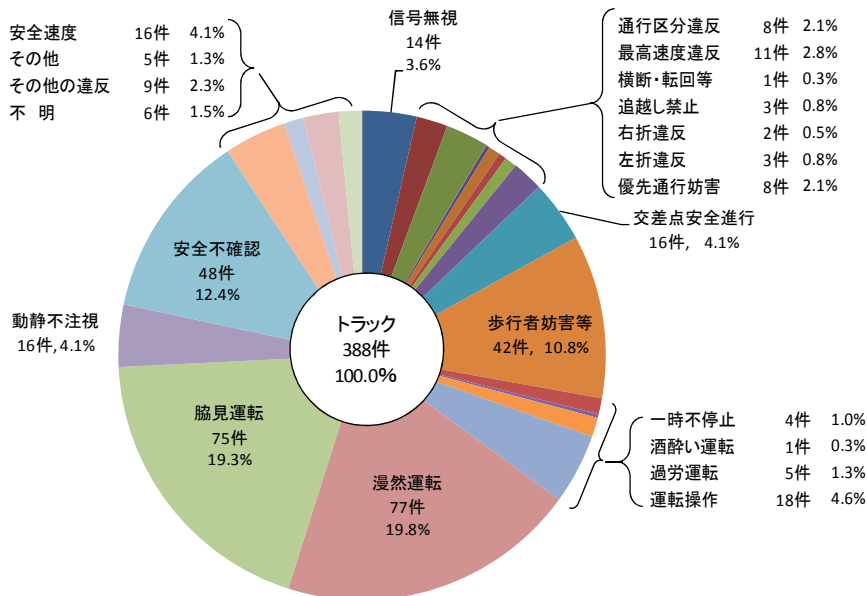


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 65 トラックの法令違反別の事故件数の割合

(8) トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

トラックでは、「漫然運転」77件 (19.8%)、「脇見運転」75件 (19.3%)、「安全不確認」48件 (12.4%)といった法令違反の死亡事故が多い。

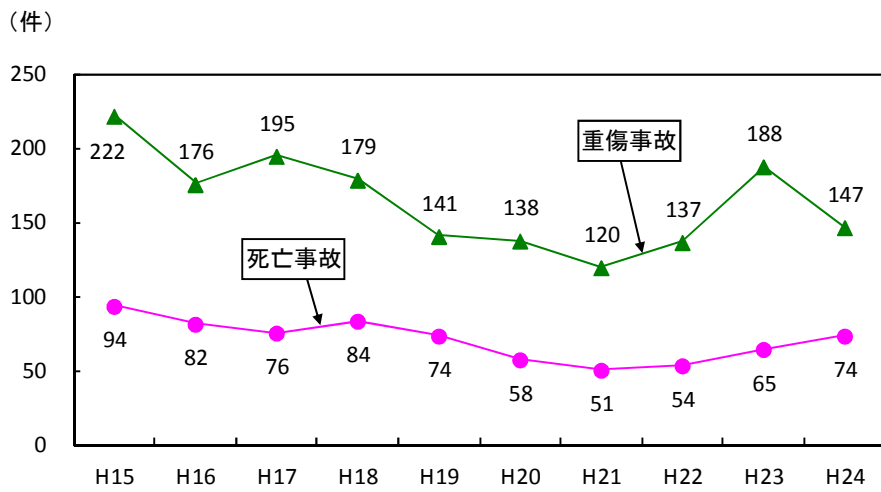


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 66 トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

(9) トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

トラックの高速道路における平成 24 年の死亡事故は、前年に比べ増加し74件だった。一方、重傷事故は147件と前年に比べ減少した。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 67 トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

(11) トラック追突の事故件数/死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

トラックの追突事故における時間帯別危険認知速度別追突死亡事故件数をみると、0時～6時の危険認知速度が高い。交通量が少なく、スピードを出して運転できる環境が要因ではないかと推察される。

表 38 トラック追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成 24年）

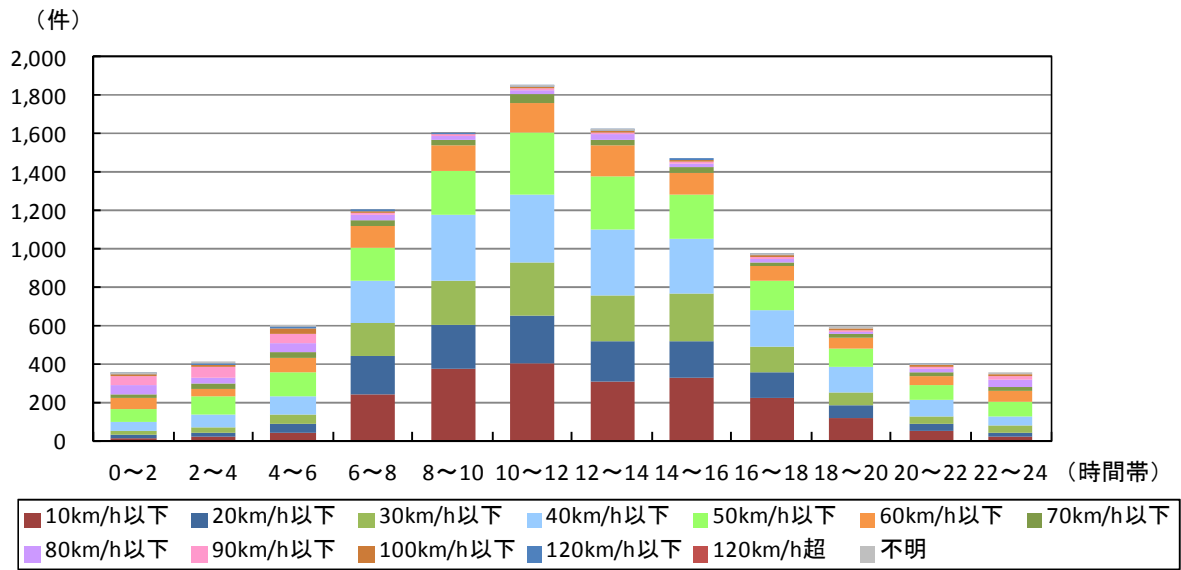
危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	12	23	38	243	376	403	308	323	220	115	50	19	2,130
20km/h以下	13	20	48	198	232	253	210	196	136	65	38	23	1,432
30km/h以下	27	28	47	172	224	269	235	247	131	70	40	32	1,522
40km/h以下	48	62	97	224	341	361	352	288	196	132	82	56	2,239
50km/h以下	65	93	121	171	232	323	271	233	146	96	75	74	1,900
60km/h以下	58	44	84	116	132	154	160	106	76	58	54	58	1,100
70km/h以下	19	27	23	26	33	42	33	30	21	17	14	21	306
80km/h以下	45	32	51	25	17	25	28	23	18	11	18	31	324
90km/h以下	45	51	49	13	11	11	11	10	13	13	11	26	264
100km/h以下	11	17	25	7	4	2	5	7	9	3	7	6	103
120km/h以下	4	2	7	1	2	1	1	1	1	0	2	0	22
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	2	3	3	0	0	2	1	0	1	1	1	1	15
合計	349	402	593	1,196	1,604	1,846	1,615	1,464	968	581	392	347	11,357

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 39 トラック追突の死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成 24年）

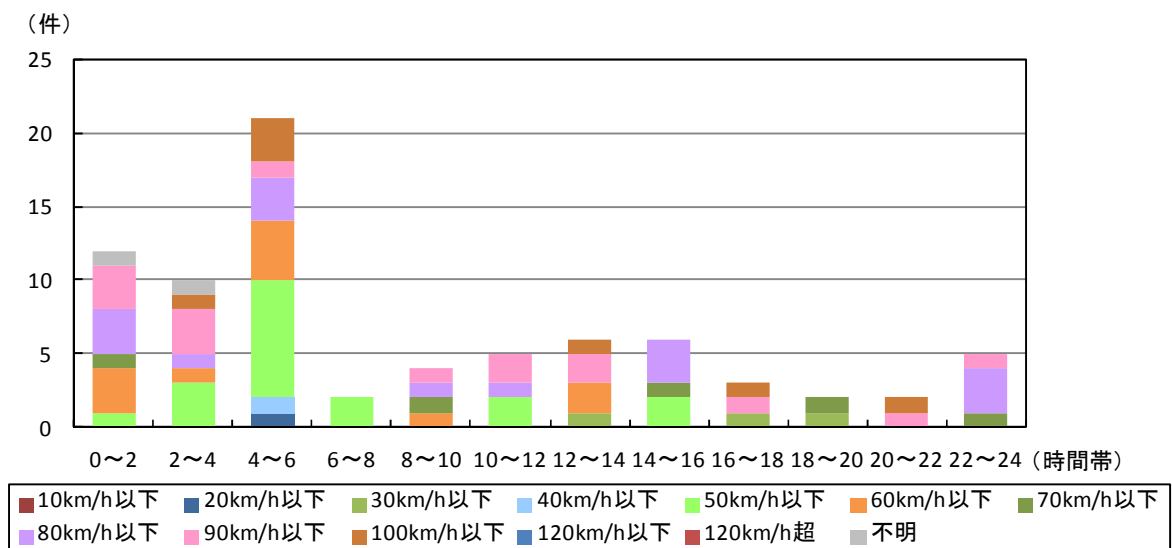
危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20km/h以下	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
30km/h以下	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
40km/h以下	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
50km/h以下	1	3	8	2	0	2	0	2	0	0	0	0	18
60km/h以下	3	1	4	0	1	0	2	0	0	0	0	0	11
70km/h以下	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	5
80km/h以下	3	1	3	0	1	1	0	3	0	0	0	3	15
90km/h以下	3	3	1	0	1	2	2	0	1	0	1	1	15
100km/h以下	0	1	3	0	0	0	1	0	1	0	1	0	7
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	12	10	21	2	4	5	6	6	3	2	2	5	78

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

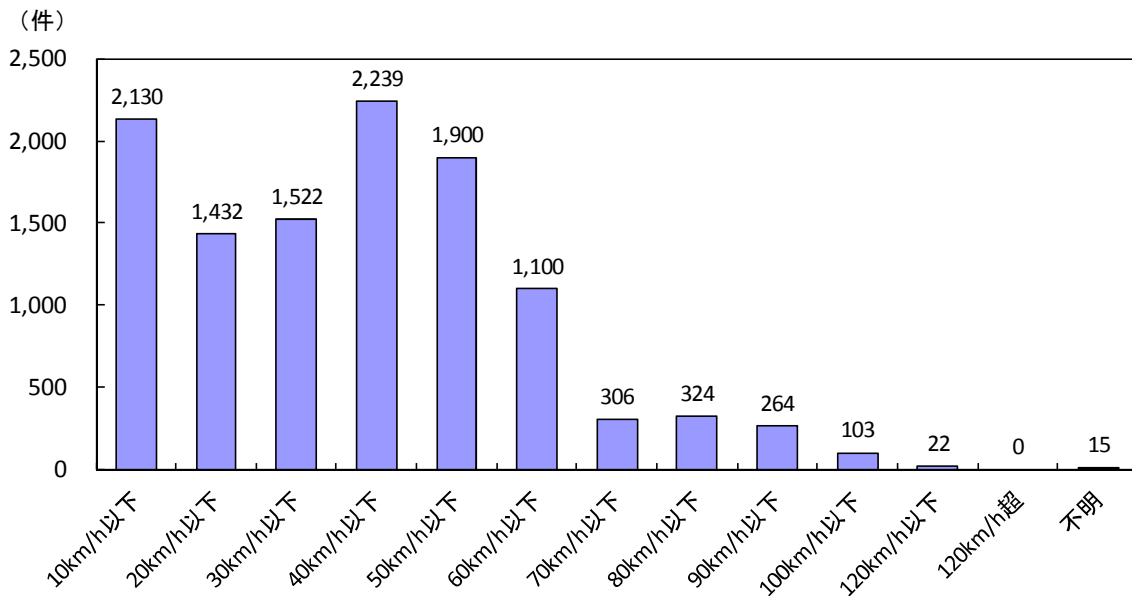
図 68 トラック追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (平成 24 年)



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

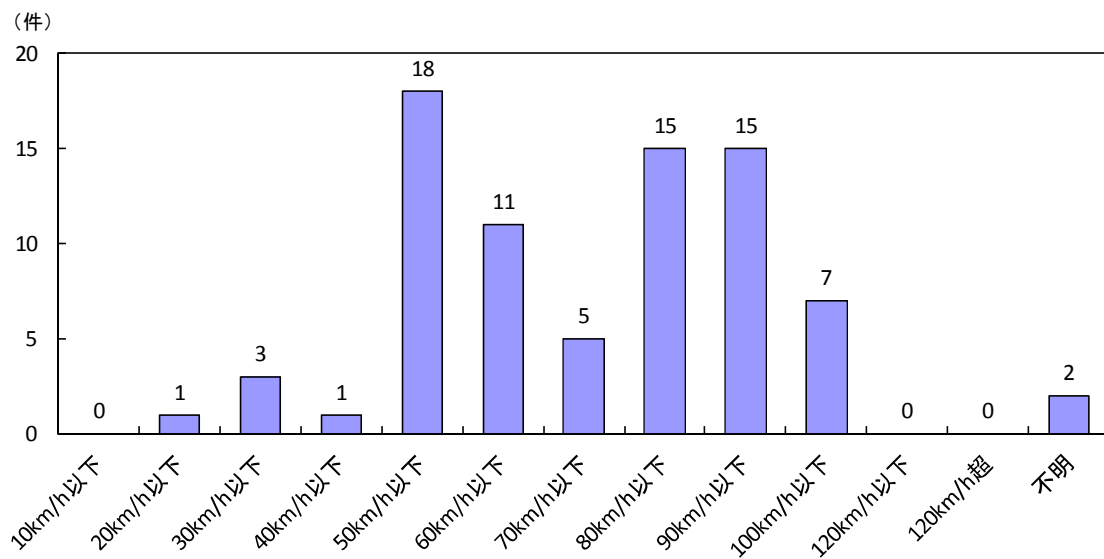
図 69 トラック追突の死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (平成 24 年)

トラックの追突事故における危険認知速度をみると、追突事故全体と比較して、追突死亡事故は、危険認知速度が高くなっている。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 70 トラックの危険認知速度別の追突事故件数（平成 24年）



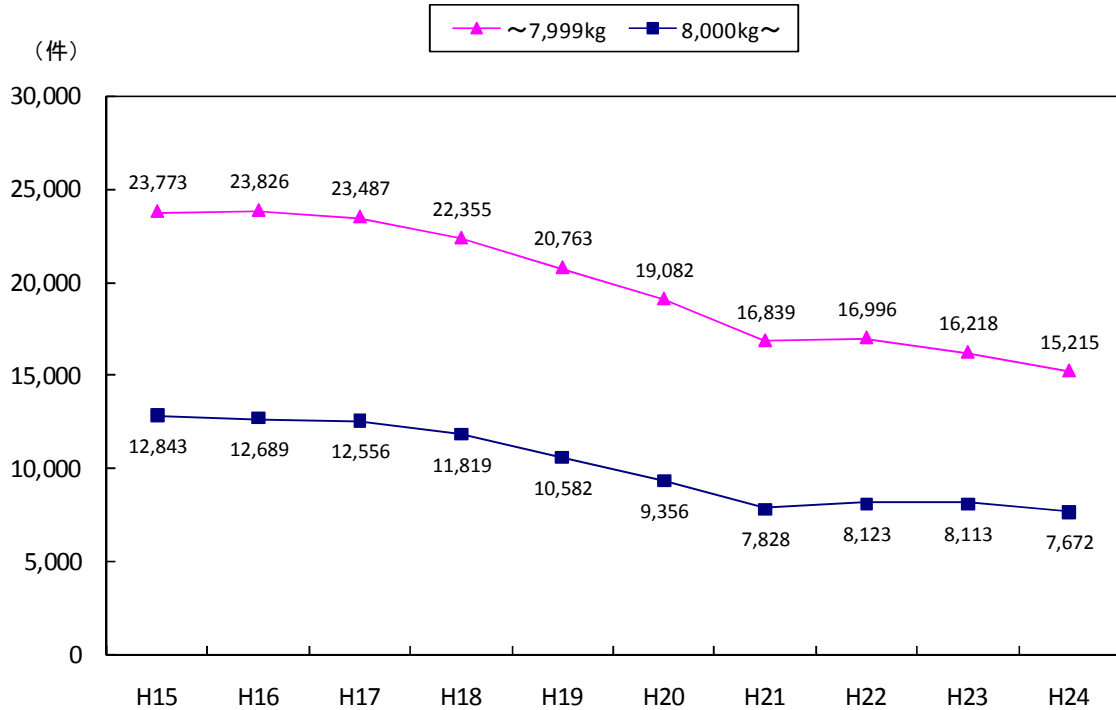
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

図 71 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（平成24年）

(11) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

① 交通事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに、平成21年までは減少傾向であり、8トン未満は平成22年以降減少傾向、8トン以上は横ばいとなっている。



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
(一財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

図 72 トラックの車両総重量別交通事故件数の推移

表 40 車両総重量別交通事故件数の推移 (件)

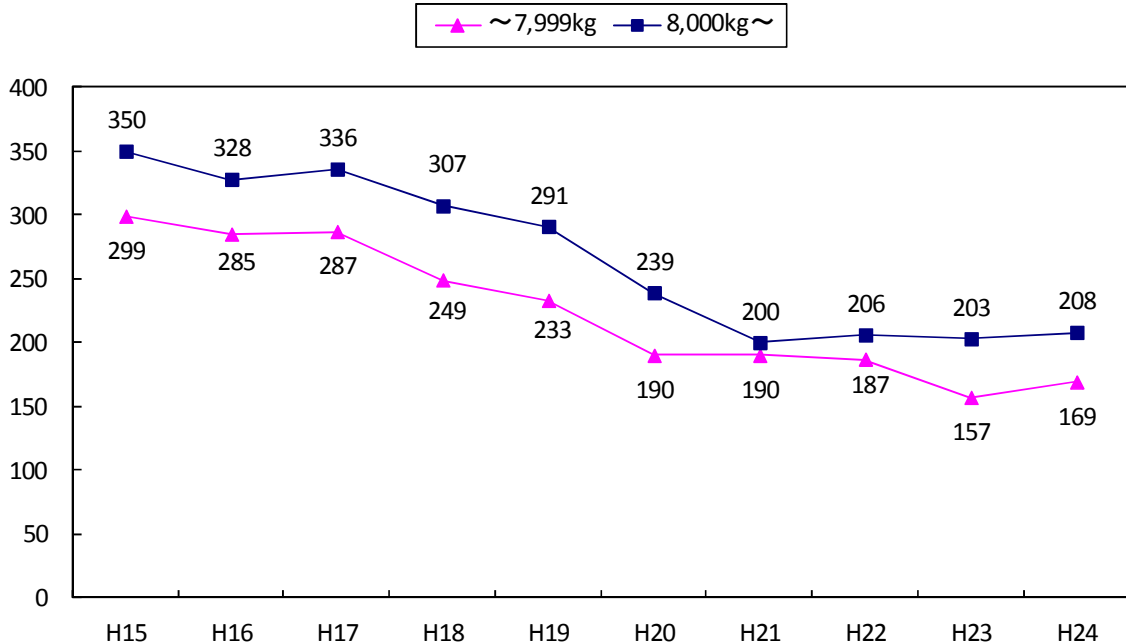
年	交通事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H15	23,773	12,843	36,616
H16	23,826	12,689	36,515
H17	23,487	12,556	36,043
H18	22,355	11,819	34,174
H19	20,763	10,582	31,345
H20	19,082	9,356	28,438
H21	16,839	7,828	24,667
H22	16,996	8,123	25,119
H23	16,218	8,113	24,331
H24	15,215	7,672	22,887

注：合計は車両総重量不明を除く

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
(一財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

② 死亡事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満の車両、8トン以上ともに平成21年までは減少傾向にあり、それ以降は横ばいであるが、8トン以上の死亡事故が依然として多い。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

図 73 トラックの車両総重量別死亡事故件数の推移

表 41 車両総重量別死亡事故件数の推移（件）

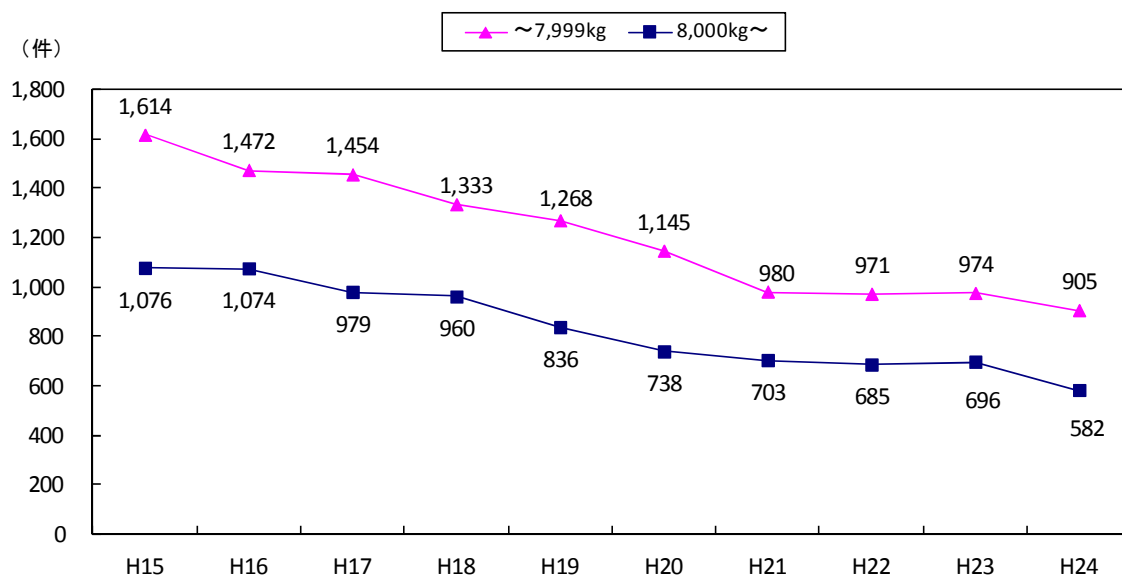
年	死亡事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H15	299	350	649
H16	285	328	613
H17	287	336	623
H18	249	307	556
H19	233	291	524
H20	190	239	429
H21	190	200	390
H22	187	206	393
H23	157	203	360
H24	169	208	377

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：合計は車両総重量不明を除く

③重傷事故件数

トラックの事故における重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、死亡事故の場合と同様に、8トン未満の車両が多くなっている。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

図 74 トラックの車両総重量別重傷事故件数の推移

表 42 車両総重量別重傷事故件数の推移（件）

区分 年	重傷事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H15	1,614	1,076	2,690
H16	1,472	1,074	2,546
H17	1,454	979	2,433
H18	1,333	960	2,293
H19	1,268	836	2,104
H20	1,145	738	1,883
H21	980	703	1,683
H22	971	685	1,656
H23	974	696	1,670
H24	905	582	1,487

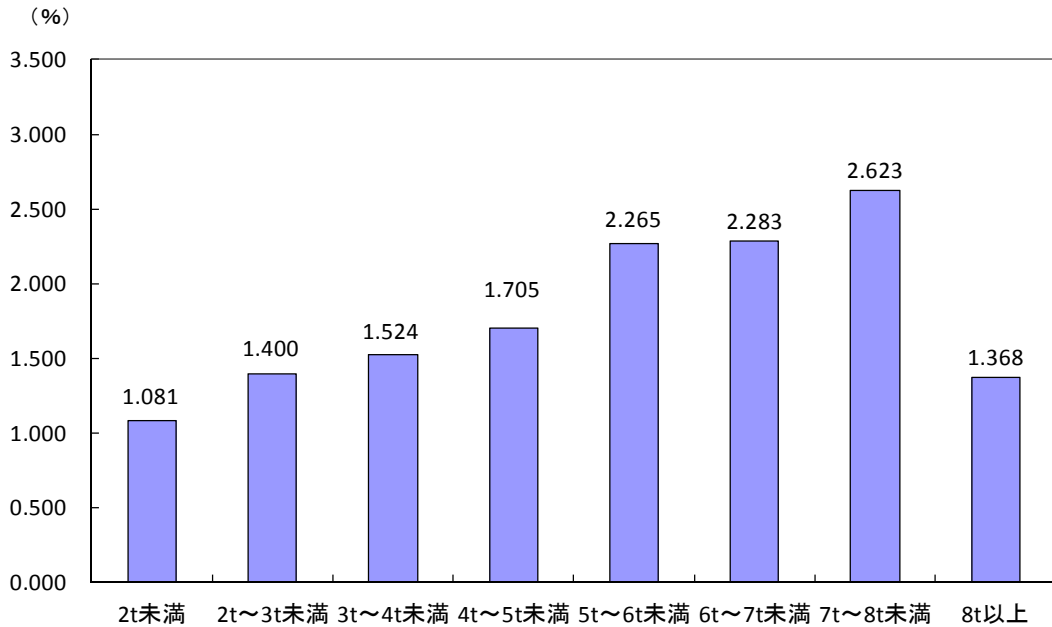
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

(12) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故件数

① 交通事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、7～8トン未満が最も高い。



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

図 75 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数（平成24年）

表 43 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数（件）（平成24年）

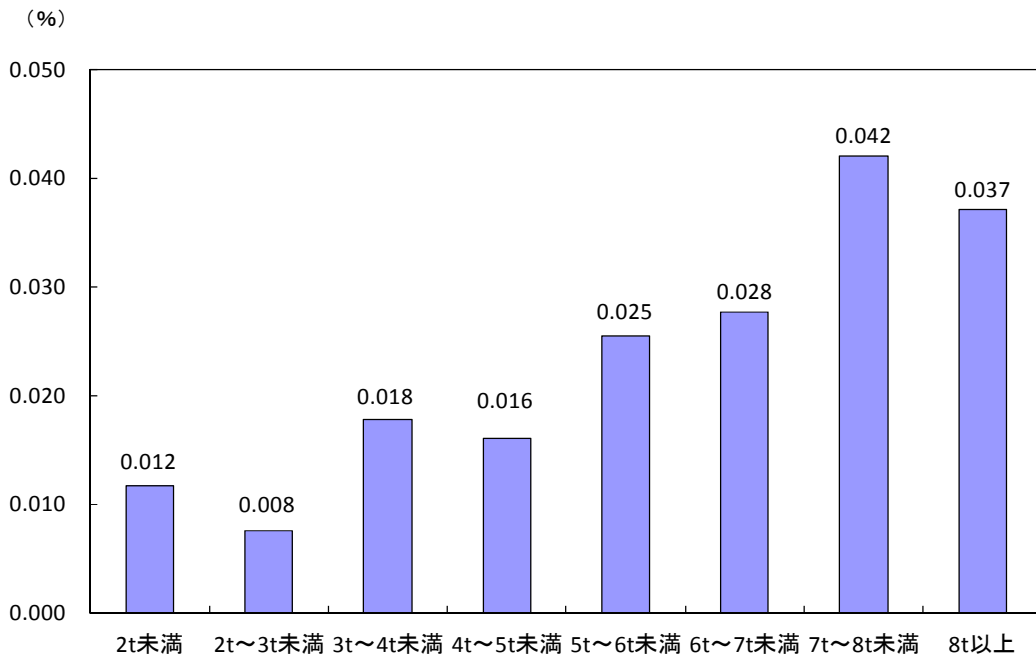
	事故件数	車両数(事業用)	発生率
2t未満	93	8,601	1.081%
2t～3t未満	185	13,218	1.400%
3t～4t未満	514	33,718	1.524%
4t～5t未満	1,488	87,272	1.705%
5t～6t未満	1,867	82,439	2.265%
6t～7t未満	1,072	46,959	2.283%
7t～8t未満	6,300	240,198	2.623%
8t以上	7,672	560,785	1.368%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

② 死亡事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡事故発生率は、7～8トン未満が最も高い。



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

図 76 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数（平成 24年）

表 44 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数（件）（平成 24年）

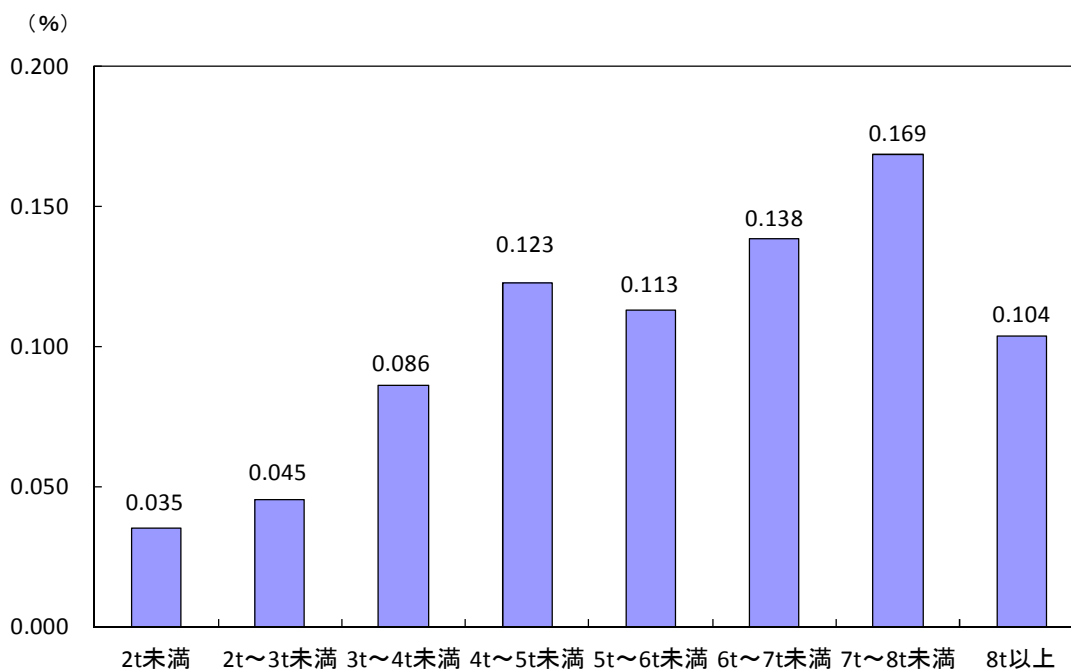
	死亡事故件数	車両数(事業用)	発生率
2t未満	1	8,601	0.012%
2t～3t未満	1	13,218	0.008%
3t～4t未満	6	33,718	0.018%
4t～5t未満	14	87,272	0.016%
5t～6t未満	21	82,439	0.025%
6t～7t未満	13	46,959	0.028%
7t～8t未満	101	240,198	0.042%
8t以上	208	560,785	0.037%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

③ 重傷事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、7～8トン未満が最も高い。



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

図 77 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数（平成 24年）

表 45 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数（件）（平成 24年）

	重傷事故件数	車両数(事業用)	発生率
2t未満	3	8,601	0.035%
2t～3t未満	6	13,218	0.045%
3t～4t未満	29	33,718	0.086%
4t～5t未満	107	87,272	0.123%
5t～6t未満	93	82,439	0.113%
6t～7t未満	65	46,959	0.138%
7t～8t未満	405	240,198	0.169%
8t以上	582	560,785	0.104%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」